

村田学園百周年記念誌

村田学園百周年記念誌

題字 佐々木裕紀子

村田学園 讃歌

作詞 高橋 掬太郎
作曲 江口 夜詩

千代田の森の風うけて
伸び行くものに光あり
経理の学をこゝに説く
歴史は長し わが学園
村田 村田 仰ぎて呼ばむ

清かにはじく 珠の牙え
磨きて床し 智のこころ
算学究め 世に尽くす
信は剛し わが学園
村田 村田 矜りて呼ばむ

計あるところ 希望あり
学びて開け 幸の扉を
道ひと筋に 貫ける
誉は高し わが学園
村田 村田 讀えて呼ばむ

村田女子高等学校 村田学園小石川女子中学校 校歌

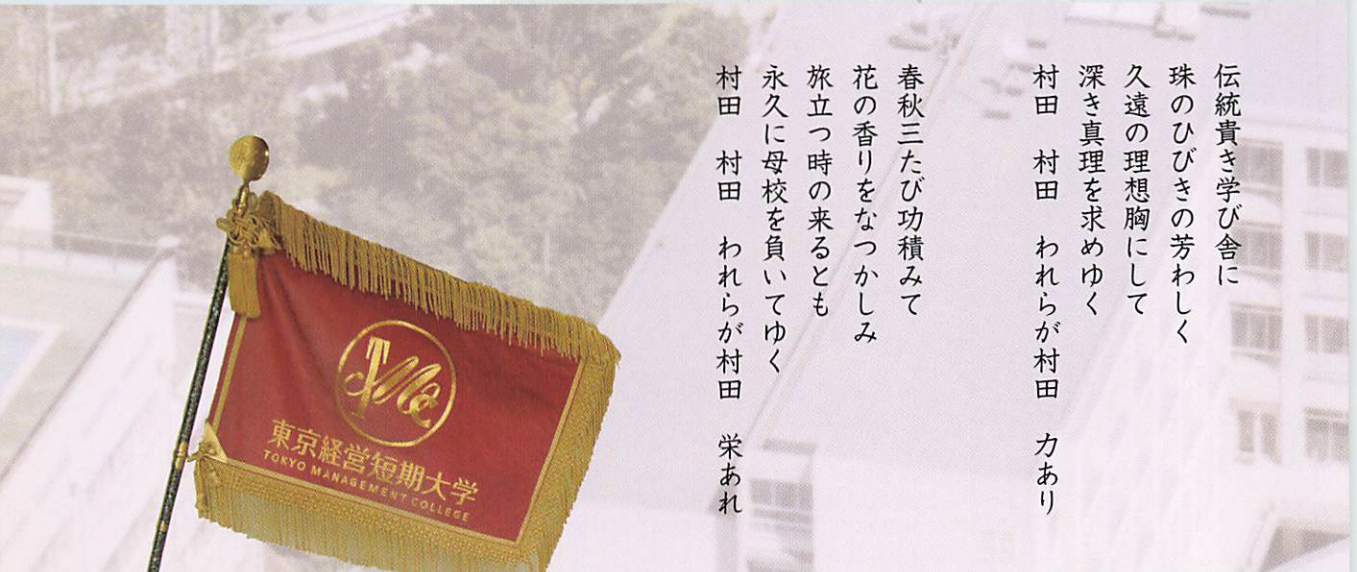
作詞 村田 謙造
作曲 山口 俊郎

その名も床し文京の
紫繚の丘の乙女らは
自由と自治を培いて
明日なすわざをみがきゆく
村田 村田 われらが村田 希望あり



東京経営短期大学 校歌

作詞 古荘 元康
作曲 佐藤 菊夫



伝統貴き学び舎に

珠のひびきの芳わしく

久遠の理想胸にして

深き真理を求めゆく

村田 村田 われらが村田 力あり

春秋三たび功積みて

花の香りをなつかしみ

旅立つ時の来るとも

永久に母校を負いてゆく

村田 村田 われらが村田 栄あれ

遠く富嶽を 望み見て

明けゆく空に 翻翻と

青雲の旗 今ひるがえる

ああ友よ こころざしを

ともに結び ともに遂げん

見よや見よ 我等の輝く軌跡

東京経営 これぞ その学府

大海原に 昇る日の

光を受けて 朗朗と

躍動の歌 今鳴り渡る

ああ友よ 新世紀を

ともに拓き ともに生きん

聞けや聞け 我等の轟く凱歌

東京経営 これぞ その学府

村田 謙造 先生

近代商業史に不朽の足跡を
残した稀世の教育者



明治20年1月2日、山口県下関市生まれ。下関商業学校、大阪高等商業学校2年修了。明治42年、「銀行会社事務員養成所」を創立。多くの有能な人材を輩出し、簿記の普及に努めるとともに、各種団体の要職を歴任し、職業技術教育の近代化に貢献する。昭和50年3月23日死去。享年88。

「簿記は、すべての国民が、常識として、きちんと学んでおくべきである」という教育理念と、「計算五訓」をもとに「銀行会社事務員養成所」を二歳の折に設立、明治・大正・昭和の三代にわたり、その信念

を貫き通して商業教育界の牽引車としての役割を果たしてきた。

算盤（ソロバン）の革命とまで言われた「村田式計算器」や検定試験の練習に用いる「村田式算票」の考案、また、簿記・珠

算の講師として数々の学校関係の指導をはじめ、諸官庁、会社、団体への出講で、簿記・珠算の振興に寄与した。特に昭和期に入って日本各地で開催されるようになった珠算競技大会では、その指導者として招聘され正に東奔西走であった。のちに、日本商工会議所の珠算能力検定試験の生みの親として、その施行に役立った珠算界の連絡機関「五一会」の結成に発起人として名も連ねている。

天性の美声が謡曲、剣道、自彊術等さらけに磨かれ、明瞭さと正確さで読上算、読上暗算の担当者としては第一人者であった。昭和十一年の日本商工会議所主催「第一回全国珠算競技大会」がラジオで全国中継されたり、あるいは算盤が米国のニュース映画で海外に紹介されたりした際の名調子は謙造先生であった。圧巻は、昭和二十二年に発売された当時としては珍しい「珠算能力標準レコード」である。文部省認定を得た算盤のレコードは、先生の美声とともに全国で珠算を学ぶ人々のよき師範役とし

て重宝がられた。

簿記に関する著作も多く、大正一〇年「最新商業簿記表解と公式」（大阪屋書店）をはじめ、昭和一三年までに九冊を上梓、簿記参考書類の少ない時代に脚光を浴びた。昭和三〇年には、北海道札幌市内に開校した「北海道簿記専修学校」からの協力要請を快諾し、校長として迎えられ五年間の責

務を果たしている。

関東大震災、第二次大戦での二度にわたる校舎の焼失、加えて村田簿記学校においては隣家からの出火による類焼など、災厄のたびにそれを乗り越え校舎を再建した。教育に対するあくなき情熱で、校舎再建という一念を遂げたのである。書を愛し、蘊奥を究めた腕前は多くの

「書」を残している。座右の銘である「有算者勝」を揮毫し、墨痕鮮やかに書かれた一筆は高等学校の体育館に彩りを添え、生徒に親しまれた。

明治気質を維持しつつ、各時代に順応しながら人間味溢れる教育に終始した行動は、常に絶賛されるとともに、商業教育面に多大の功績を残している。

〈役 職〉

昭和10年12月	東京商工会議所簿記検定試験常任委員
昭和11年 9月	日本商工会議所、東京商工会議所より全国珠算競技大会専門委員
昭和24年 8月	日本各種学校総連合会常任顧問
昭和26年 3月	千代田区各種学校協会初代会長(28.3迄)
昭和29年 5月	東京都私立学校審議会委員(37.5迄)
昭和29年 6月	東京都法人立各種学校協会初代会長(33.9迄)
昭和29年 8月	全国私立学校審議会連合会常任委員
昭和31年 3月	全国経理学校協会会長(33.12迄)
昭和31年 4月	東京商工会議所簿記検定試験常任委員
昭和31年 4月	鉄道弘済会嘱託(40.3迄)
昭和32年11月	東京都私立各種学校協会相談役
昭和33年 4月	財団法人私立中学高等学校協会監事
昭和34年 1月	社団法人全国経理学校協会理事長(36.4迄)
昭和34年11月	全国各種学校総連合会相談役
昭和36年 4月	全国商業高等学校協会常任理事
昭和36年 5月	社団法人全国経理学校協会相談役
昭和38年 3月	社団法人・学校法人維持基金財団常任理事
昭和39年 8月	千代田区特別職報酬等審議会委員
昭和40年10月	千代田区民生委員推薦委員長
昭和42年 6月	千代田区代表監査委員(49.4迄)

〈栄 誉〉

昭和15年10月30日	教育勅語頒布50年に文部大臣より表彰を受ける
昭和20年 2月11日	実業教育振興中央会長より表彰を受ける
昭和25年 2月22日	私立学校法制定祝賀祭典に永年勤続者として表彰を受ける
昭和25年 5月 3日	憲法発布記念の佳辰にあたり、簿記・珠算の権威として、実業教育の振興に貢献した功により藍綬褒章を受章
昭和28年 5月13日	学制80周年記念式典に教育功労者として文部大臣より表彰を受ける
昭和29年10月28日	東京都産業教育70周年記念に際し、産業教育の功労により表彰される
昭和39年 5月16日	公益のため私財を寄付した功により、紺綬褒章を受章
昭和40年 4月29日	春の叙勲に際し、勲三等瑞宝章を受章
昭和40年10月11日	東京都産業教育80周年記念にあたり、産業教育に対する功績顕著として東京都知事より表彰を受ける
昭和40年10月11日	東京都産業教育振興会会長より表彰を受ける
昭和40年11月 3日	産業教育に尽瘁した功績により、産業教育振興中央会会長より表彰を受ける
昭和40年11月10日	産業教育80周年記念式典に際し、教育功労者として文部大臣より表彰を受ける
昭和45年11月26日	公益のため私財を寄付した功により、紺綬褒章に付する飾板を下賜される
昭和50年 3月14日	昭和天皇より銀盃を下賜される
昭和50年 3月23日	正五位に叙せられる

村田照子先生

凜として
愛情あふれる教育を貫いた生涯



大正15年4月11日、山口県下関市生まれ。東京女子大学数学科を経て明治大学商学部卒業。村田女子商業高校の教員となり、昭和50年、創立者の遺志を継いで村田学園理事長、村田簿記学校及び村田女子商業高等学校の校長に就任。学園経営のかたわら、各種団体において実務教育の振興に努める。平成18年6月19日死去。享年80。

昭和五〇年四月、父謙造先生を継承して理事長、校長の職につき、商業教育一筋の道を歩んだ。先生の教育は、「身につけた技能・知識こそ本物の宝である。なぜなら、その宝こそ習得した人を支え、助けてく

れる」が根幹で、「一般教養にプラスして、何か一つ専門技能を習得している女性」の育成に努めた。

村田簿記学校では、商業実務の資格取得指導を中心に、より広く門戸を開放した。

高等学校においては、普通科が偏重されるなかで、職業教育を主とする学科の必要性を「それぞれの目的に存在意義があり、相互の間に上下、優劣の関係は全くなく、またあつてはならない」と主張、進路指導に大きな風穴を開けた。

昭和二六年、「村田女子商業高等学校」と改称した高等学校は、その第一期生三四名を迎えた。それは照子先生の粉骨碎身の努力が実った結果であつた。知名度の低さ、木造平屋建ての校舎に加え、学校紹介のパンフレットさえもきちんと準備されていない状況で、都内の中学校を訪問、その数百数十校に及んだ。その上、第一期生の卒業年度における求人企業は皆無、生徒たちが途方に暮れるなか、生徒の履歴書を抱え企業の人事課へ「試験だけでも」と走り回った。折からの不景気で多くは門前払いであつたが、地道な努力の積み重ねで人事課の人たちが徐々に胸襟を開き、就職希望者は全員内定を勝ち取ったという。照子先生二九歳での若き行動力であつた。

明るい性格で、歯切れよく言うべきことをきちんと言うことから、生徒・保護者に好印象で、学園内のみならず、各方面にもカリスマ的な存在として知られるようになった。昭和四〇年頃からは、中学校での生徒・PTAを対象とした講演会が急増し、講演依頼が多い年で年間八〇校を超えた。自ら著した「高校へ進学を志す皆さんへ」と題した小冊子を配布し、商業科の必要性、高校進学の意味、進路選択の在り方、私立学校の立場などを述べた。講演中、村田女子商業高等学校という言葉は自己紹介での僅か一回で、決して自校のPRをすることではなかった。このような終始一貫した態度は、中学校の先生方にも快く受け入れられ、その後の生徒募集に追い風となった。

進学指導で切り捨てられた中学生にも「宝を持たせて社会へ送り出したい」と、村田簿記学校に高等課程を開設する。常々提唱していた「人間に落ちこぼれなどはない。同じ桜の開花でも南から北まで二ヶ月

以上の違いがある。人間も同じで、早く芽が出る者、遅い者、世の中に出てから開花する者さえいる。いつ芽を出し花が咲いてもいいように、しっかりとした土壌を作ってあげたい」という想いを具現化したものであった。また、商業実務をさらに深く学びたいという意欲に燃える商業高校の生徒たちの希望を叶えようと、短期大学の設立に踏み切った。五年間一貫教育の構想が練られ、それを実践に移す努力が続けた。それは、商業教育の質の向上に役立てようとする理想の実現であった。

「率先垂範」を信条とし、常に生徒や保護者と向き合う姿勢を崩さなかった。長期間に及ぶ北軽井沢教室でも休むことなく料理長に徹し、生徒と若い教員への指導に力を注いだ。また、相手の話を聴くことがうまう、特に教育面でその才能が遺憾無く発揮されていた。正に「聞き上手は話し上手」であった。

文才にも恵まれ、高校新聞「ひさかた」、

簿記学校新聞「かわら版」にコラムを書き続けた。「ひさかた」は「村田照子先生随想集」（一〇〇号記念・平成一六年）に、多くの在学生・卒業生が楽しみにしていた毎年の寒中見舞は「歳月の詞」（喜寿記念・平成一五年）にまとめられている。

私立学校の原点を見据え、村田学園の特色を活かした教育活動に邁進し、商業教育界に偉大な足跡を残した生涯であった。

《役 職》

昭和54年3月	千代田区教育委員会委員(58.3迄)
昭和54年5月	全国商業高等学校長協会常務理事
昭和55年6月	東京都産業教育振興会理事
昭和56年5月	財団法人産業教育振興会中央会評議員
昭和56年5月	全国商業高等学校長協会副理事長
昭和56年6月	財団法人東京都私立学校教育振興会評議員
昭和57年6月	社団法人東京都専修学校各種学校協会常務理事(62.5迄)
昭和59年6月	全国専修学校各種学校総連合会常任理事
昭和59年6月	財団法人専修学校教育振興会理事
平成 2年6月	社団法人東京都専修学校各種学校協会会長(6.5迄)
同	全国専修学校各種学校総連合会副会長(6.6迄)

《栄 誉》

昭和58年10月	1日	学校教育功労者として、東京都知事より表彰を受ける
昭和59年11月	20日	産業教育功労者として、文部大臣より表彰を受ける
昭和60年	7月 1日	専修学校教育功労者として、文部大臣より表彰を受ける
昭和61年	4月29日	春の叙勲に際し、実業教育の振興に貢献した功により藍綬褒章を受章
平成12年	4月29日	春の叙勲に際し、永年に亘る私学振興への功により勲四等宝冠章を受章



亀田 光昭 理事長

昭和18年12月22日生。東京理科大学理学部化学科卒業。理学博士。

昭和42年より、川村中学校・高等学校にて教鞭を執る。

昭和50年より、川村短期大学・川村学園女子大学で教える。

昭和51年～61年、川村学園で教鞭を執りながら、米国・ユタ大学の
リサーチフェローとして研究を行う。

平成16年4月、財団法人科学技術振興会理事長就任。

平成18年4月、東京経営短期大学学長就任。

平成18年6月、学校法人村田学園理事長就任。

平成19年4月～平成21年10月、専門学校村田経営義塾校長。



「算数無私情」

「算数ニ私情無シ」と訓じ、「およそ経理にたずさわる者は私情を交えてはならない」の意である。



「有算者勝」

「算有ルハ勝ツ」と訓じ、「算学計理の心得ある者は、人にまさる」の意を表す。これを広義に解釈すると、「ものごとに緻密な計画性をもってあたるならば、必ず成就する」の意である。

現在の学園



村田女子高等学校校舎
村田学園小石川女子中学校校舎
(文京区本駒込)



神保町ビル (千代田区神田神保町)





東京経営短期大学校舎
(千葉県市川市二俣)



市川グラウンド (千葉県市川市二俣)



北軽井沢高原寮 (群馬県)

村田記念館 (東京経営短期大学内)



思い出の創立八〇周年記念式典（1989年）



目次

御挨拶

学校法人 村田学園理事長

亀田 光昭

14

祝 辞

学校法人村田学園元理事、日本公認会計士協会相談役（元会長）
静岡県立大学大学院客員教授、会計学博士

川北 博

16

学校法人村田学園理事、財団法人東京都私学財団理事長
学校法人東京女子学院理事長、東京女子学院中学高等学校校長

酒井 淳

第一章 村田学園のあゆみ

村田学園の萌芽／開花する村田学園／村田学園百年史
年表

19

第二章 村田簿記学校 専門学校村田経営義塾のあゆみ

歴代校長／村田簿記学校／村田簿記学校経理高等課程
／専門学校村田経営義塾／略年表

53

第三章

村田女子高等学校
村田学園小石川女子中学校のあゆみ

93

歴代校長／村田女子高等学校／高等学校の教育課程
／高等学校の年間行事／高等学校・中学校の施設設備
／高等学校のクラブ活動／高等学校の進路指導／村田学
園小石川女子中学校／略年表

第四章

東京経営短期大学のあゆみ

133

歴代学長／学長・学科長に聞く／東京経営短期大学
／現在／特色／社会の中の短期大学／学生生活／設備と
環境／略年表

職員名簿（平成二二年度）

172

村田学園創立百周年記念事業概要

173

村田学園謙照会

175

〈口絵〉

校歌・校旗／村田謙造先生／村田照子先生／亀田光昭理事長／「有算者勝」
「算数無私情」／現在の学園

学校法人 村田学園理事長 亀田 光昭

学校法人村田学園（旧村田簿記学校）は、ここに百周年を迎えることができました。明治四十二年（一九〇九）、創立者村田謙造先生は、神田一ツ橋通町にあった私立春育小学校の校舎を借用して、学園の礎となった「銀行会社事務員養成所」を開き、大正一〇年（一九二一）には神田区仲猿楽町（現千代田区神田神保町）に新築移転し、校名を「村田簿記学校」と改称しました。

村田謙造先生は、国家の要も、企業の要も、また一家庭の要にいたるまで、その基幹をなすものは健全なる計画のもとで行われる経理処理であることに着目し、経理教育が国民常識として普及されることを終生の仕事として実践されました。

爾来百年、この創立の理念は、創立者の長女である村田照子先生という良き協力者であり、かつ有能な指導者に引き継がれ、そのもとで育まれた多くの教職員の手によって、今日まで守り育てられてまいりました。

この創立理念をもとに本学園は現在、「村田簿記学校」を継承・改革し、時代の求める人材の育成に努める東京経営短期大学と、村田女子商業学校を改組発展させてキャリアデザインの構築とサイエンスレディ（論理的思考のできる女性）の育成を目指す村田女子高等学校並びに村田学園小石川女子中学校の、三つの学校を擁しております。

創立者村田謙造先生、その後継者で良き理解者でもあった村田照子先生は、社会に貢献できる人材の育成を教育目標として掲げてこられました。それが具現化されたものが、珠算能力検定試験を初めとする多くの能力検定制度であります。その普及は、お二人の強い信念と、その人格・人柄の魅力に集ってきた多くの教職員の地道な活動があったればこそと言えましょう。そこには、教育目標と学生・生徒一人ひとりの夢が合致するところこそが教育の究極の使命であるとの強い信念がありました。

本学園の校舎は、創立以来長年神田神保町と小石川区久堅町に位置しておりました。そして、関東大震災と第二次世界大戦において、共に火災焼失という試練の場に立たされたながらも、不屈の精神をもってその苦難を乗り越え、いずれも早期の再建を果たしました。百年を迎えた今日、本学園が有する校舎は、千代田区神田神保町、文京区本駒込、そして市川市二俣の三つであります。村田照子先生は特に後者二つの建設にあたっては、それがそこに学ぶ学生・生徒の夢の実現の場所でなければならないとの思いから、設計の段階から積極的にかかわられました。今日これらの校舎を巡る時、誰もがそこに込められた先生の思いに気づかれることと思います。

これまでの百年、本学園で学び巣立っていった同窓生は約三万人、それぞれの時代が求める実学をもって社会に貢献し、多方面にわたり活躍しております。私共教職員は学園の創立の理念を正しく継承し、在学生並びにこれから本学園を目指してくる学生・生徒達に対し、常に時代を見すえた教育の実践に邁進し、一人ひとりの夢の実現に引き続き精進してまいります所存であります。

(かめだ・みつあき)

祝辞



次の百年も 栄光ある展開を祈念します
川北 博

学校法人村田学園元理事／日本公認会計士協会相談役（元会長）
静岡県立大学大学院客員教授／会計学博士

村田学園は、村田謙造先生が、明治四十二年一月三日に「銀行会社事務員養成所」を神田・一ツ橋通町に設立されてから、明治・大正・昭和・平成と四代を経て本年に至り、創立百周年を迎えられたことは、正に世紀の慶事というべく、心からお祝い申し上げます。

わが国における新しい自由市場経済を形成する近代資本主義経済社会は、明治期においてその基礎が培われました。その形成に必須の簿記・会計に関する知識や素養は明治初期にアラン・シャンドや福沢諭吉によって伝えられていましたが、その後その継続的教育の場を村田学園が創設され、今日まで百年の長きにわたり、その伝統や使命を語り伝えてこられ、大きな社会的評価を受けてきました。

その間、昭和五〇年に立派な学園の基礎を創成された村田謙造先生が逝去され、村田学園理事長、村田簿記学校校長、村田女子商業高等学校校長の職は村田照子先生に承継されました。

こうして平成元年一〇月には、創立八〇周年記念式典が日本武道館において開催され、平成四年には、村田学園「東京経

営短期大学（経営情報学科）」が開学されましたが、現在では、この短期大学と村田女子高等学校、村田学園小石川女子中学校をもって学校法人が経営され、伝統的存在であった村田簿記学校は、その建学の精神と学校の理念とを東京経営短期大学が継承することとされました。

平成一八年六月一九日、御尊父村田謙造先生のあとを継承し、村田学園の最高責任者としてその経営に苦勞された村田照子先生が逝去されました。

私は平成五年に、長く理事・評議員の任にあった恩師井上達雄先生（元中央大学学長）のお世話により学園の理事・評議員に就任し、平成二〇年まで在任しました。私の理事就任時代は、正に日本の少子化時代が進み、平成時代に入ってから難局を乗り越えることは至難でした。

しかしそのなかにあつて、現在の理事長はじめ学校法人経営に携わる人達が、正に献身的努力を続けてこられたことに感謝し、次の百年への村田学園の栄光ある展開をお祈りしている所でございます。

（かわきた・ひろし）



建学の精神を活かし 新たな出発を 酒井 淳

学校法人村田学園理事／財団法人東京都私学財団理事長
学校法人東京女子学院理事／東京女子学院中学校高等学校校長

学校法人村田学園創立百周年、おめでとうございます。創立者村田謙造先生、その理念を引き継がれた村田照子先生をはじめ、学園にご支援ご協力賜った関係各位、陰に陽に学園を支えてくださっている方々に、深甚なる敬意を表します。

簿記を国民常識として広めることを目的に「有算者勝」「算数無私情」を教育理念として、創立者は、常に数の觀念に目覚めるよう強調され、一日の行動は、すべて時間で制限されている事実をあげられました。また、人生の出来事を具体的に表すならば、その大小、軽重、長短、高低などを数の力を借りれば、誰でも理解できるのではないかと、いかなる事実にしても、誠意をもってそれに当たるものは、重要な数字的基礎の下に、あらゆる計画、施設、観察等、いずれも数字の力にまたなければ十分な成果を得ることはできないと示唆されました。社会が進めば進むほど、ますます数字が重要であると主張されています。また、創立者は、「四ツ珠ソロバン」「速算」「暗算」の普及、日本商工会議所主催珠算能力検定試験を施行するなど、常に先導的志向を持って、社会に貢献されました。

私立学校は、他の国公私立では学べない、特色ある教育が実践されているからこそ、存在価値があります。村田学園は、創

立者の教育理念を教育の現場に活かしています。

顧みると、創立者村田謙造先生並びに村田照子先生との出会いは、昭和三六年当時、東京の女子の私立高等学校長の会「東京女子教育懇話会」だったと記憶しております。たまたまこの会の事務局のお手伝いをしていた時代です。ご承知のとおり、村田謙造先生は、剣道に造詣深く、古武士の風格が漂い、背筋を伸ばし、常に姿勢が良く、その上お洒落でセンスがよくダンディでいらつしました。晩年は聖路加病院に入院され、何度かお見舞に伺いました。村田照子先生は、若い時から白髪で、言語明瞭、単刀直入、理路整然とした発言を常にされました。また、私立学校の経営に携わる若手が集い、学校運営に関しての勉強会を先生のご自宅や理事長室をお借りして、店屋物を食べながら学んだことが昨日のように思い出されます。

目の中に入れても痛くないほど村田学園を愛され、全身全霊を教育界に捧げられた村田謙造、村田照子両先生は、私学人の誇りであり、宝であります。

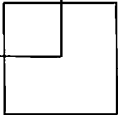
亀田光昭理事長を軸に、村田学園の創立理念、建学精神を活かし、新たな出発を機に、及ばずながら微力を尽す所存です。

(さかい・ひろし)



第一章

村田学園のあゆみ



村田学園の萌芽

商業教育のあけぼの

明治時代の教育事情

村田謙造が村田学園の礎を築いた明治時代の後期は、政府が統一国家を目指し、政治、経済、教育などをはじめあらゆる分野での「近代化」という目標が達せられた時期であった。

明治四年（一八七二）、文部省が設置され、教育行政の統轄により一年後には「学制」が頒布（注1）された。その基本理念は、「学問は身をたてる元手であり、武士のみではなく、農・工・商を営む人、あるいは婦女子にも等しく、実際に役立つ学問を身につける」という、言わば「実学の勧め」であった。学制が發布され、欧米の教育制度を模範として、先進諸国の学問・思想を導入した教育機関が設立された。しかし、この学制に謳われた商業を主体とする教育機関は一校も設立されず、単なる規定にすぎなかった。

模索を続けた教育体系

近代的な「国民」をつくりだす目的の学制ではあったが、定着するに従い、国民生活においてはあらゆる面で負担を強いる結果になった。そこで政府は、明治十二年（一八七九）に学制を廃止して、新たに「教育令」を公布した。教育令は小学校、師範学校に関する規定が主であり、それ以外の学校についてはほとんど触れておらず、実学からはさらに遠のいてしまった。

商業教育が中等教育のなかで浮上したのは、明治一七年の商業学校通則であった。通則では商業学校を第一種と第二種に分類し、第一種は自営業に従事する人、第二種はさらに高度な商業教育を身につける人を目標としていた。従って入学年齢も第一種は一三歳以上、第二種は一六歳以上とした。

明治一九年（一八八六）には教育令を廃し、帝国大学令、師範学校令、小・中学校令、諸学校通

（注1）頒布
法令などを世の中に広く行き渡らせようすること。

則などが公布^(注2)された。この小学校令により、はじめて小学校の就学義務化が実現したのであった。この法令により、学制での学校体系が整うことになったが、その後の教育令の改正を重ねることに、さらに教育改革が推進されたのである。

実業学校令の公布

明治二六年（一八九三）になると、産業の発展に伴い、実業補習学校が誕生し、実業教育の拡充が進むことになった。農業・工業・商業などの補習学校が小学校に付設されたが、農業以外は振るわなかった。その後、明治三二年に中学校令の改正とともに商業学校通則も廃止され、新たに実業学校令が公布された。実業学校令は「工業農業商業等ノ実業ニ従事スル者ニ須要ナル教育ヲ為スヲ以テ目的トス」と規定し、実業学校的重要性を打ち出したものであった。実業学校令に基づく商業学校規定によれば、中等実業学校はこれまでの一種・二種を廃止し甲・乙の二種が置かれ、甲種は一四歳以上、乙種は一二歳以上で、前者は高等小学校、後者は尋常小学校卒業程度の学力を要した。また、この時期に私立学校の設置が奨励・認可されるようになり、商業学校は急速に増えて

いった。

遅々として進まぬ商業教育

明治二七年（一八九四）から翌年にかけての日清戦争は、第二次産業の発展に拍車を掛けたが、同時に日本資本主義を形成し、日露戦争（一九〇四～〇五）への嚆矢となった。文明開化や産業の振興が図られ、商業学校が増加したにもかかわらず商業教育の遅れは否めなかった。特に都市部では、伝統的な徒弟制度や丁稚制度が名残をとどめていたからである。

商家では自己の財産を管理運営する手段として江戸期からすでに現在の複式簿記に相当する会計処理法が行われていた。複式簿記は明治初期に外国から導入されたものであるが、普及にはかなりの時間を要した。工業の発達に商業に先行したが、商家の近代化が進むにつれ、近代的商業教育機関（明治七年の大蔵省銀行学局、明治八年の商法講習所など）や甲・乙商業学校の科目に取り入れられ徐々に浸透してはいくものの、銀行員、会社員、商人の一部にとどまった。明治四五年までに、甲乙合わせて約一〇〇校に及ぶ商業学校が誕生しているが、だれもが簡単に入学できる環境で

(注2) 公布
法令などを公衆して一般の人に知らせ、その拘束力を発揮できるようにすること。

はなかった。また、明治四〇年代の職業別人口の統計をみても、農林業六一・七パーセントに対して、商業は九・五パーセントにとどまり、商業人口の少なさも商業教育の発展を妨げる一因であった。加えて「士・農・工・商」という江戸時代の基本的身分制度も根強く、商業教育無用論さえはびこっていた。日露戦争以後、国家財政の赤字が国民生活にまで響き、明治四〇年以降の恐慌がおよそ七年間に及ぶことも相まって、この時期は官民ともに窮地に追い込まれた。

産業の巨大化、疲弊する農村、様々な社会的混乱など、文明開化と改革の推進がもたらした時代の負の部分が表面化した暗い時期であった。

銀行会社事務員養成所の創立

簿記会計の普及を目指して

村田謙造が私塾「銀行会社事務員養成所」を開いたのは、明治四二年一月である。

設立趣旨は
簿記会計の知識技能を国民常識として
普及すること

であった。場所は、神田区一ツ橋通町二〇番地にある私立春育小学校^(注3)の校舎を借用した。この小学校は二軒続きの洋風木造二階建てで、当時は空き家になっていた。その南側二階建てを銀行会社事務員養成所が、また、西側二階建てを「私立中央工学校^(注4)」(当時)が借り入れ、両校はほぼ同時に開校を見た。

一ツ橋通町は、一番地から二二番地まであり、一本の道路を挟んで二つの区画から成っていた。一番地が一区画を構成し、そこには高等商業学校があった。二番地からの区画には、高等師範学校附属学校と音楽学校分教場が並び、二一番地には帝国教育会(現・日本教育会館)、さらに二二番地には共立女子職業学校(現・共立女子学園)があるという、言わば教育の町であった。

生徒で溢れた二〇坪の教室

銀行会社事務員養成所の授業料は四円、美土代町にあったほかの簿記学校の授業料が一円五〇銭だったというから、謙造には心中ひそかに期するところがあったに違いない。折からの不況で、生徒募集も困難な時代と思われていたが、授業を始めてみると、間もなく注目を集めるようになり、

貨幣価値の概算表

明治42年	当時の10円	現在の貨幣価値に換算すると…	約36,000円
大正2年			約34,000円
大正10年			約13,000円
昭和6年			約25,000円

(注3) 私立春育小学校
校長、小山雲璽(雅号)
当時木造二階建て、一〇教室、
約五三五平方メートル

(注4) 文部省令により、明治三十四年から大正八年まで、私立学校は「私立の文字を冠するもの」とされた。よって正式の校名には「私立」の二文字を付けた。
また、明治四二年当時、文部省訓令により校舎の新築は自費するように通達されていた。

生徒は日を追って増加、延べ二〇坪の教室は常に満員の盛況を呈していた。

のちに謙造は当時をふり返って

小さな建物で、あとからこしらえた学校が四円。私には自信がある。腕で来い、ソロバンでも簿記でも腕では負けないからと、そのウヌボレでね。普通はやれないでしょう。

と真情を吐露している。（昭和四一年度、村田簿記学校、卒業式式辞）

人格を磨く師弟一体の教育

また、謙造は簿記・珠算を教授するのみではなく、「人格を磨く」教育の必要性を感じていた。そのため銀行会社事務員養成所は、寄宿制をとった。やがて地方からの入学者も増え、寄宿舎に入りきれない生徒は自宅に下宿させ、文字どおり寝食をとにした師弟一体の教育が行われた。

当時のもようを卒業生、木村留七氏は次のように語っている。

昔は国民皆兵で男子二〇歳になれば徴兵検査を受け、甲種合格者は否応なしに兵役に服さなければならず、したがって兵役を終えてから生涯の仕事につくというのが一般的でし

た。私も除隊にあたり「さあ、なにをやるか」と思っていた折にちょうど「銀行会社事務員養成所」の看板が目にとまり、さっそく訪ねてみました。当時の先生はまだ三〇歳そこそこでしたが、いろいろと話をうかがっているうちに「師につくならこの先生だ」と惚れ込み、さっそく入門しました。

謙造先生は郷里の松下村塾にならい、全寮制で生徒と起居を共にして、学問と共に人間としての生き方を指導されました。規律正しい日常生活は、軍隊で経験済みでしたから、さほど苦にはなりませんが、簿記と商事諸般の勉強はかなりきつく大変でした。

また、朝起きてから夜寝るまでいつも先生と一緒にですから、学問以外のことも全て先生仕込みで、卒業の頃は先生の分身の如く、することなすこと、考えまで先生によく似てしまいました。（学父村田謙造先生を偲ぶ会「亡き先生を想う」）



謙造が奨励した自彊術(じきょうじゅつ)

激動の時代と共に

ソロバン(算盤)の普及に尽力

大正時代に入ると、第一次大戦の勃発とともに日本資本主義経済は飛躍的な発展をとげた。とくに重化学工業がいちじるしく成長した反面、西欧文明の模倣にすぎない明治文化に対する疑念が広がっていった。

産業の発展にともない、にわかに必要性をおびてきたのは「財務会計」を基幹とする商業知識であった。福沢諭吉が翻訳・出版した簿記書の先駆とされている「帳合之法」に登場する「算用」(算勘を精細、確実にし、経理を誤らざること)を実践するには、正確ですばやい「計算力」が重要になってくる。江戸時代の町(商)家の子供達は寺子屋に通い、手習いを中心に、「読み・書き・ソロバン」の基礎教育を受けていたが、明治の学制では算盤は姿を消し、のちに復活はしたもののそれが尾を引いて算盤の普及は遅れていた。

とくに都市部での遅れはひどく、町(商)人の見栄と何よりも良い指導者の数が極端に少ないの

が一因であった。

そこで謙造は、計算術の練習の奮起と算盤活用の必然性を呼びかける目的で珠算奨励会をつくり、第一回珠算競技大会を開催した。その努力が結実し、大会一ヶ月後には「村田速算学校」の併設に至った。

村田簿記学校開設と関東大震災

大正一〇年四月、銀行会社事務員養成所は神田区仲猿楽町に新築移転し、校名を「村田簿記学校」と改称し開校した。手狭になったこれまでの校舎からの脱却であった。やがて、「公私の会計担当および実業に従事せんとする者のために、簿記・会計・珠算・税務に関する知識技術を授け」とともに、実社会における必要な教育を施す」という目的が、商業の近代化を望む当時の社会に浸透していき、入学希望者は増加の一途をたどったのであった。

隆盛を極めた村田簿記学校ではあったが、大正一二年九月一日の関東大震災には打ち勝つことができなかった。マグニチュード七・九の震度とちようど昼食時であったため、同時に発生した大火災とで南関東一円を中心に大きな被害をこう



大正14年珠算競技大会

むった。焼失家屋四万七〇〇〇余戸、倒壊家屋一二万戸、死者一〇万余名という恐るべき数字を残した。当日は土曜日だったため、生徒はほとんど登校しておらず、人的な被害や校舎の全壊はまぬがれたが、わずかな重要書類を運び出すのみで灰燼に帰してしまった。

政府はこの未曾有の大災害に対し、震災復興計画を遂行したが、政治、経済、社会に与えられた打撃はあまりにも大きく、各方面は混乱をきわめていた。そんななかにあつて、村田簿記学校は、一年一ヶ月後には木造二階建ての校舎を再建、授業再開に漕ぎつけたのである。

神田に新校舎設立

時代は昭和に移り、昭和二年三月から始まった金融恐慌によって景気はますます悪化した。しかし、謙造はその頃二つの大きな計画を立て実行に移していた。一つは新校舎の建設と、二つ目は女子教育を目的とした新学校の創設である。

村田簿記学校は、昭和四年一月仲猿楽町一七番地から一番地に移転し、近代的な三階建てコンクリート校舎を新築、拡張させた。この校舎は生徒を本位とする考えから、創立者自らが設計した

ものであり、神田界限での一大偉観であったという。当時の時代背景を考慮すると、まさに「不屈の精神力」と言えよう。

女性の社会進出を支援

大正末期から昭和の初頭にかけて、中等教育を目標とした商業学校の増加がみられる。商業教育に対する認識を新たにした政府（教育界）の方針転換によるものと思われる。甲種については文部省直轄的な色合いが濃かったが、乙種商業学校の許認可権は知事であった。

女子教育が制度上で確立したのは、明治三二年の高等女学校令である。高等女学校の入学年齢は高等小学校卒業程度と規定され、中学校と同等ではあったが、教育内容に差異が生じ入学者は多くはなかった。良妻賢母を育てるという方針から、修身、道徳、裁縫などが占める時間が多かったためである。

女性の社会への進出、職業的自立を望む風潮が盛んになってはきたが、養成機関は女子師範学校のみと言っても過言ではない時期であった。

そこに、独自性のある発想をもった「私立の専門教育機関」が登場した。明治三二年頃から活発



昭和4年新築校舎

に活動を展開した私学の女子教育機関は、現在の女子大学にその歴史を残している。

村田女子計理学校開校へ

謙造はかねてから「新時代の女子に必須な経済知識と計理上の技術とを修得させ、家庭に、職場に、修養と手腕と実行力とを具備する練達有為の婦人を養成する」ことを念願としていた。そこで、親交があり、女子職業教育の草分けとして知られる嘉悦孝氏の助言と勧めもあって、女子職業学校の設立に踏み切った。村田女子計理学校は村田簿記学校に併設され、昭和六年四月に開校の運びとなった。

開校当時の入学案内を見ると

修業年限 四ヶ年制女子商業

入学資格

第一学年は尋常小学校卒業者、
第二学年は高等小学校または高等女学校各一年修了者、第三学年は高等小学校卒または高等女学校二年修了者

募集人員

第一学年一五〇名、第二学年若干名、第三学年若干名

となっている。明治四〇年に小学校令が改正とな

り、この頃は尋常小学校（義務教育）六年、高等小学校二年となっていた。この学校は、村田簿記学校女子部的な存在であったが、昭和八年、東京府知事より乙種女子商業学校としての認可を受け、より学校としての体を成した。

尾崎罌堂から贈られた「有算者勝」

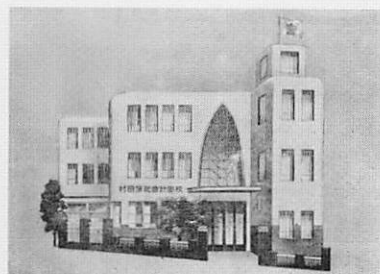
村田女子計理学校を開校するにあたり、孤高の政治家として名高い尾崎罌堂（行雄・一八五九～一九五四）から謙造に「書」が贈られた。墨痕鮮やかに「有算者勝」（算あるは勝つ）としたためられていた。謙造の座右の銘となるとともに、この言葉はその後村田学園の信条の一つとして現在も受け継がれている。

戦渦を耐えた不屈の精神

苦難で迎えた創立三〇周年

創立三〇周年を迎えた昭和一四年、村田女子計理学校は小石川区久堅町に新築移転した。（注5）

久堅町一帯は江戸時代には松平播磨守の屋敷やのちに小石川植物園となる白山御殿（五代將軍綱吉



昭和6年当時の村田簿記学校

（注5）明治一二年、郡区町村編制法により、神田区、小石川区など一五区が誕生。昭和七年、渋谷、杉並など新二〇区をつくり、東京市は三五区となる。現在の二三区に編成替えしたのは昭和二二年である。

昭和一八年には、東京府・東京市を廃止、東京都が置かれた。

昭和四一年四月一日、町名変更により文京区久堅町は文京区小石川五丁目となる。

の館）などがあり、由緒のある土地であった。女子の職業教育に新生面を拓き、特異な教育活動を続けてきた学校にとってはうってつけの場所と言えるよう。

日本は、昭和一二年からの日中戦争を経て太平洋戦争へと「動乱の時代」に突入する。昭和一六年には軍国主義教育の象徴とまで言われた国民学校令が、また昭和一八年には中学校令がそれぞれ公布されるに及んで、教育理念は急速に変化していった。教育内容にも変化がみられ、例えば体操という教科には武道が必須として導入された。当時の女学校では「なぎなた」「一辺倒であったが、謙造は全国に先駆けて「剣道」を採用した。このことは、女子教育においては画期的な試みであった。

村田女子商業学校に改称

昭和一八年、太平洋戦争はさらに国民生活を困窮に追い込み、切迫の度が高くなった。この頃から

食料難の深刻化、徴用制度の強行、学徒動員、学童疎開などが行われるようになった。

この年、謙造は組織を財団法人とし、学園は磐石となった。また、村田女子計理学校は教育内容や施設などを勘案され、文部省から甲種女子商業学校として認可を受け、乙種から甲種に昇格し、同時に「村田女子商業学校」と改称した。

東京大空襲

戦時下では労働力の欠乏を招き、生徒も学生も男子は重工業へ動員され、女子は事務系の仕事に参加した。このような戦時体制一色になると、全ての中等教育を施す学校は開店休業状態になり、自然休校あるいは閉鎖の止むなきに至った。しかし、村田簿記学校は傷痍軍人の委託生を積極的に受け入れ、孤塁を守ったのであった。

ところが、昭和一七年から始まったアメリカ軍による東京への空襲は、終戦を迎えるまでに五〇回を超え、東京中が焦土と化してしまった。



昭和14年完成村田女子計理学校校舎

開花する村田学園

終戦、そして復興へ

再建を支えた生徒の高い向学心

「東京大空襲」^(注6)ではまぬがれたものの、その後の空襲によって四月一四日に村田簿記学校が、五月二五日に村田女子商業学校が焼失した。謙造は自宅を臨時生徒集合場所とし、村田簿記学校に開放した。また、村田女子商業学校は本郷真砂町の工場跡の倉庫を集合場所に決め授業を行っていたが、その後学校疎開を計画、記録によれば疎開希望者は一五〇名となっている。この人数から、縁故疎開で日ごとに人口が減っていくなかで、縁故先がないなどの理由でまだ多くの生徒たちが学びながら仕事に従事していたことがうかがえる。しかし、この疎開計画は、荷物を取りまてて疎開先の新潟へ発送した途端に終戦となり、実行されることはなかった。

情熱で再建した村田簿記学校

終戦となり戦争そのものは幕を下ろしたが、日本経済は壊滅的な打撃をうけ、生産の停止による物資の不足、食料難、急進するインフレなどにより、国民は耐乏生活を強いられた。村田簿記学校がようやくの思いで二階建ての校舎を再建し、校長宅から移転したのは昭和二年一月であった（村田女子商業学校も同居し授業を継続）。また、村田女子商業学校の木造平屋建ての校舎が完成し、自前の校舎で授業再開のめどが立ったのは翌二三年三月のことである。

謙造は、西片町にあった自宅を売却、さらに資金を集めてそれを全て校舎の建築に注ぎ込む、正に「茨の道」であった。のちに

計算を立ててみてからでは恐ろしくて再建などに着手できなかつたと思う。ただ、学校を再建したいという一念だけでやってきたと語っている。



昭和23年改築した村田簿記学校

(注6)「東京大空襲」とは、昭和二〇年三月九日深夜から一〇日にかけての空襲を指す。

学校法人「村田学園」誕生

戦後教育の特色は、昭和二二年三月公布の「教育基本法」と「学校教育法」ならびに同二四年一二月に公布された「私立学校法」に示された法体系と精神であろう。学校教育法では、これまでの学校関係法令が学校の種類によって細かく分かれていたものを一本化し、さらに専修学校、各種学校についても規定を明示している。^(注7)

また、戦前の学校制度では、官公立学校が主であり私立学校は言わば従の存在であったが、「官公私立の学校間に何等本質的な相違は存在しない」(教育使節団報告書)との趣旨が生かされた。そのうえ、「私立学校の基礎を確実にするには、学校経営主体の健全な発達を助成し、これに公共的民主的性格を付与するため、これを民法法人とは別個の特別法人とすることが望ましい」と、当時の教育刷新委員会が述べた言葉も裏付けされている。これにより、村田学園は昭和二三年三月に財団法人から「学校法人村田学園(中学校・高等学校)」に改組し、同時に村田女子商業学校は「村田学園高等学校」と改称することになった。後期中等教育が基本的に「高等学校」と

して統一されたことによった。

村田女子商業高等学校開校

昭和二六年四月、村田学園高等学校は「村田女子商業高等学校」と名称を変更した。昭和二三年公布の高等学校設置基準第六条の専門教育を主とする学科のなかで商業に関する学科は「商業科」と明記されており、また、単一学科しか持たない高等学校の場合、校名に学科名を入れることがアピールポイントにもなるためであった。

村田女子商業高等学校が昭和二八年から同三二年にかけて校舎の増築を続けるなか、村田簿記学校は校舎を拡張するため神田神保町一一一にあった万崎ビルを同三一年に取得した。鉄筋コンクリート耐震耐火構造の、地下一階、地上五階建てで、周辺の建物よりはるかに大きかった。東南に皇居の松の緑をはじめ、官庁街の方塔、山手から下町一帯にかけての屋並みなどを一望に収めることができた。

学園の拠点はここに移された。

(注7) わが国の教育制度では、小学校教育が「初等教育」にあたり、中学校と高等学校の教育が「中等教育」にあたる。大学、大学院、短期大学が「高等教育」と解されてきた。専修学校等の専門的・職業的教育機関も大学とは目的・性格が異なっているが、今日では高等教育に含めている。

隆盛で迎えた創立五〇周年

第一回全国珠算競技大会開催

昭和三四年、戦後の混乱期は過ぎさり国民生活は高度成長期を迎えようとしていた。この時代の特徴は、各種の学校設立が増加したこと、それに伴い義務教育後の就学希望者数が極端に増えたことであろう。この年村田学園は五〇周年を迎え、学園初めての盛大な記念行事を共立講堂で挙行了した。式典後のアトラクションでは、当時のラジオ長寿番組の公開録音をはじめ豪華絢爛たる舞台が繰り広げられたが、注目すべきは「第一回全国珠算競技大会」の開催である。広く全国から達人たちが集い、参加者は七〇〇名近くに及んだ。この大会の後援は、東京都、日本商工会議所、産業教育振興中央会、全国商業高等学校協会、全国経理学校協会、読売新聞社、日本経済新聞社などそうそうたるメンバーで、いかに多方面から関心が寄せられていたかが分かる。この大会は、その後六〇周年、八〇周年の記念行事として三回開催された。

木造校舎から鉄筋校舎へ

創立五〇周年を機に、六〇周年に向けての学園としての大計をたて、徐々に実行していった。まず、村田女子商業高等学校が昭和三十六年に創立三〇周年を迎えるにあたり、これまでの木造校舎を取り壊して新校舎を建設することであった。これは計画どおり進行し、昭和三十六年一月には四階建て鉄筋コンクリート造りの新校舎が小石川の地に完成した。校舎に通じる道は戦前は細い道であったが、戦後の道路拡張計画により春日通りから千川通りにぬける坂道は幅員が広がり、坂上から見た校舎はひときわ異彩を放っていた。この校舎は、二期工事、五階部分の増築、体育館新設などを重ね、昭和四十二年四月に完工した。

北軽井沢高原寮建設

一方、北軽井沢高原寮の建設計画も進められていた。特に村田女子商業高等学校においては、早い完成を望む声が多かった。



昭和38年完成
簿記学校校舎

昭和36年完成
高等学校校舎



この学校では、例年夏の行事として「山旅」「海の学校」「高原の集い」が開かれ、希望する生徒たちが参加していた。そのなかで高原の集いは、群馬県北軽井沢に近い酪農を営む兼業農家の離れ屋を借りて実施していた。

昭和三五年四月、長野県・新軽井沢駅と群馬県・草津温泉駅を結ぶ草軽電気鉄道が一部廃止となり、路線周辺の土地は別荘地として販売された。逸早く村田学園は北軽井沢駅から約一キロにある区画を購入、昭和三八年八月にはテニスコート二面を含むグラウンドが完成し、同四〇年七月には待望の高原寮が竣工した。村田簿記学校高等課程と高等学校の生徒たちが、毎夏クラスごとの合宿やクラブ活動の合宿に利用している。寮がつくられた当時は、廃線後の線路跡が寮舎の横に残っていた。寮は木造二階建てで、あえて山小屋風の設計を採用し周りの風景に溶け込んでいる。卒業生も利用できるようにと、別棟に同窓会館も建築した。

創立六〇周年

（二一世紀に向けた教育を）

坂田道太文部大臣からの祝辞

昭和四四年一〇月九日、創立六〇周年記念式典が共立講堂で挙行された。この式典が特出していたのは、当時の坂田道太文部大臣が、自ら進んで来賓として出席したことであろう。一私学の式典に現職の大臣（特に文相）が列するのは、異例なことであった。祝辞で文相は

私のこれからの二一世紀に向かう教育のあり方というものは、その年齢に応じ、そしてまたその能力に応じ、またその特性に応じ、それぞれの段階において教育をすることが肝要かと考えておるわけでございまして、特に公立教育における画一的教育というものを排しまして、私学が持つておりますところの特徴ある特性ある学校教育ということに着眼をしなければならぬと思うのでございます。

と述べている。祝辞は文字に書きあらためると、三〇〇〇文字を超す長さとなり、学園に対する熱



坂田道太文部大臣祝辞

50周年記念祝典
(共立講堂)



のこもった応援であった。

この式典のなかで謙造は

私は六一年目の新しい年から、これらの基盤の上に立ちまして、さらに次の時代の求めるものに向かって、本学園がより充実した教育を施す場となるよう、努めてまいる覚悟であります。

天はまだまだ私に休むことなく働くことを命じているようであります。あとに続くものあることを信じて、今しばらくこの好きな道を歩んでまいる所存であります。(式辞)

と決意を新たにしている。また、この式辞のなかには新たな計画が示唆されているように感じられた。

時代から求められた商業教育

昭和三〇年の後半から同四〇年代にかけて、村田学園に学ぶ学生・生徒が増加していった。村田簿記学校の体制は、専門的知識を修得した者に対する需要の高さとニーズに応えたものであった。

すなわち、本科(修業年限一年と二年)のほか、に附帯教育として速成科(同昼間部三ヶ月、夜間部四ヶ月)、専攻科(同昼夜間部とも二ヶ月)な

どを設けたことである。そのため近隣の大学からの入学者もあり、言わばダブルスクールとして学ぶ大学生も多かった。加えて知名度を高くするため、新聞の同じ個所の広告欄に毎日校名を掲載したり、山手線の全駅に看板を掲げるなど、的を射た広報活動を行っていた。その看板には次のように書かれており、その内容から特に目を引いたのであった。

「伝統に輝く・最高の権威 創立明治四二年 創立者 村田謙造」

これらの文言は、文部省が表彰状に記載して謙造に贈ったもので、謙造は「戴いた文言を素直に使用させてもらっているまでです」と答えている。この看板は、平成八年頃までお茶ノ水駅内の跨線橋に敢えて残されていた。

簿記会計の殿堂が誕生！

他方、村田女子商業高等学校は、施設・設備が決して満足とは言い難い小さな高等学校ではあったが、生徒に対する私学ならではの面倒見のよさが功を奏し、評判が口コミで伝えられたのも生徒増加の要因であった。

創立六〇周年後、村田簿記学校においてはまた



昭和34年頃の村田簿記学校看板

一つの計画が浮上し、具現化されていった。それは謙造が五〇周年を迎えた頃からの念願であった「簿記会計の知識・技能の普及のため、日本の中心となる殿堂を建立したい」というものであった。そこで、これまでの校舎を取り壊したうえ隣地約四三〇平方メートルを買収し、合わせて約七七〇平方メートルの土地に昭和四七年一月から新校舎の建築工事が始まった。新校舎は昭和四九年四月に落成し、延約五三〇〇平方メートルの地下一階、地上一〇階の堂々とした殿堂であった。創立六五周年の節目の年のことであった。

教魂燃焼

実務教育に捧げた六五年。村田謙造、逝去

昭和五〇年二月、謙造は風邪で身体の不調を訴え入院した。約一ヶ月の闘病生活で、一時は回復の兆しさえみせたが、三月二三日午後帰らぬ旅立ちとなってしまった。正に「巨星墜つ」である。村田照子は追悼集「有算者勝」のなかで、次のように記している。

自分の手で念願の校舎も完成し、そこに一

年間は通うことが出来たこと。天寿を終えるまで長いわずらいではなかったこと。如何に努力の人であったとしても、こんなにも自分の初志を貫徹できたなら、まれにみる果報者という言葉にふさわしいと思います。

学園葬は四月一五日、築地本願寺において厳かに執り行われた。なお、墓所は多磨霊園にある。

各種学校から「専修学校」へ

第二代理事長に就任した村田照子は、同時に村田簿記学校校長、村田女子商業高等学校校長兼務という重責を担いながら、学園発展の立役者として活動した。その原動力の一つが、昭和五年に公布された「専修学校設置基準」である。

明治の学制以来、学校は紆余曲折を経て法令上の地位を確立していくが、学制で「其他各種ノ学校トス」と定められた学校は、規模の如何を問わず家塾的な「各種学校」扱いでしかなかった。戦後の学校教育法ですら、「学校教育に類する教育を行うものは、これを各種学校とする」程度であった。しかし、各種学校の発展を受けて、ようやく昭和三二年に至り各種学校規程が定められ



昭和49年完成村田簿記学校校舎

た。すなわち、修業年限は一年以上（簡易な課程については三ヶ月以上一年未満）、授業時数は一年以上の場合は、一年間にわたり六八〇時間以上（一年未満の場合は修業期間に応じて減ずる）とし、またほかにも正規の学校規定が準用された。

各種学校の人気上がり（昭和五二年推定二〇〇校）、雨後のたけのこ的に生まれては消えていくなかで、伝統を守り真の教育の実現を意図する学校にとっては、さらなる地位向上が課題であった。昭和五一年になり、関係者の運動が実を結び「専修学校設置基準」が公布され、学校教育法における「専修学校」に一步踏み込んだ。それによると

○組織には一又は二以上の学科を置く。

○学科ごとに、授業時数は一年間にわたり八〇〇時間以上、夜間学科等でも一年間四五〇時間を下らない。

○一つの授業科目は、四〇人以下。

○高等学校における教育の基礎の上に、深く専門的な程度において専修学校の教育を施すにふさわしい授業科目の開設。

等々、組織編制、教科、教員、施設・設備など多方面にわたって細分化され規定されている。村田

簿記学校をはじめ規模の大きな各種学校は、このとき専修学校に昇格した。

専修学校には「高等課程」を設置することができた。高等課程とは、「中学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて専修学校の教育を施すにふさわしい授業科目の開設」と謳われているとおり、中学校卒業後の進路先として設けられていた。村田簿記学校は、昭和五八年四月から「経理高等課程商業科（三年制）」を開設、教育の場をさらに広げたのであった。学校教育法第一二六条には、次のように記されている。

○高等課程を置く専修学校は、高等専修学校と称することができる。

○専門課程を置く専修学校は、専門学校と称することができる。

村田簿記学校は、これをもって二つの称号を得ることとなった。

高等課程の大学入学資格付与のために奔走

専修学校・各種学校の制度上の確立を望む声が多いなか、高等学校、短期大学、大学（学校教育法第一条）のように法的に認知されることで、教育機関としての独自性がうすれると危惧する向き



平成6年経理高等課程入学式

もあった。また、高等課程を設置している学校では共通の課題を抱えていた。三年制の高等課程を卒業しても、大学入学資格が付与されていなかったことである。やがて、この問題は「一定の要件を満たした学科」の卒業生に限り認められるようになり、村田簿記学校経理高等課程も昭和六〇年に大学入学資格指定校となった。この運動の急先鋒に立ったのは村田照子であった。

校内施設が拡充。急伸する村田学園

昭和四九年の新校舎落成以来、生々発展する村田学園の姿は輝かしいものであった。昭和五二年、白山通りをはさんだ村田簿記学校新校舎の正面にあるビルを取得し、のちに経理高等課程の校舎として利用された。また、昭和五六年に学生の就職活動の充実を図る目的でワン・イレブン館を開館、さらに昭和五七年には靖国通りに面した北沢ビル内のフロアを借り、商業実践室として村田簿記学校・村田女子商業高等学校の学生・生徒が活用したのち、急増する附帯教育、社会人教育の場となった。昭和六三年にも神田神保町一丁目にある風間ビルのフロアを借用し、学科の教室とさなる就職部の活動強化のための就職指導室など

が置かれた。

伸展する村田学園ではあったが、各校に運動場（グラウンド）を持っていないことが悩みの種であった。村田女子商業高等学校の場合を例に挙げれば、中庭的なものはあるにせよ、高校生が必要としている屋外での授業・部活動には、近くの印刷会社の運動場を借用していた。従って、体育祭などの大きな行事は公的な施設を使用せざるを得なかった。そんな折、総武線・地下鉄 西船橋駅 から徒歩一五分のところにある土地を入手でき、昭和五九年一月には、グラウンドを完備し、六六四六平方メートルの校舎が完成した。校舎は、普通教室のほか体育館、視聴覚教室、調理室、和室、多目的ホールなど贅を尽くした造りであり、生徒たちは目を見張った。「村田学園市川校舎」として誕生したこの校舎は、以後週一回学年ごとに移動して体育、家庭科などを中心に授業を展開した村田女子商業高等学校と、体育を基盤として授業を組み合わせた経理高等課程が主として使用した。また体育祭・卒業式なども挙行されたほか、この校舎の建設を機に学園全体の課外活動が飛躍的に充実していった。

昭和59年完成市川校舎



テープカット

創立七〇年目の挑戦

村田学園奨学金制度、発足

昭和五四年、村田学園は創立七〇周年を迎えていた。創立者が逝去されてから四年の歳月が流れてはいたが、理事長は盛大な記念式典や記念行事などを実行に移す意図はなかった。強い心組みでこの節目に臨んだことは、「奨学金制度の確立」であった。のちに照子は、次のように真情を述べている。

創立者は若い時いろいろと辛酸をなめたその体験から、自分の力の限りを尽くして学び、その努力を惜しまない学生には特に理解を示し、そして応援した。創立者を見習い、それを受け継ぐことも私に課せられた仕事の一つである。

こうして、「村田学園奨学金制度」が発足し、学園に学ぶ多くの学生・生徒がその恩沢に浴した。

ソロバンからOA機器へ

学園は、情報処理教育の重要性に早くから着目

していた。村田簿記学校を手始めに、昭和五五年にはオフィスコンピュータやワープロを導入し、オフコンを使った会計教育を開始した。昭和六一年にはワープロが、六二年にはパソコンが村田女子商業高等学校へも導入され、学園全体が情報処理教育に邁進した。その結果、昭和六一年には、パソコンを使った簿記学習用ソフト「MCA I」が、学園の英知と技術を結集して誕生した。パソコンがあればどこでも簿記を学べるこのソフトは、簿記の普及に画期的な役割を果たした。

隆盛を刻した創立八〇周年

記憶に残る記念式典を

元号が「平成」に変わった元年、村田学園は八〇周年を迎えた。学園内では昭和六二年から実行委員会を組織し、記念行事の企画・準備にあたってきた。学園の長い歴史のなかで、最も隆盛を極めた時代の象徴として有意義な記念の年に基づく、慎重に策が練られた。まず、学園に学ぶ学生・生徒および教職員等すべてが一堂に会する式典であること、参加者全員の記憶に残る斬新な構



MCAI完成発表会

想であること、また、この年の学校行事には「創立八〇周年記念」の冠をつけ、それにふさわしい計画を立てること、八〇周年記念誌の発刊などが決められた。

そして、平成元年の記念行事は次のように実施された。

村田簿記学校 専門課程

九月七日・八日 記念体育祭（市川校舎）

九月九日・一〇日 記念学園祭

村田簿記学校 高等課程

一〇月八日 記念体育祭（市川校舎）

村田女子商業高等学校

五月二八日 記念体育祭（都体育館）

一一月二日・三日 記念むらた祭

村田学園

一〇月一日 記念第三回全国珠算競技大会

（専修大学）

一〇月一七日 記念式典（日本武道館）

祝賀会（赤坂プリンスホテル）

一一月三日 創立八〇周年記念誌発行

日本武道館でウルトラクイズ

八〇周年を新たな決意の場として臨む記念式

典には、それにふさわしい内容が演出されていた。会場は、各種行事の殿堂として知られる日本武道館を選んだ。司会進行には高名な日本テレビの福留功男アナウンサーを招き、式は荘厳に執り行われた。

式典後のアトラクションとして、当時平均視聴率三四パーセントを誇った名物番組「アメリカ横断ウルトラクイズ」が行われた。村田版の模擬番組とは言え、本物のセットを運び込み、また、進行役の福留アナもそのままに、大いに会場を沸かせた。さらに佐藤菊夫指揮による東京管弦楽団による記念演奏会が華を添え、会場は楽しい雰囲気につつまれた。圧巻は「歓喜の歌（交響曲第九番）」の全員での合唱であった。

式辞のなかで照子理事長は、在校生に向けて次のように呼びかけた。

周年行事の式典とは、ただ過去を振り返り、これまでに努力された方々の功績を讃えることのみで終わることではありません。今日ただ今、皆さんが日々の学習の中で一日積み上げているそのことが、やがてふと立ち止まって顧みた時、自分の足跡として残り、やがて学園の歴史の中に組み込まれて、



80周年記念式典アトラクション

それが伝統と呼ばれ、受け継がれていくものと信じております。

東京経営短期大学、設立へ

創立八〇周年記念行事計画が進行していくなか、壮大な構想も練られていた。前年（昭和六三年）六月に開かれた学園理事会では、短期大学の設置が議決されたのである。その後着々と準備が進み、「東京経営短期大学」の名称で設置認可を得たのは、平成三年二月のことであった。場所は千葉県市川市で、これまで校舎として使用していた既設の建物に、教育研究棟（六三六七平方メートル）と食堂棟（四五二平方メートル）を新築し、さらにグラウンドを確保して短期大学を構築した。新校舎は平成四年二月に竣工、同年四月には経営情報学科一八六名の新入生を迎え入れた。さらに平成八年四月には学科増設を行い、「経営税務学科」を新設、夜間コースと合わせてこの学科には一六二名が入学した。

村田簿記学校においては校舎が神保町交差点を中心に点在し、学生に周知させる必要から建物に番号を付け分かりやすくした。すなわち

昭和四九年完成の一〇階建てビル―一号館

昭和五二年取得の八階建てビル―二号館

昭和三一年取得の五階建てビル―三号館

平成三年取得の三階建てビル―別館

である。ほかには市川市高谷に「村田学園市川セミナーセンター」が平成三年九月に完成した。セミナーセンターは、東西線原木中山駅から徒歩一〇分のところにあり、三階建てのしゅうしやな建物であった。教職員の研修と社会人教育の場として、利用価値は非常に大きかった。

村田女子商業高等学校改名、そして移転

東京経営短期大学が開学し、五年間一貫教育を視野に入れた村田女子商業高等学校は、短期大学の知名度を高めることなどの相乗効果を上げるため、平成八年校名を「東京経営短大村田女子高等学校」と改めた。しかし、教育水準を向上させ、よりよい環境を整備しても、建物自体が老朽化してしまえば目標達成は困難になる。当時の村田学園の課題は、昭和三六年に完成した高等学校校舎への対処であった。新築計画には財政問題は避けられず、計画をすぐ実行に移すのは無理な状況と思われた。そんな折、文京区から土地の等価交換の話が持ち込まれた。理事会や一般教職員からの

開学披露パーティー

東京経営短期大学 開学披露の集い



平成4年完成
東京経営短期大学校舎



議論百出の末、小石川から本駒込の地への移転が決定され、新校舎建設の目論見が立てられた。新校舎（延建坪約七三六七平方メートル）が落成し、移転が完了したのは平成一年三月のこと、くしくも学園創立九〇周年の年であった。

文京区本駒込は由緒ある土地である。周辺は、駒込村の名主をつとめた旧家「駒込名主屋敷」や、柳沢出羽守保明の中屋敷として造られ昭和一三年に都の公園として公開された庭園「六義園」、さらに大正六年に設立された東洋学の専門図書館である「東洋文庫」などで知られている。現在は、小学校、都立高校、文京グリーンコートと呼ばれるコーナーにある高層オフィスビル、高層住宅ビルなどが隣接している。

創立九〇周年 地域密着の教育を目指して

村田学園創立九〇周年記念式典は、平成一年四月二七日、東京経営短大村田女子高等学校体育館で挙行された。八〇周年のそれと比べると質素な感否めなかったが、そこには一つの考えがあった。新しい学校は、地域に溶け込んでこそ真の教育ができるという思いから、地域住民に校舎を開放し、村田学園の教育に対する理解を深めて

もらうなどの意図である。当日は多数の住民を含め、三〇〇名を越す参加者で盛大な式典となった。

世界に門戸を広げる「留学生別科」開設

東京経営短期大学、村田簿記学校ともに外国人留学生を受け入れている。特に東京経営短期大学では、年々増加する傾向にあった。留学生は入国後半年ないしは一年間日本語学校で学び、その後上級学校を受験する。ならば日本語を教える科を併設したら、との考慮のち平成一二年四月「留学生別科」を開設した。この科は、日本語と日本事情などを学ばせることが主体であり、そのため施設は利用するものの、短期大学の教育課程とは関連のない、全くの別科であった。

高等学校に普通科新設

平成一三年から同二〇年にかけて、東京経営短大村田女子高等学校は、これまでの実績を活かして教育内容をさらに強化していった。それまで商業科のみであったが、世の中の進学志向の高まりに伴う普通科希望者の増加を受け、平成一三年四月「普通科」を併設した。しかし、商業科は就職



平成11年完成高等学校校舎

のためのみではなく、進学を望む生徒にも充分対応ができており、また、普通科においても希望する生徒に対しては、各種検定試験を受験して資格取得に取り組むことができる環境も整備された。

中高一貫教育を——村田学園小石川女子中学校開校

普通科が誕生したのち、学園では続いての計画が段階を追って進行していた。中学校の新設である。平成一〇年に学校教育法が改正され、同一年には中高一貫教育を行う学校（中高一貫校）の設置が可能になった。この年以降、併設校、連携校としての中学校が一貫校へと変成していった。

村田学園は、平成二〇年四月遅蒔きながら「村田学園小石川女子中学校」を、高等学校の施設内に開設した。この中学校には、一貫校としての今後に期待が寄せられている。中学校が発足する前年、東京経営短大村田女子高等学校は短期大学の冠を取り、「村田女子高等学校」と改称した。

落花、枝にかえらず

村田照子 永遠の旅へ

平成一八年六月一九日、第二代理事長村田照子が逝去された。一報を受けた学園関係者は、誰しも誤報であることを願ったほど信じ難いことであつた。年齢的な「老い」は避けられないにせよ、常々元気に過ごしていた姿からは想像も及ばない出来事であつた。

平成一六年六月、村田照子は敢えて村田簿記学校第七代校長に就任した。すでに村田簿記学校が隆盛を極めた時代は去り、終焉が近づきつつあつた。照子は就任直後、「父は開く（開校）役目を果たし、娘の私は閉じる（閉校）役目を果たす」と語っていた。

平成一八年秋、「村田照子先生を偲ぶ会」が生前よく利用していたホテル・グランドパレスで開催された。当日は予想をはるかに越えた参加者で、献花の列は絶えることはなかった。照子はいま、父謙造と同じ村田家の墓所で眠っている。



平成18年9月「村田照子先生を偲ぶ会」

新村田学園発足

東京経営短期大学は、平成一八年三月末をもって留学生別科を閉鎖した。所期の目的は達せられたとの判断ではあったが、学園内のあらゆる削減の波が押し寄せた結果でもあった。この年四月に亀田光昭が第五代学長に就任した。就任して二ヶ月余で村田照子が急逝し、間もなく第三代理事長に選出された。新理事長の信念は、「これまで培ってきた『村田』の灯を消してはならない」であった。村田学園に新風が吹き込まれることを期待しながら、新村田学園は新たなスタートを切った。それは平成一八年六月のことであった。

押し寄せる少子化・ハイテク化の波

村田学園が財政困難に陥る予兆は、八〇周年を迎えた頃より、経営陣のみならず学園関係者の間にも広がっていた。学園の本丸である村田簿記学校への入学者が少なくなるであろうことは、全国的に一八歳人口が年を追って減少していく厳しい現実が示していたからである。さらに技能を磨くことや資格取得の重要性を誰もが認めてはいたが、その対象がビジネス系から調理系、フアツ

ション系、看護系、福祉系へと移行していく風潮にも影響された。また、学園は当時短期大学の開校を控え、この事業を成功させるべく集中努力を重ねていた。

村田簿記学校が時代の要請を先取りし、コンピュータの経理への応用や情報処理教育に着手したのは昭和五五年であった。昭和六〇年以降、徐々にワープロからパソコンに重点が移り、経理の知識に加えて情報処理を学ぶ学科は学生には魅力的であった。パソコンの生産量を見ても、昭和六〇年は約一九三万台（平成一二年、約一一八七万台）で、当時はまだパソコンの技術習得という目的もあった。パソコンが急速に発展した結果、情報処理やパソコンを主とした学科を設置する専門学校、各種学校が増加、競合する状態となった。

速すぎたIT化の影で

パソコンが家庭に普及し、平成一三年発表の「二〇〇五年までに世界最先端のIT国家となる」旨の国家戦略の後押しもあって、平成一八年にはインターネット人口は国民の約五七パーセントに達している。



村田簿記学校入学案内

その過程で、学生が興味を示したものはアニメーション、ゲーム、コンピュータグラフィックスなどの技術であった。また、パソコンはますます進歩し、学校設備でも常に最新型の設置が求められた。しかし、学校経営上巨資を投じて機器を入れ替える余裕はなかった。

教職員が一丸となり学内を改革

平成七年頃より、村田簿記学校は経費削減、節減にそれまで以上に取り組むことになる。学内改革の断行と、同時に新入生の確保の手立てを念頭に置き、教職員一人ひとりの任務を遂行していた。教員は積極的に高校訪問や進学相談会に参加し、広報活動に力を入れた。一流広告代理店に依頼して「学校案内」を作製するほか、高校生に配布される「情報誌」にも予算のゆるす限り参画した。

ビジネス系（分類上は商業実務関係）の学校における広報活動には、大きな課題があった。世の中のあらゆる宣伝媒体は、視覚に訴える手法が主流となり、「一目瞭然」の必要性があった。高校生に対しても、細かな説明や的確なキャッチフレーズでもアピールは難しかった。写真や絵を見

るのみで学校の内容を理解させるという点では、ビジネス系は不利な立場であった。特に税理士、会計士や簿記・会計、経理などはもともと地味なもので、静止画には向いていないと言える。

学生・時代との大きな溝

商業実務関係の専門課程を置く専修学校での学生募集が、年毎に困難になっていく状態を統計からも知ることができる。学校基本調査によれば、平成七年度の卒業生は全国で六万五六九名に対し、平成一二年度は三万一九一六名と約四七パーセント減少、また、学校数も平成八年度八二八校であったが、平成一三年度までに二二八校が閉校している（下表参照）。学校数が少なくなっているのは、専修学校・各種学校が学校教育法一条で示す学校（小・中・高校や大学など）ではないため、都道府県の助成が得られないのも一因である。村田学園は私立学校法上の学校法人ではあるが、公的資金が導入されるのは高等学校と短期大学で、村田簿記学校にまでは至っていない。

また、従来は都内へ通学していた学生が、横浜、大宮、千葉などの近郊に新設された専門学校や分校に吸収され、都心への流入が妨げられた点

全国専修学校商業実務関係（専門課程）の推移

	学校数	卒業者数	村田簿記学校 卒業者数
平成8年度	828	52,596	356
平成9年度	811	47,032	342
平成10年度	752	41,423	291
平成11年度	699	35,260	230
平成12年度	634	31,916	138

も見逃せない。村田簿記学校の近県への進出に対しては深い考慮が払われてはいたが、実現の運びとはならなかった。

村田簿記学校、終幕

人員削減、配置転換などを含め徹底的な合理化を図ってきた村田簿記学校ではあったが、事態は思うに任せず、平成一三年一号館、別館を閉館、不動産の売却に踏み切った。すでに平成二年には三号館を売却しており、残った二号館を改修して授業を続行した。のち平成一七年には市川セミナーセンターも売却している。

平成一六年五月、村田簿記学校は次年度からの学生募集停止を決定した。従ってこの年度の学生が巣立てば完全閉鎖となる。一抹の不安と寂しい思いを胸に授業に臨んでいた、と教員の一人は語っている。

平成一七年三月七日、産経プラザにおいて最後の卒業式が挙行された。卒業生五五名を前に村田照子校長は式辞で

この学校で学び、蓄えた力をあらゆる面で充分発揮できるように、常に自分に自信を持って「やってみせるぞ」という気持ちを最

も大切にしながら、社会で活躍してほしいと期待している。

との励ましの言葉を贈った。その必要性がなかったとは言え、微妙な立場に置かれた村田簿記学校への言及を避けた胸中はいかばかりか、察するに余りある式辞であった。

しかし、照子の心にはある思いがあった。自ら設立に大きく関与した東京経営短期大学への村田簿記学校、村田女子高等学校からの教職員の異動であった。それにより、専修学校と短期大学は全く異質なものという一般論に対し、それぞれの特色を活かしての「融合」が可能であることを実証したいと考えたからである。この宿願は、自身が短期大学学長に就任した折に確信に至ったのであった。そこには村田学園の精神が脈々と波打っていたからである。

社会人に開かれた専門学校村田経営義塾

村田簿記学校が最後の卒業生を送り出したのち、二号館は東京経営短期大学「神保町キャンパス」として生まれ変わった。

短期大学の税理士を目指す「特進クラス」は、卒業後も続けて学ぶことができるように配慮した



村田経営義塾校舎

クラスである。特に会計事務所などに就職してからの税理士試験の受験勉強に対応する講座を夜間に設け、通学の利便性を広げた。神保町キャンパスは、このような意図で開設された。

短期大学生を対象とした各種の講座は、その方向性においては村田簿記学校と共通する部分が多かった。そこで一般の人にも門戸を開放する意味から、夜間の専門学校をキャンパス内に設置した。「専門学校村田経営義塾」として、再び「村田」の灯が点つたのである。平成一九年四月のことであった。

専門学校村田経営義塾の特色は、企業の後継者の育成であった。そのため、経理専門課程経営者養成科（二年制・一年制）として発足した。夜間の開講はダブルスクールの意図を含んでいた。

未来への余韻を残し、村田経営義塾閉校

短期大学と共有する部分が多いとは言え、専門学校として独自の採算性を確保するには相当の困難が予想された。それは偏に学生募集に拘わる問題であった。あらゆる手立てを講じ知名度を高め、教育内容を理解させても、学生確保に直結するものではなかった。平成二〇年度の応募状況を

判断した結果、同二一年度からの経営は困難との結論に達し、やむ無く閉鎖を決定した。

平成二一年三月一二日、二年間存在した専門学校村田経営義塾の卒業式が学び舎で行われた。この日、二年制・一年制それぞれ二名の学生が巣立っていった。小さな式典ではあったが、未来への余韻を残したものであった。そして平成二一年一〇月をもって、専門学校村田経営義塾は閉校となった。

しかし、この校舎では短期大学の会計税務コース（特進クラス）の授業とその卒業生のための夜間プログラムが、現在も短期大学エクステンションセンターにより続けられている。

また外部からの委託事業については、引き続き村田学園の名前で受託し、開講されている。

来たる百周年に向けた新たな布石

平成一九年一〇月、学園発展に最も貢献した初代理事長、第二代理事長の業績を称え、また、村田学園百年の歴史を振り返ることができる「村田記念館」が開館した。両理事長にかかわる遺品、記念品をはじめ、村田学園を知るための資料など数百点が展示されている。東京経営短期大学で、



村田経営義塾入学案内

かつて照子が熱心に執務していた理事長室とそれに続く応接室を改装したものである。

また、学園百周年記念事業である「市川グラウンドの整備」が平成二十一年五月に完了した。人工芝を敷きつめた全天候型となり、すでに設置されていた夜間照明装置とあわせて終日快適に利用できるようになった。

銀行会社事務員養成所の小さな私塾から、

三二万名に及ぶ卒業生を輩出した大きな学園へと成長した村田学園の長い歴史のなかで培った実績は、高等学校と短期大学で受け継いでいる。

百周年を迎え、記念事業が進められている。それは次の百年に向けての布石であり、学園発展に寄与するところが大である。

*参考文献

- 佐藤順一・大田忠男編「教育制度」学文社 一九九五年
尾崎ムゲン「日本の教育改革」中央公論新社 一九九九年
大橋信定ほか編「現代商業教育論」税務経理協会 一九九一年
村田学園「有算者勝」村田学園 一九七八年
村田学園「創立八十周年記念誌」村田学園 一九八九年
小学館「万有百科大事典・日本歴史」小学館 一九七三年

村田学園百年史年表

村田学園関係の出来事

明治

1908	41年3月	村田謙造「村田式計算器」創案・発表
1909	42年11月3日	村田謙造「銀行会社事務員養成所」を東京市神田区一ツ橋通町20番地（現在、千代田区一ツ橋2丁目6―5）に創立

大正

1913	2年5月6月	「第1回村田珠算競技大会」開催 「村田速算学校」併設
1919	8年	創立一〇周年
1921	10年4月	銀行会社事務員養成所を神田区仲猿楽町17番地に新築移転し、校名を「村田簿記学校」と改め開校
1923	12年9月	関東大震災により校舎焼失
1924	13年10月	神田区仲猿楽町17番地に木造2階建て校舎建設

昭和

1929	4年11月	創立二〇周年 神田区仲猿楽町1番地（現在、千代田区神田神保町2丁目14）に3階建て校舎建設
------	-------	--

一般の出来事

- 第一次世界大戦勃発（1914）
- 日本、国際連盟に加盟（1920）
- 関東大震災（1923）
- ラジオ放送開始（1925）
- 初の普通選挙実施（1928）
- 世界恐慌起こる（1929）

1931	6年3月6日	「村田女子計理学校」併設 校長に村田謙造就任
1933	8年4月	「村田女子計理学校」東京府より乙種として認可
1937	12年6月	村田簿記学校、隣家より出火し、校舎類焼
	7月	校舎復旧
	8月15日	「第100回村田珠算競技大会」開催
1939	14年	創立三〇周年
	1月	村田女子計理学校 小石川区久堅町98番地（現在、文京区小石川5丁目40-18）に新築移転
1940	15年6月	紀元二千六百年の記念事業として、村田女子計理学校に講堂兼道場「貞風館」を完成 全国で初めて女学校に剣道を導入
1943	18年2月	組織を財団法人とする
		村田女子計理学校 文部省認可の甲種女子商業学校に昇格
		「村田女子商業学校」と改称
1945	20年4月14日	村田簿記学校校舎 空襲で焼失
	5月25日	村田女子商業学校校舎 空襲で焼失
		村田簿記学校は西片町の校長宅を開放、村田女子商業学校は本郷真砂町の工場跡の倉庫を借り授業再開
1947	22年1月	村田簿記学校 校舎を被災地に再建
1948	23年3月	学制改革により「財団法人村田学園」を「学校法人村田学園」と改組 村田女子商業学校は「村田学園高等学校」と改称
	4月	村田学園高等学校を被災地に再建
1949	24年	創立四〇周年
1951	26年4月	「村田学園高等学校」を「村田女子商業高等学校」と改称

満州事変勃発（1931）
 内田外相、国際連盟脱退を通告（1933）
 二・二六事件（1936）
 文化勲章制定／日中戦争始まる（1937）
 第二次世界大戦勃発（1939）
 日独伊三国同盟調印／大政翼賛会発会（1940）
 日ソ中立条約調印／太平洋戦争勃発（1941）
 日本軍ガダルカナル撤退（1943）
 東京大空襲／広島・長崎に原爆投下／ポツダム宣言受諾（1945）
 日本国憲法公布／財閥解体／農地改革（1946）
 教育基本法・学校教育法公布。六・三・三・四制実施（1947）
 極東軍事裁判判決下る（1948）
 湯川秀樹ノーベル物理学賞受賞（1949）
 朝鮮戦争勃発（1950）
 日米安全保障条約調印／国際労働機構（ILO）加盟（1951）
 NHKテレビ放送開始（1953）

1953	28年4月	村田女子商業高等学校の校舎増築
1955	30年4月	村田女子商業高等学校の校舎増築
1956	31年4月	村田女子商業高等学校の校舎増築
1957	32年4月	千代田区神田神保町1丁目11番地に地下1階、地上5階のビル取得、村田簿記学校の拠点とする
1959	34年	村田女子商業高等学校の校舎増築 創立五〇周年
	9月13日	「村田学園創立五〇周年記念全国珠算競技大会」開催（於、専修大学）
	11月10日	創立五〇周年記念式典（於、共立講堂）学園讃歌制定 「五十年の歩み」刊行
1961	36年1月30日	村田女子商業高等学校の創立三〇周年を記念した地下1階、地上4階鉄筋コンクリート校舎が文京区小石川5丁目40-18に完成
	10月5日	同、第2期工事完成
1963	38年3月	村田簿記学校 千代田区神田神保町2丁目14番地に地下1階、地上5階鉄筋コンクリート校舎完成 村田第二簿記学校設置
	8月	群馬県吾妻郡長野原町大桑に村田学園グラウンド完成
1964	39年3月12日	村田女子商業高等学校 鉄筋3階建て体育館完成
1965	40年7月15日	「村田学園北軽井沢高原寮」が群馬県吾妻郡長野原町大桑に完成
1967	42年4月	村田女子商業高等学校校舎5階部分増築
1969	44年	創立六〇周年

第五福竜丸、ビキニ水爆実験で被災（1954）

日本国連加盟／南極観測隊宗谷出發（1956）

一万円札発行（1958）
皇太子（現天皇）ご成婚／伊勢湾台風（1959）

日米新安全保障条約調印／カラーテレビ本放送開始（1960）

ケネディ米大統領暗殺（1963）

東京オリンピック開催／東海道新幹線開業（1964）

中国文化大革命起こる／朝永振一郎ノーベル物理学賞受賞（1965）

川端康成ノーベル文学賞受賞（1968）
東名高速道路が全線開通／アポロ11号月面着陸

1984	59年11月28日	千葉県市川市二俣625番地1に村田学園「市川校舎」「総
1983	58年4月	村田簿記学校経理高等課程開設
1982	57年4月	村田簿記学校 千代田区神田神保町2丁目5番地北沢ビル内に「北沢館」開館
1981	56年10月12日	村田簿記学校「ワン・イレブン館」開館
1979	54年4月	創立七〇周年を記念して「村田学園奨学金制度」を制定、適用開始
1977	52年7月10月	故村田謙造三回忌にあたり、追悼集「有算者勝」刊行 千代田区神田神保町1丁目14番地の地下1階、地上8階のビルを取得 村田簿記学校2号館とする
1976	51年9月4月15日	村田簿記学校 学校教育法に基づく専修学校として認可を受ける 故村田謙造 学園葬（於、築地本願寺）
1975	50年3月23日4月1日	村田謙造逝去 村田照子、村田学園理事長・村田簿記学校校長・村田女子商業高等学校校長に就任
1974	49年4月1日	村田簿記学校 千代田区神田神保町2丁目14番地に地下1階、地上10階鉄筋コンクリート校舎完成 拠点をここに移す
	10月9日	創立六〇周年記念式典（於、共立講堂） 「六十年の歩み」刊行
	10月5日	「村田学園創立六〇周年記念第2回全国珠算競技大会」開催（於、専修大学）

（1969）

日本万国博覧会開催（1970）

沖縄返還協定調印（1971）

札幌冬季オリンピック開催／沖縄県本土復帰／

上野動物園でパンダ初公開（1972）

江崎玲於奈ノーベル物理学賞受賞／金大中事件起こる（1973）

東京国立博物館でモナ・リザ展開催（1974）

専修学校法成立（1975）

ロッキード事件（1976）

王貞治、756本目のホームラン世界記録を達成、初の「国民栄誉賞」を受賞（1977）

米、スリーマイル島原子力発電所で放射能漏れ事故発生（1979）

モスクワオリンピック開催、日本は参加ボイコット（1980）

中国残留日本人孤児、初の正式来日／福井謙一ノーベル化学賞受賞（1981）

五百円硬貨発行（1982）

東京ディズニーランド開園（1983）

1985	60年10月28日	合グラウンド」完成
1986	61年3月20日	村田簿記学校経理高等課程、大学入学資格文部大臣指定校となる
1986	61年3月20日	わが国初のコンピュータによる簿記学習ソフト「MCAI・入門編・3級編」完成
1988	63年1月	村田簿記学校 千代田区神田神保町1丁目34番地風間ビル内に「風間館」開館
平成		
1989	元年	創立八〇周年
	10月1日	「村田学園創立八〇周年記念第3回全国珠算競技大会」開催（於、専修大学）
	10月17日	創立八〇周年記念式典（於、日本武道館）
	11月3日	「村田学園八十周年記念誌」刊行
1990	2年6月	村田簿記学校3号館およびワン・イレブン館閉館
1991	3年7月	千代田区神保町2丁目12-1に3階建てビル取得 村田簿記学校「別館」とする
	9月	市川市高谷1丁目11-13に3階建て「村田学園市川セミナーセンター」完成
1992	4年2月10日	市川市二俣625-1に新校舎完成
	4月1日	村田学園「東京経営短期大学（経営情報学科）」開学 学長に大山政雄就任
1994	6年4月1日	東京経営短期大学第2代学長に齋藤力夫就任

日航機御巣鷹山に墜落（1985）

男女雇用機会均等法施行（1986）

国鉄分割・民営化、JRに／利根川進ノーベル医学生理学賞を受賞（1987）

昭和天皇崩御／消費税導入／天安門事件勃発（1989）

ドイツ再統一／バブル崩壊始まる（1990）

湾岸戦争勃発／新東京都庁舎が開庁／ソビエト連邦崩壊（1991）

皇太子ご成婚（1993）

関西国際空港開港／松本サリン事件／大江健三郎

2005	17年3月	村田学園市川セミナーセンター閉鎖
2004	16年5月	村田簿記学校第7代校長に村田照子再々任
	6月1日	村田簿記学校第6代校長に堀居英治就任
	8月1日	東京経営短大村田女子高等学校に「普通科」併設
	4月1日	村田簿記学校別館閉鎖
	4月1日	村田簿記学校2号館に移転
2001	13年3月	村田簿記学校第5代校長に村田照子再任
	4月1日	東京経営短期大学「留学生別科」併設
2000	12年3月	村田簿記学校北沢館閉鎖
	4月	創立九〇周年
	4月27日	創立九〇周年記念式典（於、東京経営短大村田女子高等学校）
	6月	村田簿記学校第4代校長に西尾康三就任
1999	11年3月	東京経営短大村田女子高等学校 文京区本駒込2丁目29-1に新築移転
	6月1日	東京経営短期大学に「経営税務学科」増設
1998	10年4月1日	村田簿記学校第3代校長に藤井禰和就任
1996	8年4月1日	村田簿記学校 風間館閉鎖
	12月	村田女子商業高等学校を「東京経営短大村田女子高等学校」と改称

ノーベル文学賞受賞（1994）

阪神・淡路大震災／地下鉄サリン事件（1995）

世界初のクロン羊「ドリー」誕生（1996）

消費税3%から5%に／サッカー日本代表、W杯初出場を決める（1997）

郵便番号7桁化／長野オリンピック開催／明石海峡大橋開通（1998）

欧州連合に加盟する11か国でユーロ導入（1999）

二千年札発行（2000）

9・11アメリカ同時多発テロ／ユニバーサルスタジオジャパン開園／東京デイズニースー開園（2001）

田中耕一ノーベル化学賞受賞／小柴昌俊ノーベル物理学賞受賞（2002）

個人情報保護法成立（2003）

自衛隊イラク派遣開始／北朝鮮拉致被害者5人が帰国／新潟県中越地震（2004）

4月1日	東京経営短期大学第4代学長に大橋信定就任
9月1日	東京経営短大村田女子高等学校第3代校長に伊藤淑子就任
2006年3月	東京経営短期大学留学生別科閉鎖
4月1日	東京経営短期大学第5代学長に亀田光昭就任
6月19日	村田照子逝去
6月20日	第3代理事長に亀田光昭就任
9月2日	「村田照子先生を偲ぶ会」開催（於、グラウンドパレス）
2007年4月1日	東京経営短大村田女子高等学校を「村田女子高等学校」と改称
10月	村田簿記学校を「専門学校村田経営義塾（夜間部経理専門課程経営者養成科）」と改称し再開 校長に亀田光昭就任 東京経営短期大学内に「村田記念館」開館
2008年4月1日	「村田学園小石川女子中学校」を村田女子高等学校に併設 校長に伊藤淑子就任
2009年21年	創立百周年 創立百周年記念事業「市川グラウンド整備」に伴うグラウンド開き 7月5日 10月 専門学校村田経営義塾閉校 11月2日 創立百周年記念式典（於、グラウンドパレス） 11月3日 「村田学園百周年記念誌」刊行

愛知で日本国際博覧会「愛・地球博」開催（2005）

野球のWBC第1回大会優勝（2006）

郵政民営化スタート（2007）

洞爺湖サミット開催／南部陽一郎、小林誠、益川敏英ノーベル物理学賞受賞／下村脩ノーベル化学賞受賞（2008）

新型インフルエンザ発生／米、オバマ大統領就任／民主党政権誕生（2009）

第二章

村田簿記学校
専門学校村田経営義塾
のあゆみ





昭和22年に再建された校舎



明治42年、創立当時の「銀行会社事務員養成所」校舎



旧1号館

旧1号館入口

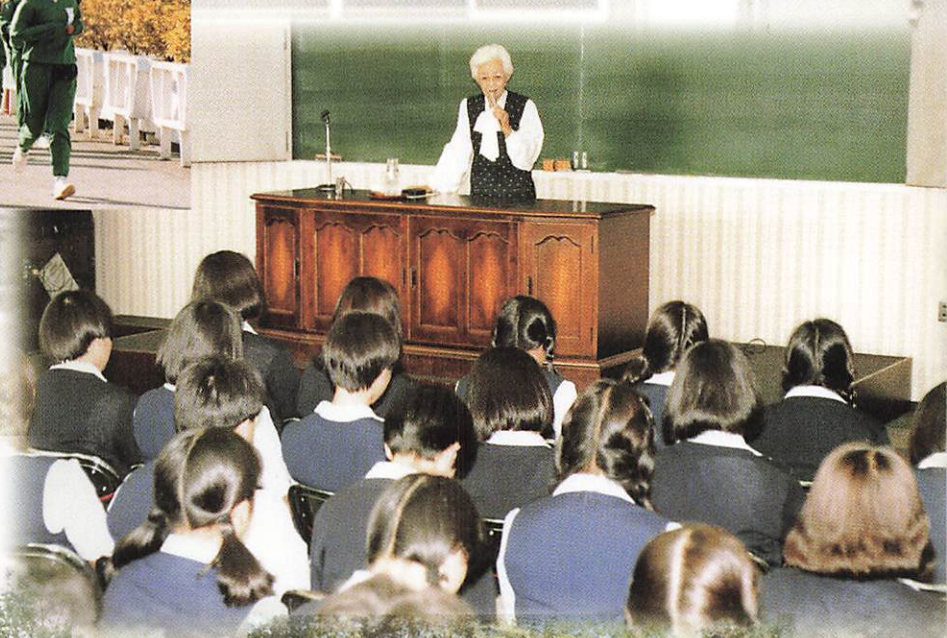


昭和33年当時の校舎





經理高等課程(昭和58年~平成13年)



村田簿記学校 歴代校長



村田 照子 (第二・五・七代)
昭和50年4月～平成6年3月
平成12年4月～平成13年7月
平成16年6月～平成18年6月



村田 謙造 (初代)
明治42年11月～昭和50年3月



西尾 康三 (第四代)
平成10年6月～平成12年3月



藤井 禧和 (第三代)
平成6年4月～平成10年5月



亀田 光昭 (第八代)
平成18年7月～平成19年3月
専門学校村田経営義塾
平成19年4月～平成21年10月



堀居 英治 (第六代)
平成13年8月～平成16年5月

村田簿記学校

Ⅱ 明治期、大正期 Ⅱ

銀行会社事務員養成所

明治三十九年三月、大阪高等商業学校二ヶ年を修了した村田謙造は上京し、会計事務所（村田会計監査所）を営みながら、簿記と珠算を普及する方法を模索していた。

当時、簿記という学問はまだ一般的なものではなく、一部の専門を志す人々のみに学ばれているにすぎなかった。「国力伸長」が叫ばれている時代に、産業経済の発展の基礎となる経理、記帳の方法を広く国民に浸透させる必要があると謙造は考えていた。

また、簿記に必須の条件である計算力、速算力を高めるため、その道具である算盤の練習も欠くことができないものであった。都市部での珠算教育の遅れを痛感していた謙造は、自らの四ツ珠算盤を押し広める意味を含め、会計事務所と同時に珠算教育にも着手していた。明治四一年、読売新

聞社主催の「全国珠算競技会」に選手として参加した謙造は、参加者一三一名中一三名が選ばれる金杯（優勝）を獲得している。

簿記、珠算の普及には、「学校」が最も適切であると確信していた謙造は、明治四二年「機は熟せり」と開校に踏み切った。

学校では簿記・珠算のみではなく、「人間としての教育」も重要な要素として組み込まれていた。そのため、謙造は、同郷で尊敬する吉田松陰の松下村塾にならった。簿記・珠算を広める松下村塾をという考えがその底流にあったからである。従って開校に際しては、師弟一体の教育を目指し、寄宿舎制にしている。

しかし、社会情勢をおもんばかると学生募集は一朝一夕にできることではなかった。自ら校名と所在番地を書いた紙を神田界隈の電柱に貼って歩いたという。それでも一五、六名集まった学生たちに対しては、簿記・珠算から雑巾がけまでを教え込んだ。その頃の様子を謙造は

私は朝三時間、昼から三時間、夜三時間教



明治42年創立 銀行会社事務員養成所

えました。学生も少ないし、むろん先生もいません。一人でやってました。さらに午後三時半から一時間、算盤だけの科がありましたのでそこでも教えました。一日一〇時間も教えたことになりません。

と話している。

やがて地方出身の入学者が増加してくると寄宿舎が不足し、謙造は自宅を開放するなどして対応することになった。寄宿舎（寮）制度は、大正一〇年の新築移転でも、また、関東大震災後に再建された校舎においても続行され、寮が設けられていた。

村田照子は、昭和の初めの頃の様子を、こう書いている。

寮生は、昭和五、六年頃まで学校の一隅に住んでいましたので、私も幼い時、春のお花見には、寮生の誰彼の背に負われて上野までつれていってもらったことを、おぼろげながらおぼえています。

銀行会社事務員養成所での生活については、卒業生、木村留七氏（第一章参照）が的確に証言している。

簿記や商事について学ぶことは、まだ一般的で

はなかったが、珠算においてはその必要性を認める人は多かった。「速く・正確に」は誰もが望むところではあったが、それを学ぶという意識は希薄なものであった。商家が我流を伝授するにすぎなかったからである。「よき指導者のもとで学び練習すれば必ず上達する」を旗印に、指導法に自信のある謙造は、珠算教育の場を作る決心をした。

村田速算学校

大正二年六月、「村田速算学校」が併設された。当時の都市部において珠算教育が遅れ気味であったことへ、一石を投じる役割を果たしたと言える。

仕事上最も必要とされる速算を教授することを目的とし、授業科目は次のようなものであった。

（珠算）

加法、減法（読上算、見取算、伝票算）、乗法、除法、簡便算法、利息算、諸等数、開平、開立等（暗算）

加減乗除

男子部と女子部の二部とし、初等科、高等科の二科で、それぞれ昼間部、夜間部に分かれていた。修業期間は全て一ヶ月で、毎月一日が新学期の開



村田謙造先生授業風景

始日である。授業時間は、昼間部は両科とも午後三時から四時三〇分まで、夜間部は初等科が午後六時から七時三〇分まで、高等科は午後七時三〇分から午後九時までで、全て一時間三〇分でカリキュラムが組まれていた。

入学資格は、小学校卒業以上については無試験であり、また、卒業時には高等科のみ卒業試験が実施されていた。

入学金は一円で、授業料は部・科に関係なく三円であった。

この学校の特色の一つは、珠算奨励のために毎月一回開かれた「速算競技会」である。成績優秀者には金牌、銀牌、銅牌が授与された。

村田簿記学校の学則

新築移転と同時に村田簿記学校と改称した頃の学校の内容は、大正一〇年三月制定の「村田簿記学校学則」によって窺い知ることができる。

それによると、目的は当然「簿記学を専門とし、事務上の最も必要とする速算を練習することにより、商業界での有能な人材の育成」である。

男子部、女子部を置き、修業期間は甲種生三ヶ月、乙種生六ヶ月であった。

授業科目は

簿記学（商業、会社工業、銀行）
商業実務、銀行実務珠算（速算）
授業時間は、午前八時～十一時

午後六時～九時

となっている。甲種生は毎日、午前午後の六時間を受講し、乙種生は毎日三時間授業を受けることと決められている。祝祭日、日曜日は休業としてはいるが、「夏期休業なし」の特記がある。

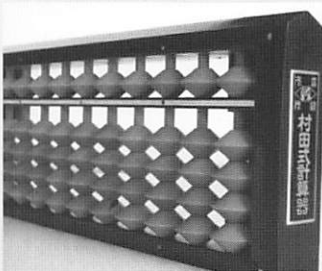
入学資格は高等小学校卒（又は同程度の学力）は無試験であったが、卒業に際しては商業、会社工業、銀行簿記、珠算の四科目の試験に合格することが必須の条件であった。また、入学期は毎月一日と定められている。

学費は、速修金（入学金）三円のほか、授業料は甲・乙種生ともに二五円で、さらに甲種生三回（九円）、乙種生六回（五円）の分納が認められていた。また、科目試験の受験料は、手数料として一科目二円が必要であった。

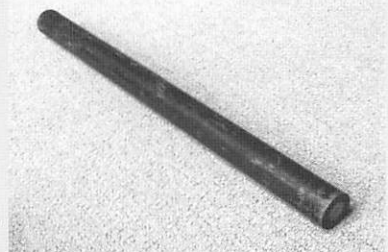
ほかにこの学校の特色は、「研究科」を設置していることであろう。内容は次のようなものである。

研究科

入学資格／中等学校卒業以上の学力があり簿



村田式計算器



ルーラー

（村田記念館所蔵）

謙造が遺したもの
～その1～

§ 村田式計算器 §

現在の算盤は、五を示す玉(五玉)が一つ、一を示す玉が四つ(一桁に玉が五つ)で「四ツ珠ソロバン」と言われている。しかし、江戸時代には五玉が一つのものや二つものがあり、いずれも一玉(地珠)は五つという算盤が使用されていた。当時の計算法には適していたと思われるが、明治期に入ると五玉が一つ、地珠五つの算盤が主流となった。運指法、運珠法の指導と簿記の計算を含む商業計算の方法が進化し、さらに速算が求められると、地珠が五つある必要性はなく、下の一つは無用なものとなった。

そこで謙造は、明治41年春、かねてより懸案していた四ツ珠ソロバンの実現にむけ、地珠を四つにした算盤を作製し、「村田式計算器」として発表、その普及に最善を尽くした。

昭和2年、服部源次郎氏は「珠算十二講」(国際書房刊)で、「東京の村田速算学校校長村田謙造氏は、明治41年春に四ツ珠算盤を創案せられた」と紹介、絶賛している。

画期的な算盤ではあったが、日本全国に行き渡るのには、かなりの時間を要している。五ツ珠算盤が完全に姿を消したのは昭和12年頃で、翌13年に文部省が国定教科書「小学算術」で4年生に四ツ珠算盤を使用させるに及んで、四ツ珠算盤が急速に普及していった。

村田式計算器(四ツ珠算盤)の特色は、その形にもあった。それまでの算盤は上辺が直角であったが、謙造はそれを三角形(山型)にカットしたのである。当時の経理事務担当者は、算盤とともに帳簿の罫線を引くためのルーラー(丸定規・簿記棒)が必要であった。一般的に使用されていたルーラーは、直径一時(約2.54センチ)、長さ一五吋(約38センチ)で、反りを防ぐため檜などの堅い材料を使い、さらに芯に鉛を入れることにより、かなり重量のある(約300グラム)棒であった。そのためルーラーの代わりに算盤の上辺を利用したが、当時安価で精巧にできた商品として風靡していたガラスペンをもってしても罫線は滲むことが多かった。この問題を解決したのが算盤の上辺を定規として利用できる村田式計算器であった。

現代の算盤は、全て村田式と言っても過言ではないが、敢えて謙造が発表当時の算盤に貼付した「村田式計算器」のプレートを張り販売している会社がある。福岡市の梶原商會がそれで、潘州(兵庫)で生産している自社製品「大和算盤」を村田式計算器とし、謙造が商品化した当時の姿を留めている。

～「村田式計算器」再び～

堅牢な作りで使い良い算盤を生徒たちに紹介してほしい、と照子校長の前で箱から算盤を取り出そうとしたとき、箱に印刷された文字が校長の目に留まった。「村田式」と記されていたのである。算盤を持ち込んだ人は、村田式が何であるか知る由もなかった。ただその会社では、長年一般的な算盤を村田式とし、競技に出場する選手や幼児が使用するための軽便な算盤を川村式として区別し、間違わぬよう、単に記号として使用したにすぎなかった。話を聞いてその人は、村田式をきちんと広めたいと考え、プレート使用の許可を取り付けた。昭和50年代末期の出来事である。



記の素養がある者に限る。

コース・期間／会計学（監査）六ヶ月

原価計算（英文・簿記）六ヶ月

授業日時／各コース週三日、午後三時～五時

学費／入学金三円、授業料月額三円

但し、簿記学校の在校生・卒業生は、入学金は免除。

学則には、この研究科に関して、特記というべき、次の条文がある。

「卒業生ニシテ本校研究科ニ入り、一ヶ年以上教務に従事シ、且ツ規定ノ理論ヲ研究シタル者ハ簿記教員及ビ分校設立ノ資格ヲ承認スルコトアルベシ」

入学希望者の増加に伴い「全寮制」は困難となったが、教育方針に些かも変化はなく、「師弟同行の教育」の思想が貫かれていた。

校友会の発足

大正一三年一〇月二〇日、校友会発足に向けての発起人会が村田簿記学校で開催された。発起人は二三名（うち職員二名）で、具体化案を提起し検討されている。

猶予期間を置いたのち、大正一五年の会則改正を経て本格的な活動が行われた。当時の会則によれば、事務所は簿記学校内、会長は簿記学校校長とし、会員は客員（教員等関係者）、正会員（卒業生）の二種であった。春秋二回の定期総会のほか年一回の校友会誌の発行が謳われている。会費は年二円であった。この年、会長（校長）、幹事長一名、常務幹事五名、幹事一六名が選出されている。



ソロバンの練習はレコードで！
東京商工會議所修業能力検定試験委員
全国珠算監査大審門委員
村田簿記学校校長・村田女子経理学校校長
村田 謙造 先生 敬 誌

文部省認定
東京商工會議所推薦
(認定番號第三七八號)

珠算能力標準レコード

第三級 讀上算 上下 (10074)
第二級 第一級 讀上算及讀上暗算
◇十時 各一圓五十錢 (10075)

珠算界に
投じた大ヒツ
に會社に學校に官廳に風の如き大歡迎をうけ、珠算能力標準者にとつては絶好の二の腕と賞賛がられて居ります。



算盤レコードの宣伝リーフレット



大正13年再建校舎

謙造が遺したもの
～その2～

§ 謙造の哲学 §

計算五訓

- 1 事業の基礎は計算にあり
- 2 事業の消長は計算にあり
- 3 計算は精密なるべし
- 4 計算は正確なるべし
- 5 計算は迅速なるべし

簿記五訓

- 1 正確記帳、万人明瞭
- 2 毎日記入、毎日試算
- 3 敏捷算入、確実決算
- 4 毎月決算、安全家計
- 5 正常収益、確実納税

謙造は、常に「数」の観念を身につけるよう強調している。何ごとも現状を数字で掲げれば、一目瞭然だからである。「如何なる事業にしても、誠意を以てそれにあたる者は、重要な数字的基礎の下に、あらゆる計画、施設、観察等いずれも数字の力にまたなければ、充分な成果を得ることはできない。社会が秩序的に進めば、ますます数字はその基礎としなければならない」と述べている。この考え方は、「有算者勝」や「算数無私情」に通じるものであり、数の概念は村田簿記学校での教育目標の一つであった。

また、数について謙造は、数学者のそれとは異なり、人間生活に最も身近な数についてであるとし、「私の道において『過去の数』は『未来の数』の指標となる。そして未来の無限なるを想うとき、『数』の必要性和その活用の重要性を知らねばならない」（全国商業高等学校協会会報、第50号）と数に対する哲学を説いている。

～算盤のレコード～

謙造が吹き込んだ「珠算能力標準レコード」がキングレコードから発売されたのは、昭和12年1月のことであった。戦後でこそ語学レコードを始め各種のものが売り出されたが、当時はまったく珍しい存在であった。レコードの多くは流行歌で浪曲、落語などが僅かに混じっていた。レコードは10吋盤（25センチ盤、78回転、その頃では普通の大きさ）で、定価は1円50銭で発売された。内容は、第三級読上算上下、第二級・第一級読上算、読上暗算からなっていた。発売時の宣伝リーフレットには、「文部省では、その優秀性を認めて『認定』を下されました。誰にも独習で勉強出来る様、珠算上達の秘訣を公開した懇切なテキストが添へてあります。珠算検定試験に容易に合格したい方は勿論珠算を短時日に上達したい方はこのレコードにお頼りになることが一番の近道です」と記されている。翌年、文部省は四ツ珠算盤を導入することになった。

村田謙造の著書

- 「最新商業簿記表解と公式」大阪屋書店（大正10年5月）
- 「最新商業簿記 上下二巻」王江堂書店（大正11年1月）
- 「最新銀行簿記」王江堂書店（大正11年10月）
- 「会社簿記講義」王江堂書店（大正13年9月）
- 「最新実践工場会計」王江堂書店（大正14年1月）
- 「最新商業簿記」富山房（昭和2年11月）
- 「受験簿記のねらい所」同文館（昭和9年4月）
- 「商店員自習録」富山房（昭和12年8月）
- 「標準珠算教科書 全四冊」富山房（昭和13年10月）



珠算偶感

あの頃……大正から昭和のはじめ……

村田謙造

私が志を立て、東京神田に現在の村田簿記学校の前身を創設したのは明治四十二年十一月、すでに五十年前前のことである。まだ簿記は世に知る人の少ない時であり、珠算は、その必要性は認められながらも、東京ではまだまだ幼稚な頃である。むしろ地方の方が盛んだったといえる。

珠算、簿記を中心とした実業教育に、身を挺しようとした私の前途は、容易なものではないと思われた。それだけに私は、むしろやり甲斐のあることとして、ひたすらこの道に進むことの決意を固くした。

時は間もなく大正に移り、第一次世界大戦後の落ち着きとともに、漸く一般の人々も珠算に関心を持つようにはなってきたものの、今から思えばまことに微々たるものであった。珠算塾もほとんどなく、僅かに少数の商業学校や、ごく限られた範囲の学校で指導するに過ぎない状態だった。

珠算の発展を妨げた原因の中で、当時としては未だ明治時代からの名残りで、士・農・工・商の階級的意識があったことも忘れてはなるまい。そろばんは商人のもので、高潔な人間の手にすべきものではない、というような誤まれる意識を持った人々が多かったことも事実である。

何とか生徒の興味を惹き、延いては一般の関心を高めようと考えた私は、かつての珠算選手としての経験を基に、競技会を開催することにした。

こうして始めた私の学校主催の競技会は、のちに百回を数えるにいたったが、当時、それは本校生徒を中心とする限られた分野と、特殊な地域に過ぎず、当然満足できるものではなかった。

しかし、この頃から徐々にではあるが、東京には多くの有能の士が集り、やがて盛りゆく珠算のきざしが芽生えていた。

我が国文化の中心である東京に、珠算の花を咲かせる基礎を創ろうと語り合った人々には、村林専之助、高井計之助、神尾錠吉、川村貫治、石上録之助、斎藤仁右衛門、脇田直弥、渋谷直一、山崎与右衛門その他の各氏があった。今はすでに故人となった人々もいるが、なつかしい斯道の先覚者達である。これらの人々の中で、高井計之助、村林専之助、川村貫治の諸氏と私が発起人となり、東京の珠算界の連絡機関として、そろばんの形態から名付けた「五一会」を創めたのは、たしか、大正十一年だったと記憶する。

今は遠くなった大正時代への、郷愁にも似たなつかしい思い出の一つである。

やがて大正も去り、昭和の時代を迎える頃になると、固かったつぼみが漸く開きそめるように、多くの人々の手によって培われた成果が現れてきた。この頃には地方からも気鋭の

士が続々と東京に集ってきた。

昭和三年二月から東京市実業教育局でおこなっていた、市立実業学校珠算奨励会の珠算検定試験を、前期の諸氏などとともに、一般に公開すべく努力し、ついに、これを東京商工会議所に移管せしめ、昭和六年二月、初めてその第一回の珠算能力検定試験を施行することに成功した。これがいま、全国一斉におこなわれている商工会議所の検定試験の始まりである。当時は東京のみでおこなわれ、受験者数百名を数えるに過ぎなかったこの検定試験も、現在は年間数十万の受験者があるという。まさに隔世の感といふべきだろう。

その頃は年一回、厳寒の二月に行われ、検定種目の中に読上算、読上暗算が含まれていたことは、知る人も少なくなってきた。

私も試験委員として各受験場を読み上げて廻った経験がある。暖房装置も現在のようでない寒い教室で、足をがたがたさせ、手をこすりながら試験開始を待った当時の受験生の中には、いまの教員が相当いるのではなからうか。

この検定試験を一契機として、東京の珠算学習者は漸増し、珠算塾も増加してきた。競技会も招待競技を中心に多く開かれるようになった。中には地方遠征を試みる学校もでてくるようになってきた。

こうして盛り上がってきた珠算熱を、さらに煽ったのは、昭和十一年に、同じく商工会議所の主催で、初めて大がかりな全国珠算競技大会を開催したことだ。当時の東京帝国大学、

いまの東京大学で、全国各地から選ばれた多くの選手達が、出身地名を入れた白だすきを肩に技を競う有様はまことに壮観だった。いまの国民珠算競技大会の前身である。

越えて翌昭和十二年、同じ東京帝国大学で第一回世界教育会議、ならびに汎太平洋教育会議が開催された。その席上、わが国の特技である珠算を紹介するよう要請され、東京の各商業学校から一名宛選抜し、模範演技を公開することになった。私も指導者の一員として読上算をおこなったが、選手達の熟達した指捌きは、世界各国から集った多くの碧い眼の教育者達に、「ワンダフル」を連発させたことである。その印象はいまだに私の脳裡に強く残っている。

以上は私の直接関係した事柄であるが、この頃から珠算は隆盛の一途を辿り、私達関係者を大いに喜ばせたものである。巷にそろばんを抱えた児童、生徒の姿が多くみられるようになったのもこの頃からである。

この時代の若き選手が、いま、日本の珠算界を背負って立っていることを考えれば、私達の微々たる努力も決して無駄ではなかったと考えている。

惜しむらくは、第二次世界大戦の勃発によって、その好むと好まざるとを問わず、幾多の若き俊英を戦野に失ったことである。私の直接指導した有為な青年も多数将来ある身を散らせてしまった。戦争は珠算界にも多大の被害をあたえていることは悲しい事実である。

〔「有算者勝」による〕

Ⅱ 昭和期 Ⅱ

戦時下の簿記学校

昭和改元からの一〇年間は、激動と不景気の時代と言われ、その後は軍事色一色に染められていくことになる。

この一〇年間で、村田簿記学校の学生の質が大きく変化してきた。大正期の入学者の学歴は、小学校卒業者が九〇パーセントを占めていたが、やがてその数字は僅か一〇パーセントを示すに至り、中学校卒業の入学者五〇パーセント、大学、専門学校卒業の入学者四〇パーセントになっていた。

実務教育の必要性が社会に認められ始めたのは、この時期からと言っても過言ではないであろう。村田簿記学校創立以来、三〇年間に及ぶ努力の結晶であった。

昭和四年十一月三日、三階建てコンクリートの近代様式建築の校舎が竣工した。その後、この校舎は、昭和一二年六月二日の夜隣家の電気商店から出火した炎により半焼してしまった。当夜は夜間部の授業中であったが、人的被害を受けることはなかった。しかし、直ちに改築工事を昼夜兼行

し、一ヶ月の速さで完成させ、仮校舎に収容していた学生を迎えたのは七月五日であった。

大正一五年から本格的な活動を始めた「校友会」ではあったが、その後の一〇年間は鳴かず飛ばずの状態が続くことになる。そこで昭和十二年一月一七日、村田簿記学校、速算学校、女子計理学校の「三校合同校友会」を目黒雅叙園で開催した。この総会で、評議員八名、幹事一四六名を新たに選出し、また、校友会の結合強化を図る目的で次の二件を可決した。

- 一、「村田学園新聞（昭和二年八月創刊）」の発行事務を校友有志より役員を出し援助する。
- 二、村田学園新聞の購読料金、年一円を校友は必ず負担すること。

時代はますます戦争の渦中にまきこまれ、「学徒動員」「学生勤労報国隊」「戦時非常体制」などの言葉とともに苦難の時代に突入する。

この頃の簿記学校で特記すべきは、地方からの入学者が多くなったことであろう。例えば昭和一八年三月組（昼間部）の卒業生は四〇名、うち東京に住所がある者二三名（但し、寄宿している者一〇名）であった。ほかは千葉県四、神奈川県、

学生数および教職員数

年度	男	女	合計	教職員
23	213	94	307	7
25	260	120	380	16
28	508	332	840	20
30	973	720	1693	30

※学生は附帯教育を含む
教職員は非常勤を含む

埼玉県、茨城県、福島県各二、北海道、青森県、秋田県、宮城県、栃木県各一となっている。

戦災からの校舎再建

戦争が終結し、急進するインフレーションのなかで、生産の停止と食糧難で社会は混乱していた。学校はそのほとんどが焼失し、復旧にはかなりの時間を要している。村田簿記学校が昭和四年に新築した校舎と同等のものを建設しようとしても物資不足の折で、全く不可能であった。

国民の総「浮浪化」時代と言われた昭和二年は、教育にまで手が回らないのが実情であったが、簿記学校の授業は続けられていた。当時の教員構成をみると、専任教員数は校長を含み二名、事務員一名、非常勤教員七名であった。

昭和二年一月、社会的混乱がやや落ち着きを取り戻した時期に、新校舎が落成した。都内の学校としては早い再建であった。その要因は、学園（特に謙造）の信用度が高く融資が受けられたこと、また、謙造に心酔する建築業者が協力を申し出たことなどであった。しかし、新築の校舎は木造二階建ての上下六教室のみで、事務などは、校舎の向かいの建物を借りて執務しなければならな

かった。

新校舎は落成したが、物資不足の折から内装工事は思うに任せず、窓ガラスさえもきちんと整えるのは不可能なことであった。そのような状況ではあったが、校長宅内の村田簿記学校に比べれば、新鮮でゆとりのある場所であった。

校舎の完成直後に移転し、また、当時倉庫を借用していた村田女子商業学校もここに移転させ、両校の授業が継続された。しかし、六教室では足りず近くの木造二教室を借用せねばならなかった。昭和二年、学生数は八〇〇名を超え、さらに近くの万崎ビルの一、四階を借り受け五教室を増加して対処した。

新校舎での新入生募集は、昭和二三年度生からであったが、その頃の様子は元教員、鈴木正彦氏

【本科】		
銀行簿記	3	
会計銀行簿記	2	
英文簿記	2	
原価計算	3	
会計及監査	2	
珠算	3	
税務会計	2	
実習	4	
修養講座及書道	3	
【遠成科】 (昼間部) (夜間部)		
商業簿記	4	3.5
会社簿記	2	2
工業簿記	1	1
珠算	2	2
修養講座及書道	2	
【専修科】 (選択科目)		
原価計算	4	
会社工業会計	3	
銀行簿記	3	
英文簿記	3	
青色帳簿	1	
税務会計	1.5	
会計学	3	
会計監査	1.5	
修養講座及書道	2	
【珠算専修科】		
珠算及暗算	5	
商業計算	3.5	
修養講座及書道	2	

授業科目と週授業時数
(昭和27年)

の言にその一端を窺い知ることができる。

昭和二二年正月、西片町の「村田簿記学校」の門を叩いた。当時の教室は村田校長の自宅の廊下を渡った離れの畳敷きの一間で、そこで初めて校長の聲に接し、簿記というものを学んだ。同年七月専修科夜間部修了、翌年春校長の要請にこたえ、窓ガラスも入らぬ神保町の学校で教壇に立つことになった。

私は昼間部の講義が済むとすぐ本屋に駆けこんで、夜間部の講義に備えて立ち読み勉強の毎日。時に夜間部の教員が急に欠勤する連絡があれば、講義に穴を開けぬように急遽校長に一クラスの講義をお願いし、自分に残る数クラスの講義を掛け持ちして急場をしのいだことも幾度かあった。

飛躍の礎となる新校舎が完成

簿記学校の教育体制も整いかけた昭和二七年、一年制本科が設けられた。それまでは速成科、専攻科、珠算専修科などの短期コースで教育が行われていた。速成科の修業年限は昼間部が三ヶ月、夜間部が四ヶ月、専攻科は昼夜間部とも三ヶ月、珠算専修科（夜間部）は三ヶ月だった。（授業科目

と週の授業時数は六七頁表のとおり）

昭和二七年度の学則によると、入学金は五〇〇円、授業料（月額）は本科が一〇〇〇円、速成科の昼間部が八〇〇円、夜間部が六〇〇円、専攻科の昼間部が八五〇円、夜間部が七五〇円。珠算専攻科は二五〇円、入学金は五〇〇円、試験料は一科目につき一〇〇円となっている。

昭和二七年度の在校生数は、同年五月一日現在で八〇五名である。短期コースは毎月開校されており、同二八年四月までに卒業・修了した者の数は二二七二名にのぼる。

昭和三二年、学生数の増加に伴う教室の不足が課題であった。そのためすでに一部を借用していた万崎ビルを取得し、拠点をすべてこのビルに移した。当初は第一校舎、のちに三号館と呼び名を変えている。同三二年の学生数は二八七八名であった。

昭和三八年三月、戦後の木造校舎から一変した鉄筋コンクリート地下一階、地上五階の校舎が完成した。建築面積約一四〇〇平方メートル、普通

本科昼間部（1年制）	950	1,600
◆ 夜間部（1年制）	550	
◆ 昼間部（2年制）	100	
速成科昼間部	237	692
◆ 夜間部	455	
専攻科昼間部		27
日商一級受験料	19	
会計学科	8	
専攻科夜間部		813
日商一級受験料	167	
会社会計科	194	
原価計算科	174	
会計学上級科	203	
法人税科	75	
合 計		3,132名

昭和38年4月入学者数

教室六室のほか多目的教室二室、事務室など多彩なものであった。総工費一億五〇万円を投じ、約一年の建築期間を要した。屋上に設置された「村田簿記」のネオン塔は、他を圧して話題となった。この校舎は、第二校舎と呼ばれた。

この年四月から、本科二年制が発足した。また、同時に「村田第二簿記学校」も発足することになる。前年九月に認可された村田第二簿記学校は、新校舎を使用することを原則とし、本科一年制、二年制、速成科、専攻科から成り、教員数専門一七名、非常勤一名、事務員二名、校医一名の構成であった。

しかし、村田第二簿記学校の名称は公にされることはなく、学生、教職員は何ら区別されることはなかった。《この年度の入学者は六八頁表のとおり》

村田第二簿記学校は、昭和五十一年一月村田簿記学校に統合された。この間の卒業・修了者数は約四万名である。

学生が急増した経済成長期

昭和三〇年代、簿記学校は大きな転機を迎えていた。学生の増加に伴う授業内容の充実、会計学の著しい進歩による税理士等の国家試験の難問化

など、従来の知識の上に新しい対応を迫られていた。教員は自らの学習と完璧な教材づくりに集中し、校舎に泊まり込んで作業をすることが多かった。この頃のことを元教員は「教員は教育に対する情熱の塊だった」と証言している。

昭和三〇年末から右肩上りの経済成長期となり、同四〇年以降は入学希望者が急増し、入学願書を午前中で締め切らねばならない年もあった。かつての教員たちの努力のたまものであった。

この体制は受け継がれ、やがて新学科の開講やコースの設置、三年制の導入などに結びついていった。

クラブ活動の開始

専門的能力と人間性のバランスがとれた人材の育成を目指すため、昭和六一年秋から、クラブ活動を正課に取り入れた。授業の一環として土曜日を活動日とし、施設、設備を全て開放して学生が望むクラブの活動の場を確保した。

これら正課のクラブのほかに「部」が設けられて、対外活動などで「村田」の名声を高めた。

特にバレーボール部はめざましい活躍を続け、数々の記録を残している。



昭和40年願書受付風景

平成元年度のクラブ等は下表のとおりであった。

八〇周年を機に校友会が再発足

昭和六三年九月、学園創立八〇周年を前に、第一回校友会総会が村田学園市川校舎において開催された。従来の校友会を一新し、学園発展のために活動をより活発化させるという意図であった。

この総会で、齋藤力夫氏が会長に選ばれたほか副会長一名、理事二三名、監事二名が選出された。再発足した校友会では、卒業生名簿の整備や会報の発行などが精力的に行われた。

その後は毎年一回総会が開催され、平成八年六月の総会では、齋藤力夫会長の後任に第二代校友会会長として、河合洋氏が選出された。

簿記学校が閉鎖され、校友会は必然的に解散となると、本来の目的は同窓会的な意図であるため、この機構は多くの卒業生のために現在も残されている。

国際化・情報化への対応

国際化・情報化社会に対応して、昭和六二年四月「国際ビジネス科」が誕生した。すでに同五四

年七月から教員のアメリカ研修が実施されていたが、それは学科の設置と学生の海外での研修に向けた布石であった。

昭和五八年七月、学生の第一回アメリカ研修旅行が二〇名の参加で実施された。州立ワシントン大学での語学と会計学の研修、さらにカナダ、ロサンゼルス、ハワイの観光も含まれた二週間余のコースであった。昭和六三年からは、春期も行われるようになり、平成三年夏期の終了まで恒例行事として続けられてきた。

Ⅱ 平成期 Ⅱ

多くの成果を残した「簿記学校」

平成元年、改元とともに創立八〇周年を迎え、学園にとっては創立以来最も盛大な記念行事が執り行われた。それは九〇年に向かつての洋々たる船出であった。

その後の一〇年間は入学者数の減少は見られるものの、平坦な道のりが続くことになる。しかし、この時期から教員たちは入学者確保のために、かなりの労力を費やすことになった。

一方、学生たちは対外活動を活発に行い、多く

部活動等一覧(平成元年度)

同好会		部
文芸系	文芸系	体育系
文芸系	文芸系	バレーボール
文芸系	文芸系	剣道
文芸系	文芸系	野球
文芸系	文芸系	卓球
文芸系	文芸系	サッカー
文芸系	文芸系	アイススケート
文芸系	文芸系	社交ダンス
文芸系	文芸系	ソフトボール
文芸系	文芸系	ビリヤード
文芸系	文芸系	オセロ
文芸系	文芸系	サッカーク
文芸系	文芸系	バスケットボール
文芸系	文芸系	ハンドボール
文芸系	文芸系	ゴルフ
文芸系	文芸系	ローラースケート
文芸系	文芸系	エアロビクス
文芸系	文芸系	テニス
文芸系	文芸系	ジョギング
文芸系	文芸系	太極拳
文芸系	文芸系	ボウリング
文芸系	文芸系	バドミントン
文芸系	文芸系	ヨガ

平成二二年度校友会役員	
会長	細谷 宣夫
幹事	二名
会計	一名

の成果を収めている。学校新聞「かわら版」には次のような見出しが記されている。

(平成五年)

全関東で堂々の二冠達成 簿記珠算大会

全国は珠算二等、簿記四等

(平成六年)

電卓で全国制覇 珠算は二等

(平成七年)

全経関東大会 珠算は高等課程とダブル優勝

電卓二等 簿記も三等に入賞

(平成九年)

平成九年度全国珠算簿記電卓競技大会

珠算団体で準優勝 電卓部門は四位に入賞

(平成一一年)

全経協会全国大会

珠算の部で準優勝

平成一六年六月の理事会では平成一七年度経理専門課程の募集停止が承認され、同一年一月には、専門学校村田経営義塾と改称した夜間の経理専門課程の募集再開が承認されることになる。

ニーズの多様化に伴う学科変更の取組み

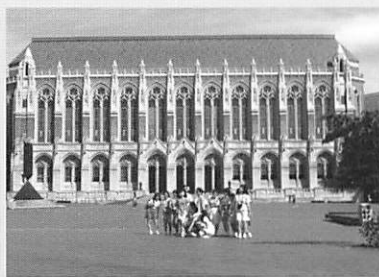
情報化社会が進むにつれ、各種の情報が生徒にも浸透していき、進学者のニーズが分散されてくる。専門的知識をより深く、あるいは一般的な知識を幅広くなど、一つの学科の中でも学び方は様々ある。そこで、平成七年度から経理情報科に「情報システムコース」(三年制・昼間部)と「情報ビジネスコース」(二年制・昼間部)を、また経理ビジネス科(二年制・昼間部)には、「マネジメントコース」「トレーディングコース」「マーケティングコース」「ファイナンシャルコース」の四コースを導入した。《各コースのカリキュラムは別表七四頁参照》

その後、税理士科を除き、各科に名称を変えたコースが誕生した。

このような状況下で特筆すべきは、「キャリア・アップコース」である。就職戦線を前にした大学、短大、専門学校の卒業生を対象としたコースで、一年間で簿記、ビジネス関連の検定試験合格とビジネス知識やコンピュータを習得することを目指すとしている。このコースは、平成八年四月から経理ビジネス科(一年制・昼間部)のコースの一



アメリカ研修旅行



学校新聞「かわら版」

つとして開講した。

社会人にも広く門戸を開放

職業教育については、あらゆる年代の人たちがその必要性を感じる時代となった。特に中高年者に求める声が多く、古くからの附帯教育は広範な分野を網羅したものとなった。

平成八年度の本科と附帯教育の講座は、次のとおりであった。

〔税理士受験講座〕

税理士本科（一六ヶ月・一二ヶ月コース）

税理士単科

〔生涯学習講座〕

簿記検定受験講座（各級）

村田OAスクール（パソコン、ワープロ、シス

テムアドミニストレータ）

宅建コース

建設業経理事務士受験講座

税の実用セミナー（所得税、法人税、相続・贈

与税、消費税）

秘書検定一・二級コース

そのほかに、各種検定試験情報、受験対策問題

や解説などの情報がFAXで取り出せる「村田スーパーFAX講座」、家庭で学べる「村田簿記通信講座」などがあった。

昭和五十六年度よりそれまでの教務部のほかに第二教務部を編成し、本科と附帯教育を中心に授業を行った。また、この年三号館と隣合せの二階建てビルを内装し、就職指導室、カウンセリングルームとして開館した。この建物は、住所の番地に因んで「ワン・イレブン館」と呼ばれた。

「専門士」の称号と大学編入学

大学卒業者を「学士」、短大、高等専門学校卒業者を「準学士」という称号に対応して、平成六年から、専修学校卒業生に「専門士」の称号が付与されるようになった。

専門士の称号を得るには、

一、修業年限二年以上

二、課程修了に必要な授業時間数が一七〇時間以上

三、試験などで成績を評価し、これに基づいて課程修了の認定を行っている

という三条件を満たすと文部科学大臣が認めた学科を卒業することが必要である。

卒業証書
税理士科

昭和 年 月 日生
あなたは本校所定の専門課程24年を修了したことを証し専門士資格取得の称号を授与する

平成 年 月 日
村田簿記学校 校長 田原 隆雄

学生数および教職員数の推移
(附帯教育を含み、経理高等課程を除く)

年度	学生数	教職員数			
		専任教員	非常勤教員	職員	合計
昭和60年度	1,638	58	16	33	107
昭和62年度	1,914	54	7	30	91
昭和63年度	1,881	49	15	32	96
平成元年度	1,826	60	7	34	101
平成3年度	2,902	74	0	43	117
平成6年度	1,337	70	5	42	117
平成9年度	759	55	3	31	89
平成12年度	328	41	1	18	60
平成16年度	181	20	9	5	34

なお、卒業証書等の表記については、カッコ書きで修了分野の専門課程名を付記することになっている。村田簿記学校の場合は、専門士（商業実務専門課程）である。

学校教育法第132条の規定に合致する学科の設置年数

設置・終了年	簿記科（昼2年制）	国際ビジネス科（昼2年制）	税理士受験科（昼2年制）	経理情報処理科（昼2年制）	経理秘書科（昼2年制）	経理ビジネス科（昼2年制）	経理ビジネス科（夜2年制）	税理士科（昼2年制）	税理士科（昼3年制）	経理情報科（昼2年制）	総合ビジネス科（昼2年制）	情報ビジネス科（昼2年制）	情報ビジネス科（夜2年制）
昭和51	↑												
昭和61	↑												
昭和62	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑						
昭和63	↓	↑	↑	↑	↑	↑	↑						
平成元		↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑					
平成2		↓	↓	↓	↓	↓	↓						
平成7									↑	↑	↑		
平成8		↓	↓						↑	↑	↑		
平成9									↑	↑	↑	↑	
平成10						↓			↑	↑	↑	↑	
平成11									↑	↑	↑	↑	
平成12					↓				↑	↑	↑	↑	↑
平成13									↑	↑	↑	↑	↑
平成14								↓	↓	↓	↓	↓	↓
平成18								↓	↓	↓	↓	↓	↓

学校教育法第一三二条^(注)は、専修学校から大学への編入制度についての条文である。この法律は平成一一年度から施行され、村田簿記学校はこの基準に合致する学科を昼間部、夜間部あわせて一四学科を開講していた。（左表参照）

（注）学校教育法第一三二条「大学への編入」
専修学校の専門課程（修業年限が二年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者は、文部科学大臣の定めるところにより、大学に編入学することができる。

●学科編成の変遷

年度	学科名	修業期間
昭和 60 年度	簿記科	(2 年制・1 年制、昼・夜)
	第Ⅰ財務科	(1 年制、昼・夜)
	第Ⅱ財務科	(1 年制、昼・夜)
	会計士本科	(1 年 4 ヶ月制、昼)

昭和 62 年度	国際ビジネス科	(2 年制、昼)
	税理士受験科	(2 年制、昼)
	経理情報処理科	(2 年制、昼)
	経理秘書科	(2 年制、昼)
	経理ビジネス科	(2 年制・1 年制、昼・夜)
	第一税理士本科	(1 年 4 ヶ月制、昼・夜)
	第二税理士本科	(1 年制、昼・夜)
	会計士本科	(1 年 4 ヶ月制、昼)
	会計士上級科	(1 年制、昼)
	簿記科	(2 年制・1 年制、昼・夜)

平成 3 年度	国際ビジネス科	(2 年制、昼)
	税理士科	(2 年制、昼)
	経理情報処理科	(2 年制、昼)
	経理秘書科	(2 年制、昼)
	経理ビジネス科	(2 年制・1 年制、昼・夜)
	第一税理士本科	(1 年 4 ヶ月制、昼・夜)
	第二税理士本科	(1 年制、昼・夜)
	会計士本科	(1 年 4 ヶ月制、昼)
	会計士上級科	(1 年制、昼)
	速成科	(2 ヶ月制、昼・夜)
	専攻科	(2 ヶ月制、昼・夜)
	経理実務コース	(2 ヶ月制、昼・夜)
	税理士単科	(2 ヶ月制、昼・夜)
	会計士単科	(2 ヶ月制、昼・夜)
	ワープロ科	(1 ヶ月制、夜)

平成 12 年度	税理士科	(3 年制・2 年制、昼)
	経理情報科	(2 年制、昼)
	経理秘書科	(2 年制、昼)
	総合ビジネス科	(2 年制、昼)
	情報ビジネス科	(2 年制、昼)
	経理ビジネス科	(2 年制・1 年制、昼・夜)
	第一税理士本科	(1 年 4 ヶ月制、昼)
	第二税理士本科	(1 年制、昼)



まんがソロバン塾
(平成4年9月初版発行)

村田簿記学校入学式



入学式

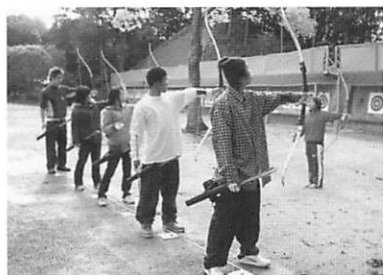
●経理情報科コース別カリキュラム

情報ビジネスコース

授業科目	1年次	2年次
	授業時間 (年間)	授業時間 (年間)
ソフトウェア	80	80
ハードウェア	80	80
プログラミング	180	120
データ管理	80	100
システム設計	—	80
表現技法	40	40
EUC概論	—	60
オペレーションズリサーチ	—	60
商業簿記	160	—
会計学	120	—
工業簿記	80	—
原価計算	—	120
管理会計	—	40
財務会計	—	40
所得税法	—	60
法人税法	—	60
経済学	40	—
商業計算	100	20
商法	—	40
ペン習字	40	—
ワープロ	20	—
英文簿記	—	20
一般教養	—	40
総合演習	120	50
合 計	1,140	1,110

情報システムコース

授業科目	1年次	2年次	3年次
	授業時間 (年間)	授業時間 (年間)	授業時間 (年間)
ソフトウェア	80	100	100
ハードウェア	80	100	100
プログラミング	180	180	40
データ管理	80	100	100
システム設計	—	80	120
システム開発	—	60	—
表現技法	40	40	40
EUC概論	—	60	60
経営学	—	—	60
オペレーションズリサーチ	—	60	—
商業簿記	160	—	—
会計学	120	—	—
工業簿記	80	—	—
原価計算	—	120	—
管理会計	—	40	100
財務会計	—	40	100
所得税法	—	—	60
法人税法	—	—	60
経済学	40	—	—
商業計算	100	20	—
商法	—	40	—
ペン習字	40	—	—
ワープロ	20	—	—
英文簿記	—	20	—
卒業研究	—	—	80
一般教養	—	40	—
総合演習	120	70	90
合 計	1,140	1,170	1,110



校外授業風景

授業風景



●経理ビジネス科コース別カリキュラム

トレーディングコース

授業科目	1年次	2年次
	授業時間 (年間)	授業時間 (年間)
経済学	40	—
経営学	60	—
戦略経営	—	40
経営分析	—	40
商法	—	40
商業簿記	280	20
会計学	80	20
工業簿記	80	20
原価計算	80	20
管理会計	—	40
財務会計	—	80
コンピュータ会計	—	20
所得税法	—	60
法人税法	—	60
情報処理	—	100
商業計算	100	20
ワープロ	—	20
総合演習	100	90
リーディング	120	80
ライティング	80	40
英会話	80	80
ビジネス英語	40	40
貿易英語	—	40
貿易実務	—	80
英文財務諸表	—	20
国際情報論	—	20
国際経営論	—	20
合 計	1,140	1,110

マネジメントコース

授業科目	1年次	2年次
	授業時間 (年間)	授業時間 (年間)
経済学	40	—
経営学	60	—
戦略経営	—	100
経営分析	—	60
商法	—	20
商業簿記	340	100
会計学	140	100
工業簿記	160	120
原価計算	120	140
管理会計	—	40
コンピュータ会計	—	20
所得税法	—	80
法人税法	—	80
英文簿記	—	20
情報処理	—	100
ペン習字	40	—
ビジネス文書	40	—
商業計算	100	20
ワープロ	—	20
一般教養	—	40
総合演習	100	50
合 計	1,140	1,110



スノーボード教室



スポーツ大会

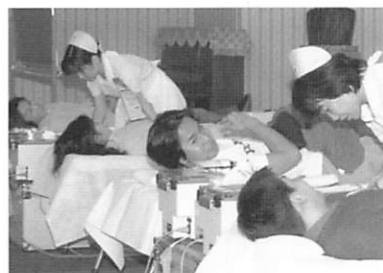
第二章 村田簿記学校・専門学校村田経営義塾のあゆみ

ファイナンシャルコース

授業科目	1年次	2年次
	授業時間 (年間)	授業時間 (年間)
経済学	40	—
経営学	60	—
戦略経営	—	40
経営分析	—	60
商法	—	40
商業簿記	300	60
会計学	140	20
工業簿記	160	60
原価計算	120	60
管理会計	—	40
財務会計	—	70
コンピュータ会計	—	20
所得税法	—	40
法人税法	—	40
英文簿記	—	20
情報処理	—	100
ペン習字	40	—
ビジネス文書	40	—
商業計算	100	40
ワープロ	—	20
一般教養	—	40
総合演習	100	90
ビジネス英語	—	40
財務管理	40	70
手形・小切手法	—	70
金融論	—	70
合 計	1,140	1,110

マーケティングコース

授業科目	1年次	2年次
	授業時間 (年間)	授業時間 (年間)
経済学	40	—
経営学	60	—
戦略経営	—	100
経営分析	—	60
商法	—	40
商業簿記	340	20
会計学	140	20
工業簿記	160	20
原価計算	120	20
管理会計	—	40
財務会計	—	80
コンピュータ会計	—	20
所得税法	—	80
法人税法	—	80
英文簿記	—	20
情報処理	—	100
ペン習字	40	—
ビジネス文書	40	—
商業計算	100	40
ワープロ	—	20
一般教養	—	40
総合演習	100	90
ビジネス英語	—	40
マーケティング	—	140
総合実践 (ビジネスシミュレーション)	—	40
合 計	1,140	1,110



献血風景



メイクアップ講座

●卒業生数(平成元年度以降)

平成5年度

区分		学 科	卒業生数	
			男	女
昼間部	2年制	税理士科	61	36
		経理秘書科	0	57
		経理情報処理科	87	109
		経理ビジネス科	160	84
		国際ビジネス科	8	7
夜間部	1年制	経理ビジネス科	28	22
	2年制	経理ビジネス科	11	18
	1年制	経理ビジネス科	8	7
総 計			703	

平成元年度

区分		学 科	卒業生数	
			男	女
昼間部	2年制	税理士受験科	52	78
		経理秘書科	0	119
		経理情報処理科	76	140
		経理ビジネス科	121	90
		国際ビジネス科	8	18
夜間部	1年制	経理ビジネス科	39	52
	2年制	経理ビジネス科	4	5
	1年制	経理ビジネス科	19	4
総 計			825	

平成6年度

区分		学 科	卒業生数	
			男	女
昼間部	2年制	税理士科	76	29
		経理秘書科	0	47
		経理情報処理科	75	64
		経理ビジネス科	133	56
		国際ビジネス科	4	5
夜間部	1年制	経理ビジネス科	22	53
	2年制	経理ビジネス科	12	5
	1年制	経理ビジネス科	10	7
総 計			598	

平成2年度

区分		学 科	卒業生数	
			男	女
昼間部	2年制	税理士科	59	56
		経理秘書科	0	108
		経理情報処理科	73	148
		経理ビジネス科	146	81
		国際ビジネス科	11	13
夜間部	1年制	経理ビジネス科	47	28
	2年制	経理ビジネス科	17	6
	1年制	経理ビジネス科	4	2
総 計			799	

平成7年度

区分		学 科	卒業生数	
			男	女
昼間部	2年制	税理士科	69	53
		経理秘書科	0	39
		経理情報処理科	34	59
		経理ビジネス科	121	81
		国際ビジネス科	2	8
夜間部	1年制	経理ビジネス科	19	40
	2年制	経理ビジネス科	16	8
	1年制	経理ビジネス科	7	8
総 計			564	

平成3年度

区分		学 科	卒業生数	
			男	女
昼間部	2年制	税理士科	73	43
		経理秘書科	0	119
		経理情報処理科	126	104
		経理ビジネス科	178	105
		国際ビジネス科	7	13
夜間部	1年制	経理ビジネス科	38	42
	2年制	経理ビジネス科	15	2
	1年制	経理ビジネス科	8	8
総 計			881	

平成8年度

区分		学 科	卒業生数	
			男	女
昼間部	2年制	税理士科	32	19
		経理秘書科	0	25
		経理情報科	28	26
		経理ビジネス科	101	44
		国際ビジネス科	10	36
夜間部	1年制	経理ビジネス科	12	7
	2年制	経理ビジネス科	8	8
	1年制	経理ビジネス科	8	8
総 計			356	

平成4年度

区分		学 科	卒業生数	
			男	女
昼間部	2年制	税理士科	60	42
		経理秘書科	0	109
		経理情報処理科	93	114
		経理ビジネス科	189	85
		国際ビジネス科	10	10
夜間部	1年制	経理ビジネス科	37	42
	2年制	経理ビジネス科	21	11
	1年制	経理ビジネス科	3	7
総 計			833	

第二章 村田簿記学校・専門学校村田経営義塾のあゆみ

平成13年度

区分		学 科	卒業者数	
			男	女
昼間部	3年制	税理士科	11	6
	2年制	税理士科	15	10
		情報ビジネス科	27	37
	1年制	経理ビジネス科	6	11
夜間部	2年制	経理ビジネス科	6	4
	1年制	情報ビジネス科	2	3
総 計			138	

平成14年度

区分		学 科	卒業者数	
			男	女
昼間部	2年制	税理士科	8	5
		情報ビジネス科	14	25
	1年制	経理ビジネス科	6	10
夜間部	2年制	経理ビジネス科	11	4
	1年制	情報ビジネス科	0	1
総 計			84	

平成15年度

区分		学 科	卒業者数	
			男	女
昼間部	2年制	税理士科	11	7
		情報ビジネス科	7	22
	1年制	経理ビジネス科	5	6
夜間部	2年制	情報ビジネス科	6	4
	1年制	情報ビジネス科	1	0
総 計			69	

平成16年度

区分		学 科	卒業者数	
			男	女
昼間部	2年制	税理士科	10	4
		情報ビジネス科	19	18
	1年制	経理ビジネス科	9	7
夜間部	2年制	情報ビジネス科	3	3
	1年制	情報ビジネス科	2	1
総 計			76	

平成17年度

区分		学 科	卒業者数	
			男	女
昼間部	2年制	税理士科	10	2
		情報ビジネス科	20	19
	1年制	経理ビジネス科	9	7
夜間部	2年制	情報ビジネス科	4	0
	1年制	情報ビジネス科	2	1
総 計			55	

平成9年度

区分		学 科	卒業者数	
			男	女
昼間部	3年制	税理士科	30	18
		経理情報科	5	4
	2年制	税理士科	23	9
		経理情報科	31	35
		経理秘書科	0	31
	1年制	経理ビジネス科	66	29
夜間部	2年制	経理ビジネス科	8	24
	1年制	経理ビジネス科	13	8
総 計			342	

平成10年度

区分		学 科	卒業者数	
			男	女
昼間部	3年制	税理士科	26	8
		経理情報科	10	5
	2年制	税理士科	19	11
		経理情報科	26	31
		経理秘書科	0	15
	1年制	総合ビジネス科	60	19
夜間部	2年制	経理ビジネス科	16	19
	1年制	経理ビジネス科	11	3
総 計			291	

平成11年度

区分		学 科	卒業者数	
			男	女
昼間部	3年制	税理士科	32	8
	2年制	税理士科	15	10
		経理情報科	28	12
		経理秘書科	0	13
	1年制	総合ビジネス科	47	17
		経理ビジネス科	15	11
夜間部	2年制	経理ビジネス科	8	4
	1年制	経理ビジネス科	6	4
総 計			230	

平成12年度

区分		学 科	卒業者数	
			男	女
昼間部	3年制	税理士科	14	9
	2年制	税理士科	7	9
		経理情報科	18	13
		総合ビジネス科	18	18
	1年制	経理ビジネス科	3	12
夜間部	2年制	経理ビジネス科	8	3
	1年制	経理ビジネス科	3	3
総 計			138	

100周年に寄せて

坂本正利先生の思い出

西尾 康三



一九七二年春、八月に実施される税理士試験のため、受験準備の講座を受講することにした。受講希望者がその年日本中で最も多かったと思われる、村田簿記学校の坂本先生、簿記論の講座である。当時、本科生として在籍していたのであるが、受講権利確保の特典はなく、前夜一二時前から順番待ちのために並んだ。

一二〇名ほどの教室に、収容能力限界の一五〇名あまりが入り、教室は熱気に満ちていた。初回の授業で講師の先生が「申し込みは一五〇名でしたが、現在一五二名の方が着席しています。二名は権利がない状況でここに居ることになります。心当たりのある方は手を挙げてください。申し出があるまで授業は始めません。」とキツパリと宣言された。皆が呆然と教卓を見つめる中、二名が手をあげ、「今から申し込んできます」といいながら席を立ちかけた。その時先生は「既に締め切ったと聞いていますが、受付で相談をしてみてください。権利が発生したら歓迎します。」と仰って、

二名を教室から外に出し、「始めます」と叫んで授業に入った。何事もなかったように熱く発せられる声は頭脳を刺激しまくった。その声のやたらと大きい、目のクリクリした先生が坂本正利先生である。

指導者というより、叫ぶ職人の香りを放つ先生で、学ぶというよりも教え込まれる感覚を強く持った。自分が今まで抱いてきた、求めなければ得られない、思いの強さが成果の大きさを生む、との思いが打ち碎かれた。教室まで辿り着きさえすれば何とかしてもらえ、その日の成果を必ず持たせて帰してくれる、と、実感した。

村田簿記学校の評価の根源は、個々の人の力の大きさ、強さであった。兵法に言う「有算者勝」の真髄は、戦いに勝つためには「需要があるか、タイミングは良いか、立地はどうか、優れたリーダーは、システムは合目的か」などに加え人の力が重要であり、それら全ての合計が戦力である。と、孫子は説いた。

100周年を迎えて、想う

橋本 一男



多分、昭和23年頃だと思う。

受付の事務室に、女子事務員が一人居た。寒い寒いと火鉢の上で手を擦っていた。たしかに寒い日でした。私は火簍で灰をどけて暖かい所を探した。しかし、その場所は、何処にもなかった。

「炭が入ってないじゃないか」と言うと、女子事務員は「炭は自分のを使うんですけど、私、今日炭を忘れたんです」と答えた。

ここまで読まれた方は、「ずいぶんケチな学校だな」と思われるかもしれませんが、実は前年、学園は空襲で焼失した校舎を再建、教職員が一丸となって再起をはかっている時だったのです。このエピソードから、当時の世相もさることながら、教職員の気概がおわかりかと思います。

後年私が研修旅行でオーストラリアに行った時は、校長からオプションの費用を充分頂きました。

普段は節約に徹するが、必要な時、将来のためには惜しまない、こうした校長の姿勢が、その後の学園の発展につながったと言えるでしょう。

100周年を過ぎて、200年にむけて更に発展してほしいと願っています。

(はしもと・かずお／元 村田簿記学校教員)

そんな教師になれたらと思いい、坂本先生に相談をし、村田簿記学校での教師生活が始まった。教え込むほどの自信はとうてい無いが、諦めずに思いを持ち続けさえすれば何とかなる、との思いは、一年間、連続挑戦をして税理士試験を完了させた愚弟の秘かな確信で

ある。

今も元氣にお暮らしの先生であるが、お会いする時にはわけもわからず緊張する。

(にしお・こうぞう／昭和四八年卒業、第四代校長)

MCAI

Murata Computer Assisted Instruction



簿記の知識は村田謙造が洞察したとおり、今やビジネスにかかわる総ての人に必須となっている。経理の部署はもちろん、その他の部署においてもコスト意識が業績を左右すると言われるようになり、計数的なセンスが不可欠になってきたからである。ところが一般の人にとって、就職前あるいは入社後において簿記を学ぶことは並み大抵ではない。教員には恵まれないうし、優れたテキストは数えるほどしかないのが実情であった。

この問題を解決したのがMCAIで、昭和六一年に発表された。

MCAIはコンピューターの記憶・検索・計算などの諸機能を学習活動に活用しようというものである。語学や一般教科においては完成度の高いソフトが開発されている。ところが、簿記のソフトについては、テキストの字句を単に画面上に移した程度のものしか発売されていなかった。とくに専門教科に関しては、教授上のポイントをソフト開発者が取り込んでいくことが難しく、

最大のネックになっていた。

村田簿記学校では八〇年にわたる簿記教育の実績と、昭和五五年以来の情報処理教育に関する研究成果を結集し、俵久友情報技研の協力のもと、この画期的なソフトの開発に成功した。

当時は一般向けとして「簿記入門編」と「簿記三級編」が商品化され、村田簿記学校の新入生に対する導入教育や企業の社員教育などに活用されていた。

具体的には、「簿記入門編」は、仕訳から損益計算書・貸借対照表の作成までを、また「簿記三級編」は、「簿記入門編」終了後、あるいは基本的な複式簿記の仕組みを理解している人を対象に、預貯金・商品売買・有価証券・固定資産などの項目を、パソコンを用いて容易に理解を深め、納得のいくまで学習ができるように工夫されている。

「簿記三級編」は日本商工会議所などの各団体主催の簿記検定試験三級に照準を合わせている。

村田簿記学校経理高等課程

昭和五八年、三年制の商業科開設

昭和五七年、専修学校に「高等課程」を開設している学校数は全国で七八四校（うち商業実務関係は四六校）あり、約七万三〇〇〇名の生徒たちが学んでいた。

昭和四一年頃より高校の多様化が進み、職業を主とする学科は細分化され進学者は増えたものの、やがて学歴社会の到来により、大学入学希望者が多くなり、普通科重視の傾向が強くなった。職業高校のうち、特に商業科においては、就職と直結するものと考えられていたため、公立の商業科は女子校化し、また、私立の男子校では廃止の憂き目を見るものもあった。

こうした状況のなかで、商業を学び資格を取得したいと考えている生徒・保護者の要請に応えるため、昭和五八年四月、中学校卒業者を対象とした経理高等課程（商業科・三年制・共学）を開設したのである。

高校とは一線を描すカリキュラム

高等課程は、専修学校の課程の一つである。従って、一般的な高等学校のように「学習指導要領」の制約を受けることはなく、「常にその教育水準の維持向上に努める」、「授業時数は、学科ごとに、一年間にわたり、八〇〇時間以上」などの条件はあるものの、自由に専門分野のカリキュラムを組むことができた。

教育内容をみると、簿記・珠算（のち情報処理などの情報関係に移行していくが）関係の授業は一年次に約四〇〇時間、年間授業時数一一九〇時間の三割強を占めている。一、二、三年次は情報処理、パソコン（開設当初はタイプ、ワープロ）総合実践、商業デザインなどのウェイトが高くなっている。専門教科は年間六六五時間あてられ、ほかに国語、数学、英語、体育、書道など一般教科に年間四二〇時間、ホームルーム、読書、調理実習などの特別活動に一〇五時間があてられている。

そのようななかで、高校で学ぶ生徒たちと比べ



経理高等課程校舎

て遜色がない生活を過ごさせるため、校外授業、合宿、修学旅行、体育祭、部活動、各種競技大会などの学校行事にも力を注いだ。また、教材の多くは高等学校用の教科書を使用した。

あきらめない、あせらない、一歩ずつ努力する

第一期生の募集定員八〇名に対し、八五名が入学した。専修学校として多くの実績を残している村田簿記学校は、検定受験を始めとする商業実務関連の指導方法には卓越したものを持っていたが、当初は高等課程の生徒たちに対して充分その力を発揮することはできなかった。小・中学校の学習活動のなかで疎外され、自発的学習意欲に乏しい生徒がいたからである。生徒全体に、学習指導よりも生活指導に重点を置いた学校生活を送らせることを余儀なくされた。

そこで、教室に、

一、あきらめないこと

二、あせらないこと

三、一歩一歩努力すること

という校訓を掲げ、毎日復唱させたりした。さらに、「朝起きて 鏡を見たら ニッコニコ」の教訓を実践するように指導もした。

昭和六〇年代に迎えた最盛期

五里霧中のなかで出発した高等課程ではあったが、教員たちの努力が次第に実を結びはじめ、昭和六〇年には後援会が発足し、保護者の協力も得られるようになった。この年、高等課程新聞「むらた」が創刊されたほか、部活動（クラブ活動）も活発となり、昭和六三年までの間に体育系では、全国経理学校協会主催の関東地方大会でソフトボール、バレーボール、バスケットボールなどで優勝している。簿記・珠算関係でも、同協会主催の簿記・珠算競技大会の昭和六一年度全国大会で簿記の部団体優勝、珠算の部では昭和六三年全関東大会で団体優勝を勝ち取った。

時代が平成に入る頃より、ますます部活動が盛んになる。対外試合にも積極的に参加するようになり、競技大会にも好成績を残している。

当時の部・同好会には次のものがあつた。

ソフトボール部／サッカー部

バレーボール部／バスケットボール部

バドミントン部／テニス部／卓球同好会

軟式野球同好会／軽音楽同好会

簿記同好会／イラスト同好会



昭和59年
マラソン大会

資格取得を目標に学習意欲を高める

専修学校が得意とするものの一つに、各種の検定試験に合格するための指導がある。卒業後の進路を広げるためにも、資格取得は不可欠であった。高等課程が開設時に掲げた取得目標資格の主なもの、次のとおりである。

(取得目標資格)

日商簿記検定二級 全商簿記検定一級
 全経簿記検定二級
 日商珠算検定一級 全商珠算検定一級
 全経珠算検定一級 全珠連珠算検定一級
 日商英文タイプC級 全商ワープロ検定二級
 全ビ連ワープロ検定三級
 全商情報処理検定三級
 全商英語検定三級
 書写技能検定三級 漢字能力検定二級

一五期にわたり一〇〇〇人以上の卒業生を輩出

昭和六〇年一〇月、高等課程修了者に高等学校卒業生同様、大学受験資格が付与された。このことと、またこの年一年生から三年生までの在学生が揃い、完成年度を迎えたことにより、学校全体

が活発の度を加えることとなったが、反面二年間の教育のなかで教員には深刻な悩みがあった。照子は「文部時報」(昭和六〇年七月号)に次のような感想を寄せている。

本年四月、三年六二名の、二年九八名、一年一四三名でスタートすることになった。脱落者が二年・三年にかなりある。はじめから本人の意志はなく、親の願いのみで入学させられた生徒があつたことが、かなりの数となつたともいえる。

このような実情ではあつたが、生活指導、学習指導、人格の育成などに重点を置いた教育方針が、教員・生徒・保護者から理解を得られるようになり、徐々にではあるが事態は改善されていった。

昭和五八年四月に開設し、平成一三年三月にその使命を果たし終えた経理高等課程は、その間に一〇〇〇名を超える卒業生を輩出している。卒業後の進路を見ると、多くはすぐに社会に出て活躍しているが、専門課程や他の専修学校へ進学する者が予想外に増えていった。大学、大学院、税理士という道を歩んだ者もいる。

経理高等課程卒業生数

	男子	女子	合計
1期生	46	16	62
2期生	62	23	85
3期生	62	25	87
4期生	80	56	136
5期生	75	63	138
6期生	83	35	118
7期生	71	38	109

8期生	48	30	78
9期生	27	36	63
10期生	35	34	69
11期生	19	34	53
12期生	18	8	26
13期生	15	26	41
14期生	19	6	25
15期生	16	6	22
合計	676	436	1,112

経理高等課程教員数

昭和58年度	4
60年度	17
平成元年度	24
5年度	18
10年度	10

非常勤講師を含む

100周年に寄せて

第1期生のこと

内田 隆士



学校法人村田学園は明治、大正、昭和、平成と四代に渡り、長い歲月の中で幾多の困難にもめげず、この度、百周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

戦後、昭和30年以降、日本経済も徐々に復興し、東京オリンピックをめざして急激に高度経済成長期にはいり、それとともに、ベビーブームも訪れた。

やがて昭和の時代も過ぎ去り、平成の時代になると15歳人口（高校進学人口）もピークに達したが、それも長くは続かず、逆に急激な減少へと転じていった。

このような時代背景の中で村田学園は後期中等教育のなかで中学卒業生を対象とする高等専修学校教育の必要性を感じ、経理高等課程を昭和58年4月にスタートさせた。当初は大学入学資格もなく、不安もあったが、昭和60年に高等学校卒業生同様、大学受験資格も付与され、卒業後の進路も就職は勿論、専門課程、短大、大学へと幅広く選択ができた。

第1期生は85名入学してきた。経理高等課程のカリキュラムは職業科目を普通科目より重視してスタートしたが、自発的学習意欲が乏しく、元気の有り余る生徒が多くて、学習指導より生活指導のほうに費やす時間が多い時も多々あった。生活指導に関しては生活指導の先生を中心に全職員に一丸となって指導にあたってもらった。職業指導に関しては、目標を設定して、正規の時間で不足するときは補習時間で学習し、各検定試験に合格することを目標にした。一度、検定試験の合格証書を手にすると、生徒の意識も次第に変化し始め、次回からは熱心に取り組むようになった。私たちの合い言葉として「あきらめないこと」「あせらないこと」「一步一步努力すること」を各教室に掲げ、毎日復唱させた。

1期生の卒業文集の中で、「検定試験に合格するために毎日おそくまで補習授業を受けたが、あの時はきつかった。でも合格した時はとてもうれしかった。」「僕だって、やれば出来るんだ、自信がついた、何事も努力すれば必ず道は開けることも分かった。卒業しても努力して一步一步、前進したいと思います。」と綴っている。1期生の卒業生はいまでは年齢も42歳位、社会的にも中堅どころで中心的存在として活躍している年代である。中には自分で会社を経営している者、また、サービス業で店長として従業員の先頭に立って活躍している者もいる。

経理高等課程も現代の少子高齢化社会の波には勝てず、入学者数も激減し15期生をもって平成13年3月に幕を閉じたが、1期生から15期生まで1,112名の卒業生を送りだしてきた。

経理高等課程は私にとって人生の生きた教科書でもあった。いろいろな事を学習させてもらった。経理高等課程に携わっていただいた多くの先生方にこの紙面を借りて感謝の意を表することとしたい。

（うちだ・たかし／元 経理高等課程教頭）

専門学校村田経営義塾

企業経営の継承者育成に踏み出す

平成一九年四月、村田簿記学校は「専門学校村田経営義塾」として再び門戸を開放した。幅広い商業実務分野のなかから、現代社会で最も必要とされ、また、求められている「経営」を焦点としたものである。特に、視点を「働く」から「事業（経営）を行う」に移し、企業の経営ができる人材の育成を目的とした。そのため、企業の後継者や起業を志す人などを主な対象者としてカリキュラムが編成された。

入学案内で校長亀田光昭は、次のように述べている。

企業を経営するためには多くの事が求められます。

そのまず第一歩は企業の継続性の確保です。そして、次に求められるのが発展性でしょう。さらに先見性、協調性などが続く事となります。

これらの資質を求められてはいても、一朝

一夕で身につくものではありません。身につけ、さらにそれを有効に使い分けて自分の会社のために、さらに社会のために生かしていくには多くの経験と時間も必要でしょう。

しかし、今日、中小企業の経営者は、これらの資質を後継者に対し引き継ぐ時間が取れないのが現状です。そのため平成一七年度において全国四四〇万社の中小企業の内、七万社が後継者のないがために業を閉じたと報じられています。

村田学園は、この問題に正面から取り組み、企業を継承し、自らが、その業の発展を担える人材を育成する学校を作りました。明日の日本経済を力強く、そして確実に担える人材を、今日の我が国のために作り上げたたく立ち上がりました。

専門学校村田経営義塾の内容

学科

経営者養成科（夜間部・専門課程）



平成19年入学式

二年制・一年制

定員

各三〇名（共学）

学期

二期制（前期四月～九月、後期一〇月～三月）

授業時間

一八時三〇分～二一時四〇分（月曜日～金曜日）

授業時数

二年制 一八七二時数

（一年次、二年次各九三六時数）

一年制 九三六時数

授業科目

《下表参照》

カリキュラムの特色

教育課程の特色は、簿記関連科目の時数を多くしていることである。「商業簿記Ⅰ・Ⅱ」「工業簿記Ⅰ」は、それぞれ一年次で九〇時数を学ぶほか、「ビジネスコミュニケーションⅠ・Ⅱ」では各界の一流講師陣を招き、講演を聴くとともに、外部の参加者との交流を通じてビジネスマンの疑似体験をしようとするもので、年間九六時数を配分している。

平成一九年度、二〇年度は八九頁別表の講座が実施された（財団法人科学技術振興会共催による）。

聴講生制度

社会人にも学習機会を提供するため、学生と同じ科目を受講できるように「科目等履修生制度」及び「聴講生制度」を導入した。

委託事業

専門学校としては閉鎖のやむ無きに至ったが、従来どおり、各方面からの研修委託を受け、その教育は今も続けられている。そこに活路を開き、企業で重要視されている簿記を中心とした商業実務の教育を求める声が高くなるためのために待機している現状である。

商業簿記Ⅰ
商業簿記Ⅱ
会计学
工業簿記Ⅰ
原価計算
所得税法Ⅰ
法人税法Ⅰ
消費税法Ⅰ
商業計算Ⅰ
商業計算Ⅱ
財務分析
文書処理Ⅰ
表計算Ⅰ
Webデザイン論
パソコン会計
経営実践
情報リテラシー
経済学
商業経営
心理学
マーケティング論
ビジネスマナー
ビジネスコミュニケーションⅠ
ビジネスコミュニケーションⅡ
組織論
マネジメント論
人的資源管理論
経営法務
特別教育活動

授業科目一覧



ビジネスコミュニケーション授業

第二章 村田簿記学校・専門学校村田経営義塾のあゆみ

ビジネスコミュニケーション開催状況

	回	月 日	講 師	演 題
〔平成19年度前期〕	第1回	5月7日(月)	監査法人薄衣佐吉事務所代表社員、公認会計士／田村都彦先生	「企業行動と企業性格」
	第2回	6月4日(月)	富士屋ホテル株式会社監査役(元副社長)、早稲田大学ホスピタリティ研究所顧問・客員研究員／山口祐司先生	「Web2.0革命(ユビキタス時代)並びに会社法改正など企業環境のビッグバンに伴うこれからの企業経営」
	第3回	7月2日(月)	岸工業株式会社顧問、サッポロ流通システム株式会社前社長／大川幹雄先生	「企業の経営戦略とロジスティクス(概論)」
	第4回	8月6日(月)	岸工業株式会社顧問、サッポロ流通システム株式会社前社長／大川幹雄先生	「企業の経営戦略とロジスティクス改革の進め方(実例)」
	第5回	9月3日(月)	東京理科大学工学部教授、水素エネルギー協会前会長／斉藤泰和先生	「水素エネルギーの将来性」

	回	月 日	講 師	演 題
〔平成19年度後期〕	第1回	10月1日(月)	アサヒビール株式会社常務取締役／本山和夫先生	「アサヒビールの経営について」
	第2回	11月5日(月)	清水建設株式会社執行役員・技術研究所長／矢代嘉郎先生	「地震リスクとBCP(事業継続計画)について」
	第3回	12月3日(月)	富士屋ホテル株式会社監査役(元副社長)／山口祐司先生	「都市ホテルとリゾートホテルの経営上の問題点」
	第4回	平成20年1月7日(月)	三井不動産販売株式会社代表取締役会長／岩崎芳史先生	「サブプライムローン問題と日本の不動産」
	第5回	2月18日(月)	早稲田大学商学学術院商学部教授／片山覚先生	「企業のM&A戦略と企業価値」

	回	月 日	講 師	演 題
〔平成20年度前期〕	第1回	5月12日(月)	東洋熱工業株式会社取締役技術統轄本部長／山田博先生	「ビル空調のCO ₂ 削減対策」
	第2回	6月2日(月)	日本興亜損害保険株式会社経営企画部長／伊東正仁先生	「損害保険の直面している状況」
	第3回	7月7日(月)	ヒノキ新薬株式会社代表取締役／阿部武彦先生	「中小企業の企業理念と事業継承」
	第4回	8月4日(月)	株式会社ユウ・コーポレーション代表取締役／小西敏治先生	「建築工事におけるプロジェクト・マネジメントの必要性について」
	第5回	9月1日(月)	東京理科大学薬学部教授／田沼靖一先生	「テラーメイド医療の実現を目指してーコンピュータによる創薬についてー」

	回	月 日	講 師	演 題
〔平成20年度後期〕	第1回	10月6日(月)	学校法人村田学園理事長、専門学校村田経営義塾校長、東京経営短期大学学長／亀田光昭先生	「村田学園の経営姿勢」
	第2回	11月10日(月)	今井法律事務所 弁護士／摺木崇夫先生	「ビジネスに必須の法律知識」
	第3回	12月8日(月)	株式会社ユウ・コーポレーション代表取締役／小西敏治先生	「株式会社ユウ・コーポレーションの創業と経営姿勢(歴史も含めて)」
	第4回	1月19日(月)	株式会社フジミック顧問／河崎浩先生	「株式会社フジミックの創業と経営姿勢(歴史も含めて)」
	第5回	2月9日(月)	株式会社スベック顧問／平本秀俊先生	「株式会社スベックの創業と経営姿勢(歴史も含めて)」

村田簿記学校・専門学校村田経営義塾 略年表

明治42年11月	「銀行会社事務員養成所」創立
大正2年5月	第1回村田珠算競技大会開催
6月	村田速算学校併設
大正10年4月	神田区仲猿楽町17番地に新築移転、村田簿記学校と改称
大正12年9月	関東大震災により校舎焼失
大正13年10月	被災地に木造2階建ての校舎建設／校友会発足
昭和4年11月	仲猿楽町1番地に3階建ての校舎建設
昭和6年3月	村田女子計理学校併設
昭和12年6月	火災により校舎類焼
7月	校舎復旧
8月	学園新聞「村田学園新聞」創刊／第100回村田珠算競技大会開催
10月	村田簿記学校、速算学校、女子計理学校、3校合同校友会開催（於、目黒雅叙園）
昭和18年2月	組織を財団法人とする
昭和20年4月	空襲により校舎を焼失
昭和21年4月	校長宅を校舎として授業再開
昭和22年1月	校舎再建
昭和23年3月	組織を学校法人に改組
昭和27年4月	1年制本科開設
昭和31年4月	神田神保町1丁目の地下1階、地上5階ビル取得。拠点をここに移す
昭和34年11月	創立五〇周年にあたり、校友会より村田簿記学校校旗が寄贈される
	校友会誌「むらた」創刊

昭和38年3月	「村田学園讃歌」(詞・高橋掬太郎、曲・江口夜詩)制定、簿記学校校歌として歌い継がれる
昭和49年4月	地下1階、地上5階の新校舎完成
昭和50年3月	村田第二簿記学校発足／2年制本科開設
昭和51年4月	地下1階、地上10階の新校舎完成、学園の拠点とする
昭和52年10月	村田謙造逝去
昭和53年4月	村田照子、第2代理事長・校長に就任
昭和54年4月	簿記科(昼・2年制)開設
昭和55年7月	学校教育法に基づく専修学校として認可される
昭和56年4月	神保町1-14にある地下1階、地上8階のビル取得。のち、経理高等課程の校舎として利用
昭和57年4月	「村田学園奨学金制度」制定
昭和58年1月	第1回教員アメリカ研修
昭和59年4月	「公認会計士科」開設／本科、附帯教育を対象とした第二教務部発足
昭和60年4月	「ワン・イレブン館」開館
昭和61年3月	「北沢館」開館
昭和62年4月	学校新聞「かわら版」創刊
昭和63年4月	経理高等課程(商業科)開設
昭和64年7月	第1回学生アメリカ研修旅行
昭和65年4月	簿記科をコース制とする
昭和66年5月	経理高等課程後援会発足
昭和67年10月	経理高等課程に大学入学資格を付与される文部大臣指定校となる
昭和68年12月	経理高等課程新聞「むらた」創刊
昭和69年3月	MCAI「簿記入門編」完成
昭和70年4月	簿記科に「国際ビジネスコース」新設
昭和71年12月	MCAI「簿記3級編」完成

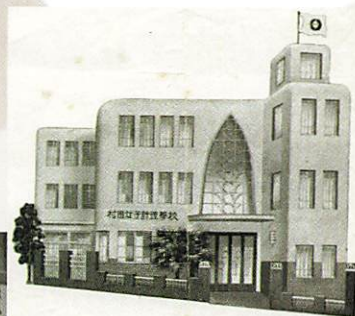
昭和62年3月	実務技能検定協会より秘書技能検定試験団体優秀賞を受ける
4月	簿記科を5つの科に改める／コンピューター63台導入
昭和63年1月	「風間館」開館
3月	日中友好青年バレーボール親善大会に監督1名、選手2名参加
9月	新校友会発足
平成元年4月	税理士科（昼・2年制）開設
9月	「校友会会報」創刊
平成6年4月	藤井禧和、第3代校長に就任
6月	専修学校の専門課程修了者に「専門士」の称号を付与
平成7年4月	税理士科（昼）、経理情報科（昼）に3年制開設／経理情報科、経理秘書科、経理ビジネス科にコース制導入
平成9年4月	総合ビジネス科（昼・2年制）開設
平成10年6月	西尾康三、第4代校長に就任
平成11年4月	大学編入制度始まる／キャリア・アップコース開設
平成12年4月	村田照子、第5代校長に就任／情報ビジネス科（昼・2年制）開設
平成13年3月	経理高等課程廃止／専門課程等2号館に移転
4月	経理専門課程2年制卒業者に社会保険労務士受験資格付与
8月	堀居英治、第6代校長に就任／情報ビジネス科（夜・2年制）開設
平成14年4月	経理専門課程2年制卒業者に税理士受験資格付与
平成16年6月	村田照子、第7代校長に就任
平成18年7月	亀田光昭、第8代校長に就任
平成19年4月	村田簿記学校を「専門学校村田経営義塾」と改称し再開、亀田光昭、校長に就任
8月	新パソコン導入
平成21年10月	専門学校村田経営義塾閉校

村田学園神保町ビルは、東京経営短期大学及び附帯事業等の校舎として活用されている

第三章

村田女子高等学校
村田学園小石川女子中学校
のあゆみ

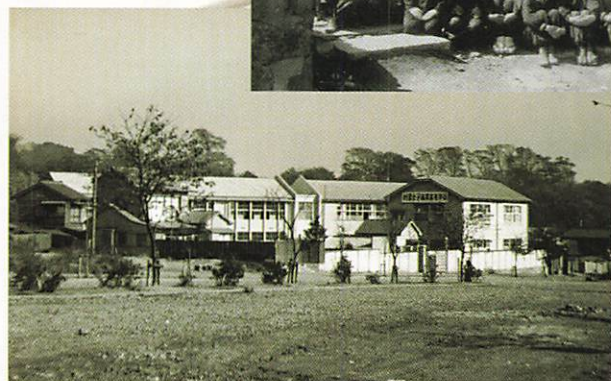




昭和6年頃の校舎



昭和20年頃の仮校舎



昭和30年頃の校舎



小石川校舎

昭和60年頃の登校風景



健歩会



現在の校舎・テラス・中庭



中学・高校登校風景

卒業記念レコード（昭和54年）



卒業記念詩集



学校新聞



村田女子高等学校 歴代校長



村田 照子(第二代)
(昭和50年4月～
平成17年8月)



村田 謙造(初代)
(昭和6年3月～
昭和50年3月)



伊藤 淑子(第三代)
高校(平成17年9月～現在)
中学(平成20年4月～現在)

百周年に寄せて

村田 女子高等学校
村田学園小石川女子中学校

校長 伊藤 淑子

村田学園創立百周年の大きな節目をここに迎えることができましたこと、卒業生の皆さんそして関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。学園が社会からその必要性を認められ、百年もの歴史を刻みましたことは、私学にとりましては大変な誇りであると申せましょう。

村田女子高等学校は、昭和六年、女性の社会進出の今日あることを先見した村田謙造によって、「女子の特性の開発」と「社会に貢献できる女性の育成」を目標に、村田女子計理学校として設立されました。今日までの間、変わらなかつたものの、大きく変わったもののそれぞれありますが、教育の原点はなんらぶれることなく、脈々と継承されております。

私が高等学校に着任いたしました時の理事長・校長は、村田謙造でありました。五年後に第二代理事長・校長に村田照子が就任、以後四〇年近く村田照子の背中を見て過ごしてまいりました。その中で受け継ぎ、今教職員に伝えているものは、「率先垂範」と「何事もあきらめないこと」です。これ

は生徒たちにも常々話していることで、教職員自らその姿勢を示すことが教育の第一歩であるとの信念に基づいているからです。そしてこの精神こそは、次の百年にもつなげていかなければならないものと確信いたしております。

生徒の気質も、時代と共に変わってまいりました。以前は、高校卒業と同時に就職する者がほとんどでしたが、現在は進学する者の方が圧倒的に多くなりました。ともすれば進学熱の高まりは、学力向上を第一義的に捉える傾向にありますが、いつの時代にも変わらぬ、社会での責任を果たす人格の形成こそが、私共教職員に課せられた最も大切な使命であります。

百周年に先駆け、平成一九年に村田学園小石川女子中学校を開校し、新しい時代に向けて「サイエンスレディの育成」を掲げました。今は、この中学校を大切に育ててまいりたいと考えております。

次の百年、村田学園がいつの時代にも必要とされるべく、今後とも教職員一同精進してまいります所存です。
(いとう・すみこ)

村田女子高等学校

新時代の女子教育を目指す

昭和六年三月六日、村田簿記学校に併設された「村田女子計理学校」を嚆矢とする。新時代の女子に必須な経済知識と計理上の技術を修得させ、練達有為の女性を養成することを目的とした。

校訓は「一、誠実、勤勉、清潔であれ 二、健康にして勤労にいそしむ人であれ 三、礼儀を厚くし、責任を重んじ、役立つ社会人であれ」というものである。四年制は、入学料三円、授業料（月額）五円五〇銭、自治会費（月額一円）での発足であった。

しかし、当時の女子の教育に対する庶民的な感覚は必ずしも前向きではなく、「四年制」という長期にわたる教育体制に躊躇する者が多かった。そのため、本来の女子計理学校の構想の一部であった「修業期間六ヶ月」のコースにも力を入れねばならなかった。その募集要項は次のとおり。

募集人員 一五〇名

A組 高等女学校卒業生 七五名

B組 高等小学校卒業生 七五名
学費 入学金三円

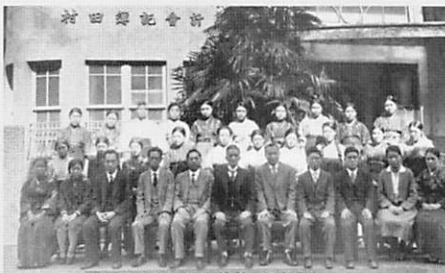
授業料（全期）四〇円

ほかに、地方出身者のための寄宿舎が校内に設けられていた。

開校後、第一回生を送り出したのは、昭和六年一〇月一四日であった。主流であったこの「六ヶ月制」は、やがて「一年制」、「一年六ヶ月制」と発展していくことになる。

昭和一二年一〇月一日付けの「村田学園新聞」には、「女子計理学校の拡張は急務中の最大急務」という見出しがある。その記事では、簿記学校、女子計理学校ともに入学者が増えたこと、また社会の要求に應えて役立つ人材を多く育成することなどが村田学園に課せられた使命の一つであると、さらに

質的に言えば、高等女学校卒業生に、六ヶ月や一年の教育を為すよりも、尋常小学校卒業生に村田女子計理学校において四ヶ年の専門的教育を施すことになれば、数段数倍の実



村田女子計理学校第1回卒業生

力を修得し得るか想像に難くないのである。

数字的に毎年五〇〇名以上の卒業生を出す
とすれば少なくとも二〇〇〇名以上を収容す
る校舎と設備が必要であらう。

と書かれている。

この意気込みが、二年後の新校舎建設へと導いた
のであった。

多彩な教科を盛り込んだ授業内容

昭和八年四月、東京府より乙種商業学校としての認可を受け、正式に商業学校の仲間入りをした。当時、全国には六〇校以上の乙種商業学校があり、実業学校令に基づく商業学校規定によれば、学科目は修身、読書、習字、作文、算術、地理、簿記、商事要項、体操その他であった。

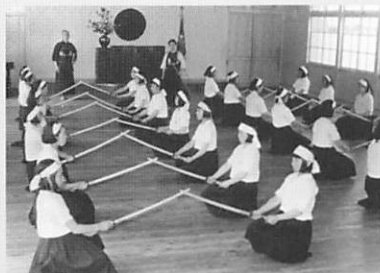
村田謙造はこの学校を創設するにあたり、崇拜する尾崎罌堂を訪ね揮毫を依頼した。神奈川県逗子で、同じ町内に居を構えていた因縁からでもあった。罌堂は、孫子の兵法の一節を選び「有算者勝（算あるは勝つ）」の言葉を贈ったのであった。昭和一四年一月、村田女子計理学校は、小石川区久堅町九八番地（現在、文京区小石川五―四〇―一八）に新築移転し、翌一五年六月末には紀元

二千六百年の記念事業としての講堂兼道場「貞風館」が完成した。

謙造は、大正三年以来、剣道の修行に精を出していた。範士高野佐三郎の道場で腕を磨き、その範士の指導と自ら学び取った経験から、道場は本格的なものを造りあげた。昭和一二二年頃より教育内容に「練成」が加わるようになり、全国の学校に道場が作られていく風潮でもあった。しかし、女子の場合は道場での稽古は専ら「なぎなた」であった。江戸時代から女子が用いていた、という固定観念を払拭しきれなかったためであろう。剣道を教科に取り入れたのは、全国に先駆けてのことであった。

昭和一五年度の村田女子計理学校の教員組織は、専任教員八名、兼任（非常勤）教員八名であった。この年、兼任ではあるが剣道教士二名が着任している。

教科目は、「修身・公民・地理・歴史」「国語・英語・支那語」「作法・習字・図書・博物・作文・音楽」「体操・剣道」「家事・裁縫」「簿記・実践簿記・商品学・英語商業作文・商業計算・商事要項・珠算」「数学」と多彩であった。因に商事要項では、商業通論及び各論を教えていた。



剣道の授業風景

商業学校規定による
甲種商業学校の学科目
(昭和8年)

・修身	・経済
・読書	・法規
・習字	・簿記
・作文	・商品
・数学	・商事要項
・地理	・商業実践
・歴史	・体操
・外国語	・その他

戦前・戦後の混乱期を乗り越えて

昭和一八年二月、財団法人組織となり文部大臣認可の甲種商業学校へ昇格した。これにより、当時の専門学校（現在の大学）への進学資格を有することとなった。同時に、校名を「村田女子商業学校」と改称した。

しかし、昭和二〇年五月二五日の空襲で校舎を全焼してしまった。そこで本郷真砂町にある倉庫を借り、事務所は校長宅（西片町一〇番地）として授業を継続していた。その頃、前年閣議決定した「学童疎開実施要綱」に従い、国民学校初等科（三年から六年まで）の子供のうち縁故先のない子供を学校単位で地方に集団疎開させようという試みが、実施されていた。全ての国民が危険に晒されていた当時は、村田女子商業学校も例外ではなく、学校疎開を計画するが、この計画は実施直前に終戦を迎えることになる。

終戦からの一年間は、特に都市部ではあらゆるものが混乱し、日々の生活すら儘ならぬ状況であった。学校はほとんど休校状態が続くことになる。村田女子商業学校は一時中断ののち、借りていた倉庫で授業を再開したが、不自由な日常を過

ごしていた。しかし、新築した村田簿記学校へ移り、学校らしい体裁を整えたのは、昭和二二年一月のことであった。そんななかで、同年三月「教育基本法」及び「学校教育法」が公布された。これを受けて同年四月一日から新制度「六・三・三・四制」が発効した。

村田女子商業学校の当時（昭和二二年度）の状況は、専任教員四名（男三・女一）、兼任教員五名（男二・女二）、事務員一名（男）、用務員一名（男）の一一名、生徒数は、二年生二五名、三年生四二名、四年生四五名の計一一三名の三クラスで、この年度以降新入生は募集していない。授業料は一二〇円（月額）、後援会費三〇円（月額）の計一五〇円であった。しかし、新制高等学校の開校時も別科生（中学卒・一ヶ年）の募集は続けられていた。

村田女子商業学校の入学資格は、小学校卒業を必要とした。（正しくは昭和一六年三月公布による「国民学校令」の初等科六年）また、在学期間が四ヶ年であったため、昭和二二年度の二年生・三年生は新制中学生、四年生は旧制中学生に区分されることになり、校名も「村田女子商業学校」と「村田学園中学校」の二つを使用せねばならなかった。



昭和28年頃の校舎

昭和二三年三月、このような学制改革により村田女子商業学校は正式に「学校法人村田学園中学校・高等学校」と改称することになる。新制高等学校としての要件を備えると認められた結果であった。この年の四月、木造平屋三教室の校舎が再建された（この年度の入学者は別科生二三名）。謙造は西片町の自宅を手離し、校舎建設の資金としたため、新校舎の横に仮住宅をつくり、そこから村田簿記学校へ通勤していた。（注一）

新制高等学校としてのスタート

新制高等学校の制度が誕生して、多くの学校が移行、新設の準備をするなか、村田学園は簿記学校のみを経営していくか、高等学校の生徒を募集するかで選択で「一瞬の迷いがあった」と、のちに照子は雑誌の対談で話している。そのため「村田女子商業高等学校」と校名を変更し、昭和二六年四月開校に向けての準備は立ち遅れていた。

昭和二五年末からの広報活動は思うに任せず、それでも第一回生三四名が入学した。他校に遅れること三年であった。

しかし、その後の生徒の増加に伴い、昭和二八年を皮切りに、同三〇年、三一年、三二年と校舎

の増築が続けられていく。また、年ごとに教育内容も充実していった。

昭和二六年頃の様子を、元教員倉渙氏は次のように綴っている。

私がこの学校に就任したのは、確か昭和二五年一月初旬と記憶しています。当時の校舎といえはバラック（注二）建てではないのですが、それに近い木造平屋の三教室と、四坪位の事務室兼職員室のほかに、校長室と、名ばかりの衛生室兼小使室があっただけです。校庭といえは凸凹だらけで、雨が降れば至るところに水溜りができ、雪の降った後などは泥沼のようなぬかるみになってしまうのです。春から夏になると雑草が次々に生えてきて、自習の時間は「草取り」と日課がきまっていましたから、今と違って自習といえは生徒は悲鳴をあげていたのです。草でも手でとれるようなものなら良いのですが、夏休み中には五〇糶位にまで伸びて草原になってしまふのですから、これをわれわれの手で元の運動場らしいものにするには容易ならぬことでした。ある生徒の父兄から謙の御寄贈を受けて、草刈りに汗を流したことも想い出されます。全くこの雑草の跋扈には悩まされたものです。

（注一）終戦から昭和二四年頃まではインフレが続き、四年間で物価水準が一五〇倍にも上昇した。

（注二）バラック＝粗末な建物。仮設として応急的に建てられたもの。

平成30年度教職員数

	男	女
専任	5	5
非常勤	10	2
事務	1	2
用務	1	1

生徒も当時は中学卒業後一ヶ年で終了する別科が、一クラスあっただけです。施設とか設備は殆ど皆無に等しく、眼につくものは僅か卓球台一つと、学園には不相応と思える舶来のピアノが一台に過ぎませんでした。（「むらた」創刊号）

新校舎で教育環境を整備

昭和三十一年、在校生が五七〇名を超え活発さを増してくると、教育的効果と学校運営上での問題が浮上してきた。実科目時数の不足、生徒の夏期休暇中の学習意欲、七月中旬の学期末考査での暑さによる非能率的な状況、一〇月からの就職戦線など。そこでこの年から二期制を実施し、九月末日で前期を終了、一〇月初旬から後期を開始した。

この頃は、「二期制が是か非か」として教育研修会などでは論議的となっていたが、採用する学校は多かった。村田女子商業高等学校では試行的な意味で行われたが、この制度は数年を経て廃止された。

昭和三十五年五月、創立三〇周年を記念して新校舎第一期工事に着手、翌年一月には四階建て鉄筋校舎が完成した。さらに一〇月には第二期工事も

完成し、茗荷谷ホールでの落成式が挙行された。のちに（昭和四十二年）この校舎は五階部分を増築している。

新校舎が完成後、昭和三十九年三月には体育館が落成した。鉄筋三階建てで、一階には食物実習のための家庭科調理教室と被服実習のための畳敷き（五〇畳）の作法室も完備された。

この頃から生徒数が増え続け、在校生が一〇〇〇名にも達していた。生徒数に比例して部活動も活発になり、各種の大会へ参加する部が多くなっていく。例えば

昭和三十九年（バレーボール部）都代表として関東大会へ初出場／（珠算部）大学生を抑え都代表となり、全国大会第二位

昭和四十二年（ソフトボール部）インターハイ出場など、特に運動部が目覚ましい活躍をするようになってくる。

昭和五九年十一月、学園の共用施設として市川校舎が完成する。普通教室のほか、最新視聴覚設備を備えた一〇〇有余席の階段教室、大小体育館と多目的ホール、合宿も念頭に置いた畳敷作法室、茶室と一〇〇名収容可能な調理室、そして観覧場が付設されたグラウンドなどの設備が整えら



昭和42年全日本高校女子ソフトボール選手権大会

れた。

各学年が毎週一回、体育、調理実習、総合実践（商業科の実習科目）、校長講話などを中心に特別授業を実施した。この施設には教員が常駐しているため、クラブ活動、特にバレーボール、バスケットボール、テニス、ソフトボールの各部が連日使用していた。授業終了後に市川校舎（西船橋駅）まで行くのは生徒たちにとっては大変な思いであつたろうが、活動ができる喜びと、また経済面では鉄道会社が学割三角定期券（家―職場―学校を結ぶ定期券）発行の便宜を図ってくれたことなどで、挫ける生徒はいなかった。

多方面の進路を鑑みた新たな教育展開

平成四年、東京経営短期大学が開学、短大への進学者が増えていったことで、平成八年に校名を「東京経営短大村田女子高等学校」と改称した。

この頃から、都内高校女子サッカーの草分けであつたサッカー部は驚異的な活躍をし、平成二二年八月より全国大会へ五回出場、全国第三位の実力を誇っている。北京のオリンピックで活躍し、「なでしこジャパン」で活動中のOGも輩出している。

平成一一年、六〇年間慣れ親しんだ小石川から

本駒込へ移転した。この校舎移転は、都と文京区の政策によって小石川校舎所在地を公共のために不可欠の地と切望されたことによる。校舎、設備が全て新しくなり、総て新発足の感が強かつた。年を追って進学者が増加する傾向にあり、平成一三年四月、「普通科」を併設する。それまで商業・経済系への進学が中心であつたが、法・文・理・工・教育・芸術などへの進学希望者のための教育内容や指導法が充実してきたこの期に、「資格が取れる普通科」をコンセプトとして待望の新学科を設けたのであつた。

平成一八年六月一九日、前年に校長職を伊藤淑子教頭に委ねた照子が急逝し、学園に大きな衝撃を与えた。特に高校においては、開校準備から深くかわつてきていた。開校後は数学を教え、担任を持ち、学校行事の指導と、のちには副校長としての辣腕をふるつた。校長に就任してからも「常に生徒と共にあれ」「率先垂範」を実践し、慕われ続けた。

長年、後援会会長を勤めた中村良彦氏は

日本の女性の心と美意識の教育指導に心血を注がれ、多大の功績を残されました。私は先生を「第二のお母さん」と呼び、尊敬の念を抱い

平成21年度中・高教職員数

	男	女
専任	18	18
非常勤	7	5
事務	5	3
用務	1	1

平成元年度教職員数

	男	女
専任	25	16
非常勤	6	4
事務	3	2
用務	1	1

ておりました。

と話している。

照子の逝去が、特に感慨深かったその年度の卒業生は、その教えを生徒一人ひとりの心に刻もうという強い希望から、卒業に際して、ヨーロップでもトップクラスの実績を持つ油絵画家ロッシン・ライチエフ氏描く照子の肖像画を寄贈した。

また、さらに次年度の卒業生も同窓会、謙照会との共同で照子の胸像を作製し、献呈している。現在、それぞれが正面玄関で生徒たちを見守っている。

平成一九年四月、進学希望の多様化に伴い、校名を「村田女子高等学校」と改めた。東京経営短期大学との関係で、進学先を経営、経済、商学に限定されるのではないかと中学生及びその保護者が懸念するのを危惧したことも一因であった。

普通科のみならず、商業科からその専門的な知識・技能を活かして上級学校への進学者が多くなった現在、多年の懸案を解決し「中学校」の併設を決定した。中・高一貫教育としての中学校の在り方を根幹から問われることへの解答でもあった。平成二〇年四月、「村田学園小石川女子中学校」の誕生である。



村田照子像 盛岡公彦作
村田謙造像 北村西望作

卒業生累計（抜粋）

	第1回卒業生	第10回卒業生	第20回卒業生	第30回卒業生	第40回卒業生	第50回卒業生	第56回卒業生
卒業年月	昭和29年3月	昭和38年3月	昭和48年3月	昭和58年3月	平成5年3月	平成15年3月	平成21年3月
卒業生数	34名	187名	226名	284名	239名	124名	133名
合計	34名	1,643名	4,381名	6,934名	10,120名	11,937名	12,989名

（注）卒業生の合計は、第1回生～第56回生まで全人数を加算したものである。

・高校時代の思い出・

子育てしながら、母校の教えを思い出して

第42回卒業生 鈴木(旧姓小宮)和代

高校時代のことでまず思い出されるのは、「朝起きて鏡を見たらニッコニコ」という言葉です。いま保育園へ行く娘にも同じことを言っています。また、村田照子先生は体育祭であぐらをかいている生徒がいたら、保護者の前でもすぐ怒っていらっしゃいました。なかなか親の前でしかる、教えてくれる人はいないと思います。子どもができて、躰をしなくてはいけない場面になると、照子先生の話思い出します。あいさつも厳しく言われました。親の立場になってみて、どんなに大切なことを言ってくださっていたのかがわかりました。

講話の時間の最初は、校章の由来を教わり、各自自分の家の家紋を調べるように言われました。夏休みに暑中見舞いのお手紙を校長先生に出す宿題があり、9月には誤字などを直し、コメントを書いて戻してくださいました。3学年になって、進路面接を全員にしてくださり、その上自己PRを録音したカセットを聞いてくださり、一人ひとりにアドバイスを吹き込んでくださいました。北軽井沢でのお手製のたまごやきの味が、いまでも忘れられません。ほかの学校の卒業生の話と比べてみると、こんなにも校長先生とかかわる時間が多かったのはとても嬉しく、また、良い思い出です。

日商簿記2級受験の前には、簿記学校の夜間クラスで勉強させてもらいました。検定前になると早朝や放課後の講習に加え、ほかの授業が簿記に変更になり、6時限全部が簿記の授業になった日もありました。おかげで検定も合格したのだと思います。いまは自宅で子育てをしながら、会計事務所の仕事をしています。



村田照子先生授業風景

村田女子高等学校の教育課程

現在の教育課程

本校は開学以来、一貫して商業教育に力を注いできた。しかしながら近年の高校歴志向の高まりや、中学卒業時における将来設計未決定者の増加に伴い、平成一三年に普通科を新たに設置した。現在、普通科と商業科の二学科を擁し、またそれぞれの科にアドバンストとスタンダードの二コースを設けている。

【普通科】

・アドバンストコース

平成一九年度から、「特進」という位置づけで設置された。このコースは、国公立大学・私立上位大学へ、一般入試での現役合格を目指すものである。一年次から大学受験を目標としたカリキュラムを組み、問題演習中心の少人数制授業である「特講」を設け、一人ひとりをフォローしながら学力アップを図っている。

・スタンダードコース

進学を目指す普通科ではあるが、様々な資格取得を奨励しており、資格の取れる普通科を標榜している。資格は、推薦・AO入試における武器ともなっている。授業は、英語を中心に習熟度別を採用、さらに一年の一学期に簿記（科目名アカウティング）の授業を取り入れている。これは、社会や家庭において必要な経済感覚を身につけさせるものである。二年次からは、「文系」「理系」「経済系」の選択制となっている。

なお普通科には、「長期休暇特別講習」「放課後講習」「土曜日授業」が設けられている。

【商業科】

本校創立時の教育目標である、「簿記・珠算の実務に通じた、堅実な人間を育てる」との信念を今に受け継いでいるのが、商業科である。

・アドバンストコース

会計や情報のエキスパートを目指し、各種資格



現在の授業風景

検定試験による取得可能資格一覧

〈英 語〉	
英語(全商)	1～3級
英語(実用)	準1～3級
TOEIC	
〈国 語〉	
漢字	2～3級
〈簿 記〉	
簿記(全商)※	1～3級
簿記(日商)	2～3級
簿記(全経)	1～3級
〈パソコン〉	
情報処理(全商)	1～3級
ワープロ(全商)	1～3級
ワープロ(日検)	1～3級
表計算(日検)	1～3級
ホームページ(日検)	1～3級
文章デザイン(日検)	1～3級
〈珠算・電卓〉	
珠算電卓(全商)	1～3級
珠算(日商)	1～3級
珠算(全珠連)	1～3級
電卓(日本電卓)	段位～3級
〈その他〉	
商業経済(全商)	1～3級
秘書	1～3級
ペン字	1～3級
毛筆	1～3級

※3年生は、3級以上の資格を商業科で平均7種目、普通科で平均4種目取得している。

平成21年3月卒業生のうち全国商業高等学校協会主催の検定試験を受験し

- ・ 5種目(珠算、簿記、ワープロ、電卓、商業経済)すべて1級合格者… 1名
- ・ 4種目すべて1級合格者…… 1名
- ・ 3種目すべて1級合格者…… 1名

を取得して社会における即戦力となる者を養成する。特に簿記、情報処理検定においては1級合格を目標とし、毎年合格者を多数輩出している。これらの資格は、大学の推薦入試やAO入試においても有力な武器となっている。

・スタンダードコース

様々な検定試験をカリキュラムにリンクさせており、多くの資格取得が可能である。二年生からは、「会計系」「情報系」「総合系」に分かれて学

んでいくが、進学・就職いずれにも対応できる体制をとっている。

商業科には、「土曜ゼミ」「放課後講習」「必修資格」が設けられているほか、カリキュラムに厚生労働省の「YES-プログラム」(就職応援プログラム)を導入している。これは指定された講座を受講し、指定された資格を取得することにより、就職に有利な修得証明書が国から発行されるものである。

●普通科の教育課程

普通科 Advanced course (特進)		1年	2年		3年	
			文	理	文	理
国語	国語総合	4				
	現代文		2	2	2	2
	古典		2	2	2	
	国語特講Ⅰ	2				
	国語特講Ⅱ		3			
	入試現代文特講				3	
地歴	入試古典特講				2	
	世界史B	4				
	日本史B		3	3	2	
	日本史特講		2			
	入試日本史特講				*2	
	入試世界史特講				*2	
公民	倫理				2	2
	政治・経済				2	2
数学	数学Ⅰ	3				
	数学Ⅱ		4	4		
	数学Ⅲ					3
	数学A	2				
	数学B		2	2		
	数学C					2
	入試数学特講					2
理科	理科総合A	3				
	物理Ⅰ			*5		
	物理Ⅱ					*3
	化学Ⅰ			3		
	化学Ⅱ					3
	生物Ⅰ		3	*5		
	生物Ⅱ					*3
	理科特講	2				
保健	入試生物特講				*2	
	体育	3	2	2	2	2
芸術	保健	1			1	1
	音楽Ⅰ	1			1	1
英語	英語Ⅰ	4				
	英語Ⅱ		5	5		
	リーディング				4	4
	ライティング		2	2	2	2
	英文法特講Ⅰ	2				
	英文法特講Ⅱ		2	2		
	入試英語特講A				3	
	入試英語特講B					1
家庭総合		2			2	2
情報A					2	2
必修		33	32	27	32	31
選択				5	2	3
総合的		1	1	1	1	1
L.H.R		1	1	1	1	1
計		35	34	34	36	36

*…選択科目

普通科 Standard course		1年	2年			3年		
			文	理	経済	文	理	経済
国語	国語総合	4						
	現代文		2	2	2	2	2	4
	古典		2	2	2	2		2
	国語演習Ⅰ	*1						
	国語演習Ⅱ		3					
	国語演習Ⅲ					2		
地歴	文章表現演習					2		
	世界史B	4						
	日本史B		3	3	3			
	日本史演習Ⅰ		2					
	日本史演習Ⅱ					3		
	倫理					2	2	2
公民	政治・経済					2	2	2
	数学Ⅰ	3						
数学	数学Ⅱ		4	4	4			
	数学Ⅲ						3	
	数学A	2						
	数学B		2	2				
	数学C						2	
	数学演習						2	
	理科総合A	3						
	物理Ⅰ			*5				
理科	物理Ⅱ						*3	
	化学Ⅰ			3				
	化学Ⅱ						3	
	生物Ⅰ		3	*5	3			
	生物Ⅱ						*3	
	体育	3	2	2	2	2	2	2
保健	保健	1				1	1	1
	音楽Ⅰ	1				1	1	1
芸術	英語Ⅰ	4						
	英語Ⅱ		5	5	7			
	リーディング					4	4	4
	ライティング		2	2	2	2	2	2
	英語演習Ⅰ	2						
	英語演習Ⅱ		2	2				
	英語演習ⅢA					3		3
	英語演習ⅢB						1	
	英検演習	*1						
	家庭総合	2				2	2	2
商業	情報A					2	2	2
	アカウンティングⅠ	1						
	アカウンティングⅡ	*2						
	アカウンティングⅢ				*7			
	アカウンティングⅣ							*5
	マルチメディアⅠ				*7			
	マルチメディアⅡ							*5
	必修	30	32	27	25	32	31	27
	選択	2		5	7		3	5

総合的	1	1	1	1	1	1	1	1
L.H.R	1	1	1	1	1	1	1	1
計	34	34	34	34	34	36	34	

第三章 村田女子高等学校・村田学園小石川女子中学校のあゆみ

●商業科の教育課程

商業科		1 年		2 年				3 年			
		Standard	Advanced	Standard			Advanced	Standard			Advanced
				会計	情報	総合		会計	情報	総合	
国語	国語総合	3	3	3	3	3	3				
	現代文							3	3	3	3
	文章表現演習										*2
地歴	世界史 A	2	2								
	日本史 A			2	2	2	2				
公民	倫理							2	2	2	2
	政治経済							2	2	2	2
数学	数学Ⅰ	3	3								
	数学Ⅱ						2				2
	数学 A			2	2	2	2				
	数学 B										*2
理科	理科総合 A			2	2	2	2				
	理科総合 B	2	2								
保体	体育	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2
	保健	1	1					1	1	1	1
芸術	音楽Ⅰ	1	1					1	1	1	1
	書道Ⅰ			1	1	1		1	1	1	
	書道演習										1
英語	英語Ⅰ	4	4								
	英語Ⅱ			3	3	3	3	3	3	3	3
	リーディング										4
	ライティング						2				
	家庭総合			2	2	2	2	2	2	2	2
普通科目必修		19	19	17	17	17	20	17	17	17	23

商業	商品と流通	2	2								
	マーケティング									*2	*2
	経済活動と法							2	2	2	2
	簿記	5	6			4					
	会計			4			*4	6			
	原価計算			3			*2				
	情報処理	2	2		4		*6				
	文書デザイン			2	2	2	2	2	2	2	
	ビジネス計算	2	1	2	2	2					
	ビジネスコンピューティング				3	3			6		
	オフィスコミュニケーション							2	2	2	2
	コンピュータ演習									4	
	ビジネスマナー									*2	
	簿記演習									*2	
	会計演習										*2
商業科目必修		11	11	11	11	11	2	12	12	10	4

必修	30	30	28	28	28	22	29	29	27	27
選択						6			2	2

YES-プログラム			1	1	1	1				
総合的な学習	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
L.H.R.	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	32	32	31	31	31	31	31	31	31	31

*…選択科目

村田女子高等学校の年間行事

高等学校の年間行事

- 四月 フィールドワーク（校外授業）
- 五月 女子小・中学生珠算選手権大会
- 体育祭
- 六月 同窓会
- 七・八月 北軽井沢教室
- クラブ合宿
- 八月 海外語学研修旅行
- 九・一〇月 むらた祭
- 十一月 合唱コンクール
- 十二月 スキー教室
- テーブルマナーの会（三年生）
- 三月 三年生を送る会
- 修学旅行（二年生）

女子小・中学生珠算選手権大会

終戦以後、中絶の状態であった「ソロバン競技大会」が復活したのは、昭和二十九年一月二十九日であった。この大会を村田女子商業高等学校主催

の第一回大会と位置付け、新装成った講堂で開催された。「第一回都下中学校ソロバン競技大会」という名称であった。

第一回は三七校一九〇名が集まり、各種の競技が開かれた。この時の団体総合競技の一等（優勝）は、荏原第三中学校（品川区）であった。

この大会の目的は、「計算技術の練磨と向上、女子計理教育の充実を図る」などとし、以降は学校行事の一つとして続けられている。

平成八年から小学生の部をつくり、また、学校単位ではなく塾単位での参加が多くなったため、タイトルを表題のように変更している。

平成二二年度（第五三回）は、五月一〇日に開催された。

- ・参加者 中学生の部 九一名
- 小学生の部 一八四名
- ・団体優勝

- 中学生の部 宮本珠算研究塾（中野区）
- 小学生の部 滝山珠算塾（東久留米市）



市川校舎での体育祭

・後援

全国商業高等学校協会

日本商工会議所

東京商工会議所

日本珠算連盟

全国珠算教育連盟

東京珠算教育連盟

体育祭（運動会）

開校以来初の運動会は、昭和三〇年一〇月二三日、校庭で開催された。初めての運動会から現在まで、商業系の学校らしい「暗算競技（読上暗算競技）」が受け継がれている。第二回以降は、生徒の増加に伴い外部の施設を借用している。第二回は豊島園大運動場であった。

運動会が「体育祭」と名称を変更したのは、昭和四一年に「体育の日」が制定された以後と思われる。また、当時の学習指導要領に記された「学校行事の健康安全・体育的行事、クラブ活動などにおける体育的諸活動を積極的に行うこと」も要因となった。

暗算競技と並んで村田の特色である独特の「むらた体操」は、昭和三四年四月に着任した体育科教諭松井正二氏が導入したものである。

また、「ああ紺碧の 空高く」とうたわれる応援歌については、第一回運動会で歌われたかは不明であるが、昭和三二年三月にはすでに発表されていた。

昭和四〇年代になって秋から春に日程を変え、また、外部施設として次の会場が主に利用されている。

昭和三〇年代 豊島園大運動場

昭和四〇年代 東京体育館・六義園グラウンド

昭和五〇年代 東京体育館・市川校舎グラウンド

平成三年以降 東京体育館

平成九年以降 東京武道館

村田女子高等学校応援歌

藤間 哲夫 作詞

山口 俊郎 作曲

ああ紺碧の 空高く

日輪踊る 歓喜の朝

聞けや我等が 熱と意気

若き力は 燃えて挙げり

村田 村田 村田

フレ フレ フレ 村田



東京武道館での体育祭



ああ伝統の 学び舎に

勝利あまねく 耀く歴史

見よや精鋭 行くところ

常に頼もし 常に新し

村田 村田 村田

フレ フレ フレ 村田

ああ有終の 栄えの門

今こそ唱う 燦たる凱歌

知るや母校の 名はまたも

明日の希望の 雲を彩る

村田 村田 村田

フレ フレ フレ 村田

同窓会

昭和二十九年六月一三日、第一回同窓会総会が開かれた。同窓会員三四名からの発足であった。第一回の総会では、予算案、会員名簿補綴などの議事のほか、会長、副会長、監事各一名、会計二名、理事三名が選出された。初代会長には飯田幸子さんが選ばれた。

第二回総会は、昭和三十〇年五月二二日であった。発足一年後のこの総会で早くも会則改正が承

認され、会長一名、副会長二名、監事二名、庶務会計二名、理事一〇名を選出し、大きく飛躍を遂げた。このとき第二代会長に、杉田節子さんが選ばれている。

現在は、毎年六月第一日曜日を総会日と決めている。今年度は、第三回生から第五回生までと前年度の卒業生を合わせ一五〇名程で開催された。

平成一八年六月四日の同窓会（総会）は、出席者にとつては特に印象が強く残る会となった。

照子は傘寿を迎え、その祝いの意味もあつてこの日壇上で盛大な拍手のなか花束を贈られた。そのときの挨拶は

学父、村田謙造先生が米寿まで現役だったのだから、私もあと八年は頑張ります

というものであった。しかし、この二週間後に鬼籍に入ってしまった。

北軽井沢教室

「北軽井沢キャンプ」として、開校以来実施されている夏期休暇中の行事の一つである。当初は民宿的な宿舎であったが、昭和三十三年頃より「高原の集い」と名称変更し、酪農家の離れ家を借

平成21年度同窓会役員

会 長	長谷川恵子	(3回生)
副 会 長	山田 庄子	(22回生)
	原田 孝子	(31回生)
庶務会計	平柳 誠子	(17回生)
	脇野 京子	(27回生)
監 事	小山 幸江	(22回生)
	安原 里枝	(31回生)

～ラジオで流された体育祭・健歩会の開催～

野外のグラウンドを利用する際に最も困ることは、その日の天候である。当日の朝、決行か延期かの判断をするが、それを生徒たちに伝達する方法がなかった。そこで、早朝の放送を利用し、ニッポン放送の協力で10秒スポットで流すことにした。しかし、CM枠ではないため「皆さまお待ちかねの……」と一般人に呼びかける文言として放送された。

用、定期的に使用していた。昭和三〇年代の一〇年間は希望者が非常に多く、二班・四班に分けて参加させていた。

日程・行程は現在の「北軽井沢教室」とほとんど変化はなく、三泊四日が原則である。

当時の様子を第三回卒業生（昭和三十一年三月卒）、長谷川恵子さんは

五〇余年前の北軽井沢キャンプで、私達は照子先生から三角おむすびの握り方や薪でお風呂の沸かし方などを教えて頂きました。我が娘のように愛情を込めた教育をなさり、凛とした姿勢に私達も背筋が伸びる思いでした。

と述べている。現在でも寮の生活は、清掃や食事の調理・準備など、すべて生徒中心で行われている。

昭和四〇年七月、山小屋風の高原寮が完成すると、その後は一年生がクラス毎に三泊四日の合宿生活を送ることになる。

（北軽井沢教室の生活目標）

一、自分のことは後回し、まずみんなのことを考えましょう。

二、体を動かして、なんでも自分から進んでや

りましょう。

三、がまん強くなるように努力しましょう。

四、自然に親しみ、ハイキングなどを通じて自分の体力を試みましょう。

五、常に安全第一と考えて、寮内のきまりを守りましょう。

（スケジュール）

第一日目 浅間大滝への散策

（平成一四年までは照月湖散策）

夜 ミーティング

第二日目 鬼押し出しへハイキング等

夜 スタンツ

第三日目 白糸の滝、浅間牧場へハイキング

夜 キャンドルサービス

昭和三〇年・四〇年代に実施された夏期休暇中の行事は、ほかに「海の学校」（のち海の教室と名称変更、千葉県岩井海岸、静岡県弓ヶ浜海岸等で開く、常に四〇名以上参加）「富士登山」（のち山旅、ワンダーフォーゲルと名称変更し、多くの山を楽しんだ）。

北軽井沢高原寮は、北軽井沢教室の終了後はクラブ活動の場として利用された。

～停電の中で過ごした北軽井沢教室～

北軽井沢周辺は、ライフラインのうち特に電気が弱かった。雷が落ちてよく停電し、復旧には時間がかかった。ある夏、台風により停電し、三泊全てローソクで過ごしたクラスがあった。生徒たちは落胆したが、よい経験をしたという感想が多く教員たちはほっとした。



現在の北軽井沢教室

修学旅行

東京を發つて数時間、車中は相変らず騒がしかった。窓越しに見る夕景色も次第に暗色を増す。長い間の夢が、高校時代最後の旅がついに始まった。そしてこの旅が最後までスムーズに実行されることを願う。

日本三大港の一つである神戸を経て、姫路が間近に迫ると昨夜の疲れにいつの間にか寝入っていた。白鷺城が見えるという声に目をさました時はもうすでに遅く、私の目には城らしいものは映らなかった。朝食をすませ岡山に近付く頃は十余時間の汽車の旅に純白のブラウスがいつの間にか黒く汚れていた。

〈第三回卒業生（昭和三十一年三月卒）、前島玲子さんの手記〉

修学旅行は、第一回生から実施されているが、交通手段や教員・生徒などの希望により、時に応じて目的地、実施時期が微妙に変化してきている。当初は三年生の夏（七月中旬）に行われていたが、昭和三二年度から、二年生の学年末（三月中旬）に変更され現在に至っている。交通手段も夜行急行列車、ブルートレイン、飛行機と変化、

それにより日程も短くなった。

〈コースの主な変遷〉

○関西（京都・奈良）

○関西―四国（屋島・琴平）

○四国―北九州（別府・阿蘇）―関西

○北九州（阿蘇・熊本・天草・島原・長崎・平戸）―関西

○中国（秋吉台・萩）―北九州

昭和三〇年からは、八日間（車中二泊）の旅であつたが、現在は飛行機の利用で四泊五日の行程となった。

（注）東海道本線（東京―神戸間）が完全電化されたのは、昭和三二年一月一日、山陽本線（神戸―門司間）は、昭和三九年五月二日

海外語学研修旅行

第一回は、アメリカ・ワシントン州にある州立ワシントン大学内の語学研修プログラムへの参加であつた。村田簿記学校では、すでに同プログラムを導入していたが、高校では平成四年の夏からである。一六日間の日程で、うち二泊のホームステイとカナダへの一泊旅行が含まれている。

第一回の参加者は、生徒二名と教員四名で、



修学旅行

生徒一名あたりの費用は、四六万円であった。

平成一四年度より、研修場所をオーストラリア・ケアンズに移し、一三日間の日程で実施されている。これまでの研修と異なる点は、シドニーへの一泊旅行以外は、全てホストファミリーの家庭から学校（ケアンズランゲージセンター）へ通学すること、現地の生活文化を体験させる試みである。平成二二年度の生徒一名あたりの費用は三八万八〇〇円となっている。

平成二二年度の研修プログラムは次のとおり。

2日目

ケアンズ到着、トロピカル動物園見学、午後ホストファミリーと対面、ホームステイ

3日目

ランゲージセンターにてオリエンテーション

（授業の進め方やオーストラリアの生活について学ぶ）、学校見学、市内見学、ホームステイ

4日目／5日目

英語研修、午後現地小学校訪問

6日目

終日キュランダ見学、ホームステイ

7日目

終日英語研修、ホームステイ
8日目

終日グリーン島見学、ホームステイ

9日目

ホストファミリーとのフリータイム、ホームステイ

10日目

午前英語研修、午後現地学校にて授業体験、フェアウェルパーティー、ホームステイ

11日目

シドニー市内見学、ホテル泊

むらた祭（文化祭）

春の体育祭と並び、生徒たちが最も楽しむ行事である。昭和三九年に初めて開催された。

それまでは、秋は運動会が開かれ、文化祭的な意味を持つ行事は三月の予餞会（卒業前の送別会）で行われていた。生徒たちが一堂に会し、ダンス部のダンス、英語部の英語劇、演劇部の演劇、さらに各学年有志による日本舞踊、合唱、ダンス、洋舞、卒業生による演劇などで楽しんでいた。

運動部においては各種の試合に出場し、その結



むらた祭アーチ



海外語学研修旅行

果で活動状況を把握できるが、文化部には日頃の成果が活かされる場が与えられていない。そこで秋の二日間を「むらた祭」として毎年テーマを決め、それに沿った発表の場を各部に提供しようとしたものである。

現在では、演劇、吹奏楽、軽音楽、ダンス部をはじめとする各部が舞台発表をし、華道、書道、美術、家庭、写真など多くの文化部が展示発表を行っている。第三回位から調理室を利用しての麺類の提供が始まり、いまでは種類も豊富になって屋台形式となっている。

平成二一年度は、一〇月三日、四日に開催された。テーマは

「和と洋の調和——新しい文化の創造——」で、入場者は二日間で一七〇二名の盛況であった。

合唱コンクール

昭和五九年一月、市川校舎が竣工した。新築した校舎を全校生で祝賀するため、体育館の舞台の柿落としを兼ねて編みだされた行事が「校内合唱コンクール」であった。

その後は毎年小石川校舎で開かれ、平成七年度の第一一回からは日本青年館大ホールで開催され

ている。今年で第二五回を迎える。内容は、課題曲と自由曲の二曲を全クラスが発表し、金、銀、銅の各賞と学年優勝を決定する。指揮とピアノ伴奏も生徒が行い、審査は教員があたっている。

年を追うごとに高度化されていく様子を、音楽科、佐川敦子教諭は、第一九回の講評の折自由曲は難解な音構成に挑戦するクラスが多く、指揮・伴奏者を中心に丹念な音作りを重ね、見事な合唱になっている。

二一世紀になっても音楽情報は昔と変わらず、楽譜上に存在している。それを表現するためには、人間の優れた技と心が不可欠である。（「ひさかた」第九九号）と述べている。

スキー教室

スキー教室は、昭和三五年の冬から開催されていた。スキーは同五〇年代をピークとして高校生にとっては人気のあるスポーツであった。スキーの技術を身につけることは、一般にステータス的な意味もあり、そのため高校在学中に技術を習得し、社会人になってからは「楽しむ」という傾向にあった。この行事には、翌年も参加する生徒が



合唱コンクール



むらた祭

多く、平成期初頭までは参加人数は常に五〇名を超えていた。

例えば、

平成四年度 北志賀小丸山スキー場

参加生徒数六九名、引率者二二名

一二月二日から四泊五日

平成五年度 北志賀小丸山スキー場

参加生徒数七四名、引率者一三名

一二月二日から四泊五日

であった。

しかし、その後スノーボードへの関心が高まるにつれ、参加者も減少し、平成一二年度は二〇名の参加にとどまった。その後は実施されていない。

生徒会活動

昭和二八年四月、校舎の増築工事が完成した。二階建ての明るい建物であった。ここで初めて一年生から三年生まで揃うことになる。バレーコートが作られコンクリートの門や塀ができて学校らしくなってくると、生徒会に属するクラブ活動が活発になった。第一回生が入学後生徒会は直ちにつくられた。

昭和三〇年に入り生徒数は五〇〇名近くに増加した。第三回生徒総会では生徒の「自治」を大きな目標として掲げ本格的な活動に入ったが、二期以降は役員の大半が三年生のため就職活動に専念し、計画どおりには進まなかった。しかし、昭和三一年度からは役員の立候補制を設け、生徒会活動、クラブ活動ともに活発になっていった。昭和三〇年度のクラブは下表のとおり。

健歩会

現在の学校行事に組み込まれてはいないが、昭和四六年から年一回の「健歩会」が計画され、雨天中止の年を除き七回実施された。

都会で生活している生徒たちに郊外に出て新鮮な空気を吸い、秋空のもとでのびのびと運動させたい、という意図で生まれたものである。

場所は、埼玉県・狭山湖畔一周の一一・五キロのマラソンコースであった。原則として「歩く」ことが目的ではあったが、上位二〇位までを表彰するとなると自信のある生徒は走り通した。

第一回 昭和四六年一〇月二一日

第七回 昭和五四年 九月一四日

後援会

昭和29年6月発足 初代会長 中井初次郎氏

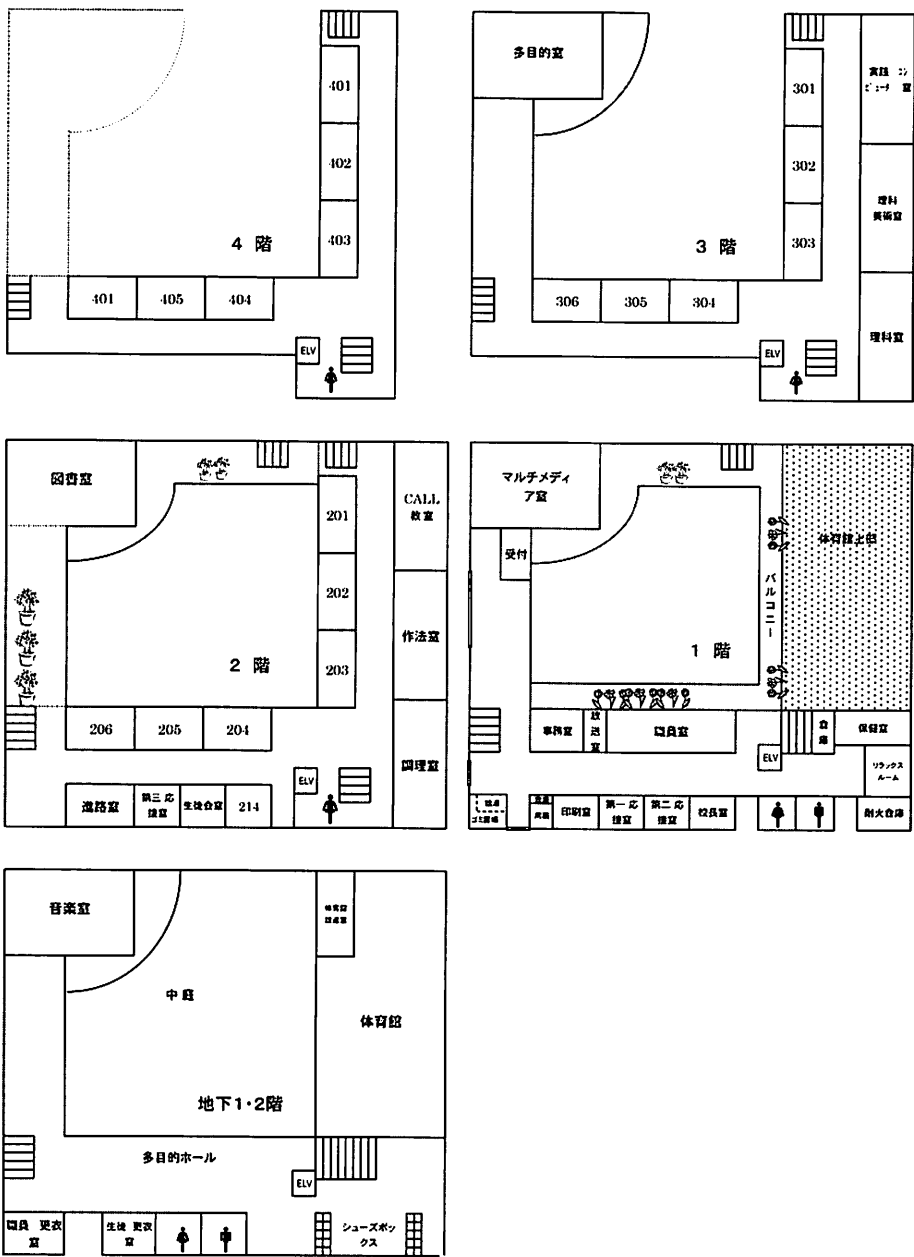
平成21年度中・高後援会役員

会長	橋本 和行	書記	坂原 幸子
副会長	柳瀬 幸子	書記	深野 洋子
副会長	宮越 千奈	監事	串田 エダ
副会長	赤羽 公司	名譽顧問	中村 良彦
副会長	本田 みゆき	顧問	坂巻 章雄
会計	堀井 弥生		

昭和30年度のクラブ

文化部	文芸部〔新聞班、図書班〕	英語部	珠算部
	音楽部	簿記会計部	書道部 華道部
	タイプ部	演劇部	
体育部	卓球部	排球部	バスケット部
	ソフトボール部	ダンス部	

教室配置



村田女子高等学校・村田学園小石川女子中学校の施設設備

施設状況

校 地		3,147.660㎡
校 舍	建坪	1,875.548㎡
	延建坪	7,367.325㎡

室名	数	室名	数
校長室	1	保健室	1
普通教室	18	体育館	1
音楽室	1	コンピュータ・ 総合実践室	1
理科室	1	CALL教室	1
理科・美術室	1	多目的室	1
マルチメディア室	1	作法室	1
調理室	1	職員室	1
カウンセリング室	1	事務室	2
進路指導室	1	用務員室	1
生徒会室	1	応接室	3
更衣室	3	多目的ホール	1
図書室	1	小教室	1
印刷室	1		

・北軽井沢寮

所在地 群馬県吾妻郡長野原町北軽井沢

校 地	12,290.00㎡
建築面積	442.58㎡

室名	数	室名	数
生徒用寢室	1	調理室	1
生徒用居室	1	ホール	1
職員室	2	倉庫	1
その他運動場、同窓会館、テニスコート			



作法室



多目的ホール



CALL教室



図書室

村田女子高等学校のクラブ活動

【文化部】

■茶道部

活動目標は、茶道を通じて日本の心を感じるこ
とである。練習には外部から先生をお招きし、「裏
千家」のお点前習得に励んでいる。文化祭では毎
年茶席を出し、日頃の練習の成果を発表している。

■華道部

小原流華道師範から指導を受け、卒業までに「師
範科Ⅱ期」まで修了し、許状も取得できる。「小
原流学生いけばな競技会」においては、これまで
に三回の優勝を誇っている。

■書道部

毎年、楷書、行書、草書、隸書、篆書の五体千
字文に挑戦し、腕を磨いている。最近では、二書体
二千字を書き上げる部員もできた。かつては全
国書道展において、文部科学大臣賞を受賞したこ
ともある。部員は全員、全国書初席書大会に参加

している。

■簿記部

日頃の活動は、日商や全商の簿記検定の資格取
得に向けての勉強である。その日々の成果を発揮
する場として、簿記コンクールや簿記選手権大会
に出場している。全商簿記コンクール全国大会に
おいては、これまで二一回の出場を誇っている。

■珠算・電卓部

学校創立と同時に誕生した、伝統と実績のある
クラブである。平成二一年度の東京都高等学校珠
算競技大会では、団体優勝と個人種目優勝を果た
し、全国大会への出場枠七名のうち本校生が四名
を占めた。現在、全国大会に五三年連続出場とい
う輝かしい記録を更新中である。

■社会福祉部

毎月一回、「子どもと一緒に遊ぼう」という活
動に参加している。子ども達に楽しんでもらうた



書道部



華道部

めにはどうしたらよいか、日々勉強している。このほかに、地域の高齢者在宅サービスセンターでのボランティア活動も行っている。

■軽音楽部

初心者から経験者まで、また全学年が一緒になってライブを創り上げている。一生懸命「心」を込めることをモットーに、音楽を楽しんでいる。文化祭、クリスマスライブなどが、主な発表の場である。

■家庭科部

週二日の活動日は、一日は文化祭に向けての個人作品の制作を、もう一日はお菓子作りを中心に行っている。毎年文化祭で販売するパウンドケーキは、部員の自信作である。

■英語部

英語をとおして国際感覚を養い、新しい自分を発見することを目標とするクラブである。英語劇やスピーチの練習が主な活動である。東京都商業教育研究協議会 英語部会主催の全商杯商業高等学校英語スピーチコンテスト東京大会では、

Speech の部・Recitation の部いずれでも入賞の実績を持つ。

■演劇部

生活の中にあるドラマを舞台の上で表現することが、活動目標である。年三回の舞台発表を目指して、普段は身体訓練や発声などの基礎訓練を行っている。これまでに、東京都大会への出場実績がある。

■美術部

初心者から経験者まで、個性豊かなメンバーが集まって活動している。油絵や水彩画、工作と、それぞれの好みの分野で、オリジナル作品の創作活動を行っている。

■写真部

月例展の開催や文化祭での展示を、主な発表の場としている。時には学校近くに出かけ、季節の移り変わりをレンズで切り撮ったりもしている。また、私学生徒写真展へも出品している。

■イラストレーション部

演劇部



軽音楽部



イラストやアニメ好きな仲間が集まって、文化祭での作品発表に向けて活動している。文化祭では、イラストボードの展示や、部誌を作成して発表している。

■読書部

定期的に様々な本の「書籍紹介」を書き、ホームページで紹介している。また図書委員会と合同で、文学散歩も行っている。文化祭では毎年一人の作家にスポットをあて、展示発表を行っている。

■パソコン・ワープロ部

普段の活動は、表計算とワープロ検定の一級合格を目指しての練習である。毎年六月に開催される全東京高等学校ワープロ競技大会に出場。これまでに、全国大会六回出場の実績がある。

■コーラス部

「ハーモニーを楽しもう」を合言葉に、歌うことが好きなメンバーの集まりである。基本練習曲でハーモニーの練習を重ね、文化祭での発表を目標としている。このほか月一回、高齢者施設において、お年寄りの皆さんと一緒に歌うボランティア

ア活動も行っている。

■吹奏楽部

楽器を奏でる楽しさと合奏する感動を共有するため、作曲者の意図する音楽を懸命に研究し、曲創りに励んでいる。八月のコンクールが最大のチャレンジの場であるが、学校行事である入学式・体育祭・卒業式、そして文化祭での演奏も大切な発表の場である。

【運動部】

■剣道部

創部以来四〇有年の歴史を誇り、これまでに東京都代表としてインターハイ出場選手を輩出するなど、都で上位に位置したこともあった。現在は初心者が多く、基本練習を中心に、全員が有段者を目指して活動している。

■サッカー部

全国大会四回出場。最高三位。卒業生の中からは、アテネと北京オリンピックのなでしこジャパンのメンバーを輩出。現在強豪チームに数えられ



サッカー部



吹奏楽部

しており、全国制覇を目指して日々練習に励んでいる。二一年度も、全国大会出場を果たした。

■ダンス部

目指しているのは、創作ダンス。曲や振り付けを自分たちで研究し、発表会では照明からダンスの構成まで、全てを部員が行っている。

■テニス部

各種大会での勝利を目指し、めりはりのある、明るく礼儀正しい部活を目標に活動している。平日は近隣の小学校のコートで、休日には東京経営短期大学のコートで練習を行っている。

■バスケットボール部

平成一八年度の新人大会で、三部昇格（ベスト八八）を果たした。次の目標はベスト三二、そしてベスト一六入りである。まずは関東大会出場を目指し、「練習は試合のように、試合は練習のよう」を合言葉に、練習に励んでいる。

■ワンダーフォーゲル部

アウトドアスポーツを楽しむクラブで、山登り

やクロスカントリースキーなどを行っている。主な遠征としては、五月春山登山、八月アルプス合宿、一十月秋山登山、一月クロスカントリースキー、そして三月の芋煮会である。

■バドミントン部

試合に勝つことを目標に、日々基礎打ち、ノック、その他実践的な練習を行っている。見かけによらずハードなスポーツであるが、楽しく向上心を持って勝利に向かって頑張っている。

■バレーボール部

かつては関東大会一〇回出場、私学大会で優勝という輝かしい伝統のあるクラブである。現在は地道に一勝を目指し、かつての強豪時代に少しでも近づけるよう、日々練習に励んでいる。

■卓球部

いろいろな大会に積極的に参加し、勝利を目指して頑張っている。最近の成績は、Ｃクラスながら春季大会兼関東大会予選会においてベスト三二に入った。今後は、さらに上位を目指して活発に活動していく。



バレーボール部



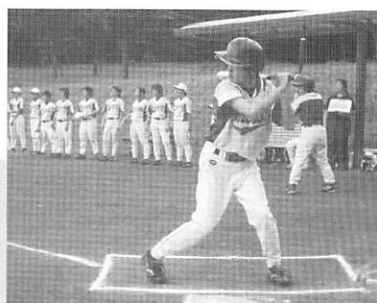
バドミントン部

■ 軟式野球部

部員の多くは高校入学から始めた未経験者であるが、とにかく野球の好きな者が集まっている。これまで全国大会に七回出場、二二年度も優勝し、昨年まで五年連続優勝を果たしている。



バスケットボール部



軟式野球部



ワンダーフォーゲル部



珠算・電卓部



剣道部

村田女子高等学校の進路指導

進路指導の指針は、キャリアデザインである。

人生設計を立てさせることから始め、その夢を實現させるための学力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけさせるために、次のようなテーマを設定している。

一年次 将来に向けての夢探し、自己発見

二年次 職業研究

三年次 大学研究

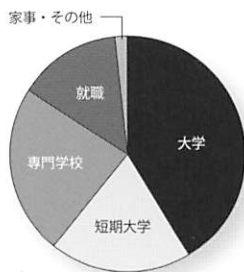
これらのテーマを完遂させるために、様々なガイダンスを行っている。

また、一年次から全員に「進路ノート」を持たせ、ガイダンスの感想や適性検査・学力テストの結果などを記録させている。さらに担任への質問なども書きこませ、それに対して担任が答える交換日記のような使い方も行っている。こうした日々のきめの細かい指導の積み重ねをとおして、生徒一人ひとりの夢の実現を支援している。

本校では、「Yes, I can」と言える何かを身につけさせることを念頭に置いて、進路指導に携わっている。

平成20年度進路状況

	卒業生数	割合(%)
大 学	55	41.5
短期大学	26	19.5
専門学校	31	23.3
就 職	19	14.2
家事・その他	2	1.5
合計	133	100.0



進路ガイダンス

- ◆キャリアガイダンス
- ◆キャリアカウンセリング
- ◆学力テスト&カウンセリング
- ◆資格取得
- ◆大学模擬授業
- ◆職業研究レポート
- ◆小論文対策・模試
- ◆YES-プログラム (商業科)
- ◆コミュニケーション能力養成 (グループ学習)

1・2年生

3年生

- 4月 志望校調査・エゴグラム診断・適性検査
- 5月 担任・進路指導部面談・小論文講習開始・入試ゼミ開始 (予備校講師)
- 6月 実力判定テスト・キャリアガイダンス (進路別による個別相談)
- 7月 進研模試・キャリアガイダンス (卒業生の受験体験)・夏期講習・小論文模試
- 8月 夏期講習・面接講習会・三者面談
- 9月 センター試験ガイダンス・小論文個別指導開始
- 10月 東京経営短期大学特別推薦・専門学校推薦入試
- 11月 大学・短大推薦入試・進研模試・河合模試
- 12月 冬期講習
- 1月 センター試験直前講習・大学入試センター試験
- 2月 一般入試



進路相談

村田学園小石川女子中学校

ゆとりあるキャリアデザイン教育のために

村田学園は明治四二年の創立以来、「時代が求める人材、社会に貢献できる人間の育成」を根幹精神として、教育界に大きな足跡を残してきた。なかでも村田女子高等学校は、この学園の精神を「キャリアデザイン教育」というコンセプトに集約し、数多くの卒業生を輩出してきた。しかしながら近年の若者の進路決定に至る過程は、時代とともに変化が生じてきている。このような背景をもとに、ゆとりを持って「キャリアデザイン教育」を行っていくために中高六年間一貫教育の必要性を感じ、平成一八年に中学校設立準備委員会を立ち上げた。開校までの流れは、次のとおりである。

平成一九年	四月 一日	中学校設置認可申請
平成一九年	五月二二日	設置認可の設置計画承認が受理
平成一九年	九月一八日	設置認可を適当と認める東京都私立学校審議会の答申

平成一九年一月一二日 学校設置認可
平成二〇年 四月 一日 開校

細やかなカリキュラムによる六年間一貫教育

村田学園小石川女子中学校は、キャリアデザイン教育による早めの特性発見と、その中で「科学する心」の有効性を知り、論理的思考力を身につけた「サイエンスレディ」の育成を教育の目標とした。

六年間一貫教育のカリキュラムは、大きく三クールに分かれている。

【中一・中二】

目標達成とフォローアップ授業の期間と位置づけ、ゆるぎない基礎学力を身につけさせる。

【中三・高一】

中三から高校分野の学習に入り、高一の終わりに「理系」「文系」の選択を行う。

【高二・高三】

演習授業や放課後の実験講習を中心に、大学入試に向けた実力を養う。高三の一学期までに高校



第1回入学式

の履修範囲を終え、以後は入試に向けた実力養成期間とする。

また、この学習カリキュラムは、細やかに到達度を確認しながら前に進む「フォローアップ五期制」を導入している。これは、通常授業＋定期試験＋フォローアップ授業を一期とし、一年間を五期に分けたものである。《カリキュラム一覧 一二九頁参照》

「サイエンスレディ」を育む多彩なプログラム

サイエンスレディの基本は、教科書の学びだけにとどまらない。次のような特色ある教育プログラムを用意している。

「総合学習」

実体験やグループ学習から、感性や考え方（論理力）を養う。各期ごとに様々な分野の特別授業を用意し、実験や施設見学などを通して学問への興味を引き出すものである。また、グループ学習を主体とし、大学や社会で役立つリサーチ能力やプレゼンテーション能力を高めることも目的としている。

「宿泊体験学習」

一年入学後すぐに行われるのが、オリエンテー

ション合宿（箱根）である。八月は北軽井沢高原教室、二年になると夏のグループワーク合宿（栃木県ツインリンクもてぎ）、冬にはクリスマス・アクティビティ（福島県ブリティッシュヒルズ）が組まれている。三年では京都・奈良への修学旅行、最後はオーストラリア・ケアンズでの海外研修で、ホームステイ体験も行う。

この一連の学習は、宿泊と共同作業を通じて感性を磨き、人間関係能力と友情を育むことを目標としている。

「和のこころプログラム」

お茶、お花、ゆかた作りに取り組み、日本の伝統文化をとおして心静かに、女性としての感性を養うものである。

「キャリアデザイン教育」

テーマ学習をおして自己理解、他者理解、職業理解と展開し、将来の生き方を考える姿勢を養う。これは、しっかりとしたキャリアデザインを持たせることによって、今の学習の大きな動機づけとするものでもある。

「コミュニケーションプログラム」

これは認め合う友人関係を築き、安心できる生活環境を作ることを目的とした、心のプログラム

●平成21年度生徒数

生徒数	1年生	15
	2年生	15



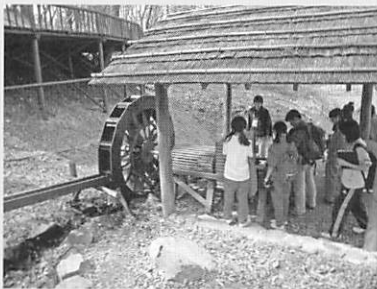
授業風景

である。全ての生徒が孤立することなく、多くの友人を得て、楽しく充実した学園生活が送れることを目指している。また、様々な人間関係スキルの獲得と、キャリア意識の刺激と促進を目指し、一人ひとりの生徒の成長をサポートしていくものである。

中学校におけるクラブ活動は、文化部一〇、運動部一六が用意されている。いずれのクラブも高校生と一緒に、中身の濃い活動を行っており、学園生活における大切な時間を彩っている。



北軽井沢高原教室



宿泊体験学習



むらた祭



体育祭(読上暗算)



和のこころプログラム

第三章 村田女子高等学校・村田学園小石川女子中学校のあゆみ

●六年間一貫教育課程

		中学 1 年	中学 2 年	中学 3 年	高校 1 年	高校 2 年		高校 3 年	
						文	理	文	理
国語	国語	5	5	5					
	国語総合				4				
	現代文					2	2	2	2
	古典					2	2	2	
	国語特講Ⅰ				2				
	国語特講Ⅱ					3			
	入試現代文特講							3	
社会	入試古典特講							2	*2
	社会	4	4	4					
	地理								
	世界史B				4				
	日本史B					3	3	2	
	日本史特講					2			
	入試日本史特講							*2	*2
	入試世界史特講							*2	*2
	政治経済							2	2
	公民							2	2
	倫理								
数学	数学	5	5	5					
	数学Ⅰ				3				
	数学Ⅱ					4	4		
	数学Ⅲ								3
	数学A				2				
	数学B					2	2		
	数学C								2
	入試数学特講							*2	2
理科	理科	3	4	4					
	理科総合A				3				
	理科総合B								
	生物Ⅰ					3	◇5		
	生物Ⅱ								◇3
	化学Ⅰ						3		
	化学Ⅱ								3
	物理Ⅰ						◇5		
	物理Ⅱ								◇3
	理科特講				2				
	入試生物特講							*2	*2
	入試化学特講							*2	*2
	入試物理特講							*2	*2
保体	体育	3	3	3	3	2	2	2	2
	保健				1			1	1
芸術	音楽	1	1	1	1			1	1
	書道								
家庭	美術	2	1	1					
	技術・家庭	2	2	2					
英語	英語	5	5	5					
	英語Ⅰ				4				
	英語Ⅱ					5	5		
	リーディング							4	4
	ライティング					2	2	2	2
	英文法特講Ⅰ				2				
	英文法特講Ⅱ					2	2		
	入試英語特講							3	1
	情報				2				
	情報A								
	道徳	1	1	1					
	選択						5	4	5
	総合的な学習	2	2	2	1	1	1	1	1
特別活動 (LHR)		1	1	1	1	1	1	1	1
計		34	34	34	37	34	34	34	34

高1から高3は、現高校普通科アドバンスコースのもの。
新課程移行に伴い一部改訂予定。

◇…選択必須科目

*…自由選択科目

村田女子高等学校 略年表

昭和6年3月	村田女子計理学校（6ヶ月制、4年制）村田簿記学校内に併設 校長に村田謙造就任
10月	第1回卒業式
昭和8年4月	東京府より乙種商業学校として認可される
昭和11年10月	創立五周年記念祝賀会（於、軍人会館、現、九段会館）
昭和12年7月	第13回卒業生の發議により、「皇軍慰問街頭募金」敢行、1533円を報知新聞（現、読売新聞）社に寄託
8月	学園新聞「村田学園新聞」創刊
10月	村田簿記学校、速算学校、女子計理学校、3校合同校友会總會（於、目黒雅叙園）
昭和13年4月	募集人数を150名から300名に増員
昭和14年1月	小石川区久堅町に新築移転
昭和18年2月	組織を財団法人とし、文部省認可の甲種女子商業学校に昇格、「村田女子商業学校」と改称
昭和20年5月	校舎を空襲で焼失
昭和21年4月	工場跡の倉庫で授業再開
昭和22年1月	村田簿記学校新校舎2階に移転
昭和23年3月	学制改革により「学校法人村田学園中学校・高等学校」に改組、「村田学園高等学校」と改称
4月	校舎（木造3教室）を被災地に再建／別科（1年制）生、23名入学
昭和26年4月	「村田女子商業高等学校」と改称 第1回生、34名入学（ほかに別科生入学）
昭和28年4月	校舎増築
5月	第1回生徒總會

7月	第1回修学旅行（京都・奈良）3年生
昭和29年4月	学校新聞「村田学報」創刊／別科廃止
6月	第1回同窓会総会
11月	第1回文化祭 第3回校内珠算大会
昭和30年4月	校舎増築
10月	第1回運動会（於、校庭）
昭和31年3月	校友会誌「むらた」創刊
4月	校舎増築 2期制導入
5月	生徒会役員立候補制とする
7月	3年生対象「就職試験準備講座（英・数・国・社、8日間）」始まる 北軽井沢キャンプ、海の学校（千葉県岩井海岸）、富士登山など夏期行事始まる
昭和32年4月	校舎増築
昭和34年10月	学園創立五〇周年記念として、学園教職員、同窓会、生徒一同より校長の寿像が贈呈される （贈呈式・除幕式）
昭和35年12月	第1回スキー教室（新潟県浦佐スキー場）
昭和36年1月	創立三〇周年記念校舎第1期工事完成
10月	第2期工事完成
昭和38年6月	学校新聞「ひさかた」創刊
8月	北軽井沢に村田学園グラウンド完成
昭和39年3月	体育館完成
11月	第1回「むらた祭」

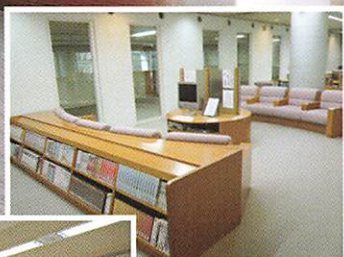
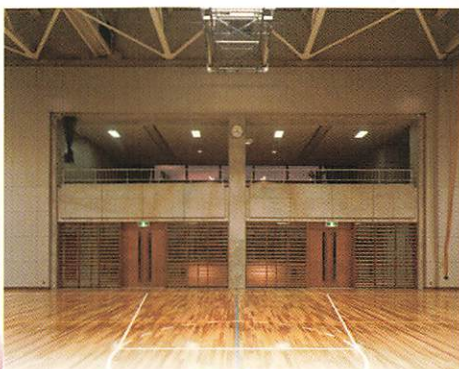
昭和40年7月	北軽井沢高原寮完成
昭和41年7月	第1回北軽井沢教室
昭和42年4月	5階増築工事完成
昭和46年10月	第1回健歩会
昭和49年4月	コース制導入
昭和50年3月	校長村田謙造逝去
4月	第2代校長に村田照子就任
昭和54年6月	第1回漢字書取大会
昭和59年11月	村田学園市川校舎完成／第1回合唱コンクール
昭和61年4月	図書館報「うんてい」創刊
昭和62年4月	パソコン導入
平成4年8月	第1回海外語学研修旅行（於、ワシントン大学）
平成8年4月	「東京経営短大村田女子高等学校」と改称
平成11年3月	文京区本駒込に新築移転
平成13年4月	普通科併設
平成16年9月	学校新聞「ひさかた」100号記念として「村田照子随想集」刊行
平成17年9月	第3代校長に伊藤淑子就任
平成18年6月	村田照子逝去
平成19年3月	村田照子の肖像画が卒業生より献呈される
4月	「村田女子高等学校」と改称
平成20年3月	村田照子の肖像が卒業生、同窓会、謙照会より献呈される（贈呈式・除幕式）
4月	「村田学園小石川女子中学校」併設 校長に伊藤淑子就任

第四章 東京経営短期大学のあゆみ











齋藤 力夫 (第二代)
平成6年4月～平成10年3月



大山 政雄 (初代)
平成4年4月～平成6年3月



村田 照子 (第三代)
平成10年4月～平成17年3月



亀田 光昭 (第五代)
平成18年4月～現在



大橋 信定 (第四代)
平成17年4月～平成18年3月

亀田光昭学長に聞く

短大教育に求められるもの

——先生を東京経営短期大学にお迎えして、早四年目になりました。今、短大教育に求められるものについて、どのようにお考えでしょうか。

第一に、それぞれの専門分野において社会貢献できる人材を、短期間に養成することが求められていると思います。

第二に、相手の言わんとすることを正確に理解し、自らの伝えようとすることを的確に表現する力をつけること。とりわけ、論理的な思考力や、言葉やコンピューターを状況に応じて適切に使うことのできる、応用力が必要ですね。

第三に、その基盤となるような幅広い教養を身につけさせることと同時に、健康で楽しい日常をエンジョイするための環境を提供することが重要ではないでしょうか。

——二年間という短い時間の中で、安心して巣立ち、社会に貢献していくための専門的な能力を身につけられるということは、短大の大きなメリッ

トですね。

本学の果たしている役割

——次に、東京経営短期大学の特徴や今日の社会において果たしている役割について伺います。

村田学園には、創立以来、実学の重要性を認識し、社会と

積極的にかかわってきた歴史があります。コンピューターの普及によるグローバル化で日々複雑化している企業活動に、確かな判断力をもってスピーディーに対応できる人材を輩出することが、本学にますます求められていると考えています。

現在、本学では医療秘書コース、生活心理コース、企業経営コース、会計税務コースの四コースを置いています。特には、村田簿記学校の伝統を直接引き継ぐ会計税務コースには特進コースを設け、卒業後も引き続き勉学を続け、税理士を目指すことができるシステムを整えています。



緻密な計画を立て、強い信念を持ってそれを実行することで、二年間で自分の目標を達成することができるよう、それぞれのコースにふさわしい資格取得を全学的に支援しています。

本学のこれから

——ところで、少子化や経済的格差が社会問題となっている今日、躍進を遂げていくために、どの学校でも新しい工夫を求められていると思います。が、本学のこれからのについてのお考えを教えてください。

市川キャンパスと神保町キャンパスを有機的に

活用し、在学生へのより高度な教育と、エクステンションセンターを中心に、卒業生へのフォローアップ等、社会人の生涯教育を充実させていくことを重視しています。

また、時代が求める人材を育成し続けるために、社会に対し広く情報を発信し、かつ社会から必要な情報がオンラインで受信できるシステムの充実を図ることが必要です。

今後、ホームページ等を含め、本学の姿勢や真の姿を広く知らせる努力を続けていきます。

——ありがとうございます。

松江由美子 経営総合学科長に聞く

開学時のこと

——先生は、平成四年四月の開学時から本学に勤務され、平成一四年からは学科長（当時は経営情報学科）を務められているわけですが、開学時の印象はいかがでしたか。

平成四年四月、教員二〇名、経営情報学科一年生のみ、一八六名でスタートしました。なにもかも一から作り上げていかなくはならなかったもので、前任校での経験などをもとに、皆で一つ一つ乗り越えていきました。教授会は非常に活発で、発言も多く活気にあふれていました。教授会だけでは議論が終わらず、場所を移して議論を続けることもありました。

学園祭などでは、学生も、先輩達のいない状況の中で悪戦苦闘しながら、自分たちで積極的に盛り上げていくとしていました。

——新設校ならではの苦勞ですね。

学生気質

——それでは、本学の学生をずっと御覧になっていて、変わったところとお感じになるのはどのような点でしょうか。

開学の頃は、目的意識のはっきりした学生が多かったように思います。経営総合学科になった頃から、目的意識をしっかりと持った学生とまだ自分の目標が明確でない学生とが混在するようになりました。経営総合学科はいわゆるバイキング方式で、自分の興味のある科目を中心に学べるとか、大学編人もできるとかいう、幅広いカリキュラムを用意していたわけですから、ある意味で当然かもしれません。

けれども、やはりそれでは二年間でまとまった教育成果を上げることが難しいため、コースの特色をはっきりと打ち出し、募集や入学決定後の事前学習の段階から、受験生に周知するようにした



わけです。

最近、そうした本学の姿勢が評価されるようになり、また、不況で就職に関心が高まっていることもあるのですが、医療事務の資格を取りたい、税理士になりたいなどと、はっきりした目的を持って本学を志願してくる学生が増えているようです。

本学の伝統

——次は、変わらない点はいかがでしょうか。

学生や教職員が互いによく挨拶をすることは、本学の伝統と言えると思います。比較的小さな学校なので、教員と学生の距離も近いですし、事務職員もとてもよく学生の面倒を見てくれます。アットホームな居心地の良さが、本学の特徴ではないでしょうか。また、開学時からリラックスルームという学生相談室があり、カウンセラーが学生の相談にのっています。

それから、本学では開学時からずっと、授業のチャイムを鳴らさないことになっています。学生には、時間は自分で確認し、遅刻をして他人に迷惑を掛けることのない、自律した社会人に育って

ほしいとの願いからです。

また、本学の校舎は、レンガの外装と打ちっぱなしのコンクリートを多用した落ち着いた建物で、ガラス越しに見える緑がほんとうに美しいのが自慢ですが、ここには、精神的に豊かな学園生活を送らせたいという、創立者の理想が息づいています。

本学のキャンパスは、ドラマの撮影に使われることも多いのですが、それは、学内の設備を大切に使っていることや、常に清潔に保たれていることなど、皆が小さな努力を積み重ねているからでもあるのです。

学生への期待

——最後に、「学生に期待すること」をお願いします。

最近、入学時からパソコンを上手に使う学生が増えました。この二〇年ほどで、すっかり社会の有り様が変わったことを痛感しますが、情報の多さに振り回されるのではなく、知的好奇心をもって自らの人生を切り拓いていける、思いやりと品位をもった人間であってほしいと思います。

——ありがとうございます。

東京経営短期大学

開学に至る経緯

学校法人村田学園は、平成元年に八〇周年を迎えた。この節目に、村田照子理事長以下学園関係者は、それまで培ってきた簿記・会計分野を中心とする実践教育の蓄積をさらに発展させ、今後の社会経済に貢献するために短期大学を設置して新たな高等教育を展開したいといふかねてからの意向を実現に移すことになった。

昭和六三年六月二九日の学園理事会で短期大学の設置が決定され、翌平成元年五月三〇日の理事会で「短期大学の概要」、九月二七日の理事会で「短期大学の設置、カリキュラム、教員人事」が、さらに十一月二日の理事会において「短期大学の組織、校地・校舎及び図書等の基本構想」が報告され、平成元年二月一日には、学園に短期大学設立準備委員会が設置された。

平成二年二月一四日の理事会では、「短期大学の概要、教育課程とその特色、教員組織、設置経費とその財源」の検討状況について報告があつ

た。六月一六日には就任予定教員との打合会がホテルグランドパレスにて開催され、七月六日の理事会で短期大学設置に伴う学園寄附行為変更が議決された。

これを受けて、七月三十一日、文部省に「東京経営短期大学設置認可申請書」及び「村田学園寄附行為変更認可申請書」を提出し、一〇月二四日の説明聴取、一〇月二五日の面接審査を経て、翌平成三年一月八日に一次審査通過の通知を受け、六月二八日に第二次審査書類を提出した。九月三日・一九日の実地調査を経て、平成三年二月二〇日付で、東京経営短期大学の設置が文部大臣より認可された。

平成四年一月六日には、就任予定教員及び学園関係者による「東京経営短期大学設置認可の報告会・新年祝賀会」がホテルグランドパレスにて開催され、四月の開学・学生受け入れに向けて、さらなる準備が進められた。



第1回入学式

開学時の状況

平成四年四月に開学した東京経営短期大学は、今後の我が国社会のニーズに対応し得るような人材、即ち人間性と創造的能力を有し、とくに経営科学を基盤とした実践的情報処理技術者及び経営管理能力を有する人材の育成を目標として、経営情報学科（定員一五〇名）を開設した。授業科目は左表のとおりである。

その他、校舎、図書、情報機器、学則等諸規程などの整備も進められ、大山政雄学長以下、専任教職員二〇名、助手二名と事務職員一二名の運営体制が整えられた。

入学試験は、主に商業科出身者向けの特別推薦と、一般推薦、一般の三種の方法で実施した。

学生募集活動は三ヶ月という短期間であったにもかかわらず、

一月二七日 特別推薦入試 一名

二月一〇日 一般推薦入試 三十三名

三月一四日 一般入試Ⅰ期 八三九名

三月一四日 一般入試Ⅱ期 二二八名

と、計一三九一名の受験者があり、なかでも一般入試Ⅰ期は、村田簿記学校だけでは会場が足りず、近くの研数学館を借用したほどの盛況であった。それぞれ一〇名、六五名、一一三名、六三名の計二五一名を合格とし、四月七日の入学式には一八六名の第一回生を迎えた。

「経営情報学科」には、開学時から、経営系・情報系・秘書系の三つの系が用意され、学生は希望した系のカリキュラムに従って履修した。平成

【経営情報学科 授業科目】

区 分	授業科目
〔一般教育科目等〕	
人文科学分野	倫理学
	歴史学
	国語表現
社会科学分野	法学
	経済学
	心理学
自然科学分野	ネットワーク社会論
	数学
	生活科学論
外国語科目	自然科学史論
	英語Ⅰ
	英語Ⅱ
保健体育科目	英会話Ⅰ
	英会話Ⅱ
	保健体育講義
	保健体育実技
〔専門科目〕	
経営学原理	経営学総論
経営史	経営史
企業論	企業論
	ベンチャービジネス論
	経営管理論
経営管理論	経営管理論
	戦略経営論
	経営者論
経営科学	マーケティング論
	マーケティング論演習
	財務分析論
計算機科学	労務管理論
	経営科学
	経営統計学
経営情報学	オペレーションズリサーチ
	コンピュータ概論
	情報処理論
会計学	プログラミング概論
	プログラミングⅠ
	プログラミングⅡ
秘書科目	プログラミング演習
	システム設計
	システム設計演習
秘書関連諸科学	情報管理論
	経営情報システム論
	経営情報システム論演習
関連科目	OAシステム論
	データベース論
	データベース論演習
秘書科目	パソコン演習
	情報ネットワーク論
	経営モデル分析
秘書科目	コンピュータ会計
	システム監査論
	簿記会計Ⅰ
秘書科目	簿記会計Ⅱ
	原価計算論
	財務会計論
秘書科目	管理会計論
	税務会計論
	秘書概論
秘書科目	秘書実務
	秘書実践演習
	文書管理
秘書科目	ビジネス文書法
	ワードプロセッサ演習
	社会心理学
秘書科目	人間関係論
	ビジネス英語Ⅰ
	ビジネス英語Ⅱ
秘書科目	ビジネス英語演習
	憲法
	民法
秘書科目	商法
	国際経済論
	国際金融論
秘書科目	ゼミナール



第1回入学式

一三年度からは、学生の将来設計に対してよりきめ細かく応じるべく、系の中にコースを設け履修モデルを提示するなど、たえずカリキュラムの見直しを行ってきた。

六月二七日には、地域関係者や学校関係者三〇〇名ほどを招き、学生ホールで「開学披露の集い」を開催した。また、平成五年二月には、第一回卒業生の進路開拓をかねて、村田学園と関係の深い企業関係者を多数、学生ホールに招いた。

経営税務学科増設

開学当初から教育研究の拡充策が検討されていたが、平成五年二月一日、学内に「学科増設検討会」が発足した。

平成六年一月一日には文部省に「学科増設計画概要書」を提示し、同四月二八日には学科設置認可申請書及び村田学園寄附行為変更認可申請書を提出した。

新学科の目的は、租税理念と税制、これと隣接する会計諸科学、経営科学を融合した系統的、統合的学科の体系を確立して社会の要請に応えようとするものであった。

大学等の設置及び定員増については、原則とし

て抑制する旨の国の方針が出ていたが、「特別の社会的要請又は教育研究上の要請に新しい分野を開拓するもので、その成果に十分な見通しを得られるものであること」「社会人、留学生、帰国子女の受け入れに積極的に対応するものであること」という二点に該当するものとして、「抑制の例外の扱い」の審査を受けることができた。その後数次にわたる面接審査や実地調査を経て、平成七年二月二二日に「経営税務学科」の設置が認可された。

「経営税務学科」は、昼夜開講制をとり、昼間コース一四〇名、夜間主コース二〇名、合計一六〇名の定員で、社会人二〇名、留学生二〇名、帰国子女五名の特別枠を設けることになった。

教育職員は、新規採用と経営情報学科からの移籍により、齋藤力夫学長以下一〇名で組織され、関連分野の授業科目については経営情報学科の教員が兼務した。平成八年四月に開設された「経営税務学科」には、昼間コースに留学生一五名、帰国子女一名を含む一四九名、夜間主コースに社会人一三名の第一回生を迎えた。

同五月二二日には学校関係者、企業関係者約



経営税務学科
開設披露の集い(パレスホテル)

【経営税務学科 授業科目】

区 分	授業科目
〔基礎教育科目〕	
教養科目	倫理学
	歴史と文化
	国語表現
	法学
	経済学
	情報と社会
	数学
	生活と科学
外国語	英語 I
	英語 II
	英会話 I
	英会話 II
	海外英語特別演習
保健体育	健康とスポーツ
	スポーツ実技
日本語・日本事情 (外国人留学生)	日本語 I
	日本語 II
	日本事情 I
	日本事情 II
〔専門教育科目 I〕	
基礎科目	民法
	商法
	憲法
	行政法
	金融経済論
	財政学
	公共経済学
	租税論
	租税史
	国際経済論
税務関連科目	租税会計論
	国際租税論
	租税と経営計画
	法人所得課税論
	個人所得課税論
	資産課税論
	消費流通課税論
〔専門教育科目 II〕	
企業関連科目	企業論
	中小企業論
会計関連科目	簿記原理
	簿記演習
	財務会計論
	財務諸表演習
	公会計論
	公益事業会計論
	原価計算論
	管理会計論
	コンピュータ会計
	財務分析論
	国際会計論
	会計監査論
経営関連科目	経営学総論
	経営管理論
	コンピュータ概論
	情報処理論
	情報管理論
	経営情報システム論
	経営モデル分析
	OAシステム論
	パソコン演習
	ワードプロセッサ演習
〔ゼミナール〕	
	ゼミナール I
	ゼミナール II

二五〇名をパレスホテルに招き、「新学科開設披露の集い」を開催した。当初の授業科目は左表のとおりである。

経営税務学科は、税務分野とそれに隣接する経営関連の分野を融合した、全国的にも特色ある教育研究を推進してきたが、その学科名から、税務のみが突出して受け取られる傾向が強かった。そのため、経営情報学科との間に、入学定員に対する志願者、入学者の割合に不均衡な状態が続いた。これを是正するために、平成一三年度から、経営情報学科の定員を一八〇名、経営税務学科・昼間コースの定員を一一〇名とする定員変更を行った。

また、平成一四年度入学生からは、経営税務学

経営総合学科誕生

この頃から、本学も社会の大きな変動の影響を受けるようになった。

第一に、少子化の影響による受験者数の減少で

科の名称を「ビジネスマネジメント学科」と変更した。

「経営税務学科」の昼間コースには、平成一一年度から税務エキスパートコース・財務経理スペシャリストコース・経営総合ビジネスコースが設けられていたが、「ビジネスマネジメント学科」では、税務コース・経理コース・情報コースと名称変更し、スポーツマネジメントコースを新設した。



第1回社会人入学式

ある。そのため、平成一五年度から、定員を削減して二九〇名としたが、なお入学定員が満たせない状況に陥った。第二に、社会人入学者の減少である。夜間主コースは、社会人に門戸を広げる意味を持っていたが、その需要は少ないと判断し、平成一五年三月に夜間主コースを廃止し、同四月、新たに長期履修学生制度を開始した。これは何らかの理由によって二年間で卒業することが難しい学生に対して、その経済的負担を軽減しつつ、最大六年間かけて卒業を可能にする制度である。

第三に、留学生受入れ数の増加である。一般学生の減少と平行して留学生の受け入れが進んだために、一時期、留学生の割合が急激に増えることになった。

なお、本学では、留学生教育における日本語教育の重要性に鑑み、本学入学前の段階からこれを円滑に行うことができるようにとの趣旨から、平成一二年四月に留学生別科を開設した。毎年別科修了後本学正規課程に進学する者もあったが、国の政策の方針転換もあり、平成一八年三月にはその役割を終えることになる。

このような状況の中で、新しい時代の社会の要

請に答えられる教育内容の模索が始まった。

平成一七年四月には、「経営情報学科」「ビジネスマネジメント学科」の二学科を統合して改組し、「経営総合学科」を開設した。定員は二四〇名で、幅広い教養と創造的な能力を養い、各方面にわたる学生の要求に応えようとするものであった。学生は、基本的にはビジネスコミュニケーションコース、情報ネットワークコース、経営プランニングコース、会計・税法コース、スポーツコース、大学編入コースのいずれかのコースに所属するが、最小限の必修科目のほかはコースに縛られることなく、フィールド・ユニットごとに分類された幅広い科目群の中から、自らの関心と目標に従って選択・履修できる特色を持つ「バイキング方式」で、短期大学基準協会から「地域総合科学科」として認定を受けている。

このカリキュラムが完成を迎えた平成一八年度、本学はさらに大きな革新に向けて動き出すことになった。すなわち、翌平成一九年度入学者から、履修自由度の高いフィールド・ユニット制から、目標のはっきりしたコース制に移行したのである。

新制度では、会計・税法コース、ビジネスプラ



第1回留学生別科入学式

ンニングコース、情報メディアコース、ヒューマンサービスコース、医療秘書コースの五コースと、さらに会計・税法コースには特進・一般の二クラスを設置し、それぞれのコースで卒業までに各自が目標を達成することを支援する、完成教育を謳っている。

言うまでもなく、会計・税法コースは村田学園の伝統に則ったコースである。特進コースは税理士を目指す学生を募集し、本学卒業後も税理士試験合格まで支援する附帯教育を実施することに

し、神保町キャンパスでも授業が行われている。

また、医療秘書コースは、近年の医療事務関連資格・職業への関心の高まりを受けて開設された、短期大学としては全国的にも先駆的なコースである。

さらに、推薦試験等で合格した入学予定者に対する学習サポートが開始された。課題提出とスクーリング受講の一定基準を満たした者に、入学後、「総合演習」として単位を与える制度である。



村田照子理事長講話

東京経営短期大学の現在

教育課程

平成二一年度入学生からは、従来の教育課程を一層発展・充実させた制度が適用されている。それは実務・実学分野と教養分野の科目をバランス良く配置して、建学の精神を反映したものである。

すなわち、四コース共通で、一般学生、外国人留学生それぞれに必修科目群を設けたほか、学生一人ひとりの関心や到達度に対応するために複数の科目を用意した選択必修科目群、幅広い教養や知識を学ぶ選択科目群を配置した。《平成二一年度入学生授業科目「共通科目」は一五二頁参照》

また、資格を取得することは実務に直結し、学生の学力が社会的に評価される基準の一つであること、学生の目標や取得後の自信につながることから、資格取得を見据えたカリキュラムとしているものも多い。

そこで、四コースそれぞれの実情に合わせて選択必修科目群を置き、取得目標資格をはっきりと

掲げてさらなる合格実績作りを目指すことにした。《コース別目標資格・検定は一五四頁参照》

同時に、一定水準以上の学力を確保するために、卒業要件単位を六四単位から六六単位に引き上げた。各コースの概要と授業科目は、以下のとおりである。《各コース選択必修科目は一五三頁参照》

■医療秘書 メディカルクラーク資格取得を前提に、診療報酬請求をはじめとする医療事務のエキスパートとしての実力をつける。ビジネスマナー、カウンセリングなどの周辺知識も幅広く学び、病院・薬局・福祉施設などでの活躍を目指す。

■生活心理 心の不思議と人間関係の有り様について学び、コミュニケーション能力を修得する。受付、秘書、販売、レクリエーション・インストラクターなど、サービス業各種における対人業務のエキスパートを目指す。

■企業経営 企業活動について総合的に学び、企業の社会的責任や顧客満足など、今日的な課題に対する問題解決能力を身につける。企業経営のみ



授業風景

ならず、企画・販売・営業職での活躍を目指す。

■会計税務 村田学園の伝統に培われたきめ細やかな実務指導により、企業活動の根幹にかかわる会計業務のエキスパートを養成する。

〔特進クラス〕事業主が納める税に関する専門家である「税理士」を目指す。簿記論、財務諸表論、会計を中心に税法についても学び、卒業後に税理士試験に合格するための実力をつける、最短コースである。

〔一般クラス〕一般企業や金融機関の経理事務に不可欠な、簿記会計や税法に関する知識を中心に学び、ファイナンシャル・プランナーの資格を取得することも可能である。

さらに、担任制導入により、学生一人ひとりの学習・進路選択を、よりきめ細かい対応で支援できる、二年間一貫指導体制を確立しつつある。

また、平成二十二年三月に会計税務コースの特進クラス一回生の卒業に合わせ、卒業後の税理士試験受験を支援するなどの附帯教育を開始した。

なお、村田簿記学校から専門学校村田経営義塾へと脈々と受け継がれてきた伝統、村田イズムの継承と伝授の役割は、東京経営短期大学のエクステンションセンターが担うこととなり、税理士受

験のフォローアップ教育をはじめ、短期大学教育の新たな可能性に挑戦を始めている。

学生の入学

現在、入学試験は、特別指定校・指定校・特待生公募・一般公募の各種推薦と特待生AO・一般AO・一般のほか、帰国生徒、長期履修学生、外国人留学生は指定校推薦と一般といった様々な形で実施している。

入学者は、下表のように、千葉県・東京都では八割を占めるが、本学園関係者の紹介やインターネットによる本学知名度の向上等により、全国各地から学生が入学している。

平成二十二年度の、一般学生入学者の出身高等学校による出身地域の割合は、下表のとおりである。

留学生については、これまでの出身国・地域は、中国（香港を含む）・台湾・韓国・ベトナム・スリランカ・タイ・モンゴル・ブラジル・マレーシア・ミャンマー・カナダ・バングラデシュとなっている。

平成21年度入学生
出身地域別の割合

千葉県	59.8%	群馬県	0.9%
東京都	18.7%	山梨県	0.9%
茨城県	7.5%	静岡県	0.9%
埼玉県	3.7%	大阪府	0.9%
神奈川県	1.9%	福岡県	0.9%
長野県	1.9%	その他	1.9%

卒業後の進路

現在の進路指導は、一年後期の授業「職業選択」や、一年生全員が参加する企業見学等により職業に対する意識を高めることと、常時開放されている進路相談室における個別相談が柱になっている。

平成二十二年三月、第一六回卒業生を送り出した。本学は、村田学園の長い歴史の中で、村田簿記学校・村田女子高等学校によって培われてきた各企業との信頼関係を引き継いで、開学当初から九〇パーセント以上の就職率を誇ってきた。しかし、最近では社会情勢の変化、学生気質の変化により、必ずしも正社員としての就職を希望しない学生が増えてきた。平成二〇年度、第一六回生（一般学生）の卒業後の進路は、就職が七割台、四年制大学等への進学が一割弱、その他が二割弱となっている。〈就職者の職業別・産業別割合は、下表参照〉

また、外国人留学生は、進学が約四割、就職と帰国等その他が約三割ずつを占めている。

教職員の状況

平成二十二年四月一日現在、専任教員は一八名、専任事務職員は一四名である。学生の人数に対して適正な人数ではあるものの、日々増大する業務に対応するために、多くの非常勤教員・職員の協力により運営されている。

本学では、かねてから学生による授業アンケートが行われてきたが、社会の動向と歩を同じくして、現在では、授業のみならず学校生活全般に対する満足度調査が学期毎に実施されており、各種の改善に役立っている。以前から教員向けに実施されてきたファカルティ・ディベロップメントも、現在ではFD・SD（教員職員資質開発）として事務局と合同で実施され、成果を上げている。〈組織図は一五五頁参照〉

同窓会

平成二十二年三月、第一六回卒業生を送り出し、これまでの卒業生総数は三四六名となった。まだ歴史の浅い同窓会であるが、学園創立百周年事業の大きな柱となった、市川キャンパスの全天候型グラウンド整備に際し、多大なご支援を賜っ

平成20年度卒業生
産業別就職者

産 業	割合 (%)
建設業	3
製造業	8
運輸・情報通信業	11
商社・卸売業	12
小売業	26
銀行・金融業	9
不動産業	1
医療・福祉	6
サービス業	24

平成20年度卒業生
職業別就職者

職 業	割合 (%)
プログラマー・SE	5
事務職	59
販売職	19
サービス職	10
運輸・通信	1
その他	6

平成21年度同窓会役員

会長	伊藤 由実
副会長	清水 大輔
会計	秋谷 留美子
監事	小泉 友幸
監事	石毛 静

平成21年度後援会役員

会長	相田 修
副会長	綱代 千津子
会計	溝呂木 夏子
会計監査	植木 順子
会計監査	野崎 節子

た。今後、より本格的な活動が期待される。

後援会

後援会は在学生、卒業生の保護者の会である。後援会からは、本学の環境維持をはじめ様々な面でご支援を賜っている。毎年秋桜祭で運営されるバザーは近隣住民からも好評で、学園祭を盛り上げるのに一役買っている。また、卒業式では卒業生一人ひとりに記念品が贈られている。

なお、この度の百周年事業においてもご支援を賜った。

就職ガイダンス・面接指導



就職ガイダンス
企業の人事担当者による講演



進路資料室での企業研究



就職ガイダンス・美容講座

平成 21 年度入学生授業科目

【外国人留学生共通】

履修区分	授業科目
共通必修	経営学入門
	教養ゼミナールⅠ
	教養ゼミナールⅡ
	日本語Ⅰ
	日本語Ⅱ
	日本語Ⅲ
共通選択必修Ⅰ	日本語Ⅳ
	日本語（聴解）Ⅰ
	日本語（聴解）Ⅱ
	日本語（読解）Ⅰ
	日本語（読解）Ⅱ
共通選択必修Ⅱ	日本語基礎
	英語Ⅰ
	英語Ⅱ
	英会話Ⅰ
	簿記原理Ⅰ A
	簿記原理Ⅱ A
	財務会計Ⅰ
	簿記論Ⅰ a
	コンピュータリテラシⅠ
	コンピュータリテラシⅡ
	コンピュータリテラシⅢ
	コンピュータ概論
共通選択	アプリケーション演習Ⅰ
	アプリケーション演習Ⅱ
	職業選択
	キャリアデザイン論Ⅰ
	キャリアデザイン論Ⅱ
	基礎数学Ⅰ
	基礎数学Ⅱ
	簿記原理Ⅰ B
	法学入門
	租税概論
	経済学入門
	生活と環境
	日本文学
	TOEIC英語
	英会話Ⅱ
	ビジネス英会話Ⅰ
	ビジネス英会話Ⅱ
	ビジネス英語
	中国語Ⅰ
	中国語Ⅱ
	からだとスポーツ
	スポーツの理論と実践Ⅰ
	スポーツの理論と実践Ⅱ
	スポーツの理論と実践Ⅲ
	スポーツの理論と実践Ⅳ
	シーズンスポーツ演習（冬季）
	日本事情

【一般学生共通】

履修区分	授業科目
共通必修	国語
	国語表現
	経営学入門
	教養ゼミナールⅠ
	教養ゼミナールⅡ
共通選択必修Ⅰ	英語Ⅰ
	英語Ⅱ
	英会話Ⅰ
共通選択必修Ⅱ	簿記原理Ⅰ A
	簿記原理Ⅱ A
	財務会計Ⅰ
	簿記論Ⅰ a
	コンピュータリテラシⅠ
	コンピュータリテラシⅡ
	コンピュータリテラシⅢ
共通選択	コンピュータ概論
	アプリケーション演習Ⅰ
	アプリケーション演習Ⅱ
	職業選択
	キャリアデザイン論Ⅰ
	キャリアデザイン論Ⅱ
	基礎数学Ⅰ
	基礎数学Ⅱ
	簿記原理Ⅰ B
	法学入門
	租税概論
	経済学入門
	生活と環境
	日本文学
	TOEIC英語
	英会話Ⅱ
	ビジネス英会話Ⅰ
	ビジネス英会話Ⅱ
	ビジネス英語
	中国語Ⅰ
	中国語Ⅱ
	からだとスポーツ
	スポーツの理論と実践Ⅰ
	スポーツの理論と実践Ⅱ
	スポーツの理論と実践Ⅲ
	スポーツの理論と実践Ⅳ
	シーズンスポーツ演習（冬季）
	日本事情
	総合演習

第四章 東京経営短期大学のあゆみ

【企業経営コース】

履修区分	授業科目
コース選択必修	経営学総論
	経営管理論
	マーケティング
	経営戦略
	ベンチャービジネス
	ホスピタリティ論
	ビジネス各論
	ビジネス資格演習Ⅰ
	ビジネスワーク論
	ビジネスマナー
	ビジネス文書
	人間関係の心理学
	経営分析
	経営統計学
	データベース
	企業と実務
	経済分析
	国際経済
	金融と証券
	スポーツマネジメント論
	ゼミナール

【医療秘書コース】

履修区分	授業科目
コース選択必修	医療保険制度
	受付実務Ⅰ
	診療報酬実務
	受付実務Ⅱ
	医療事務特論
	介護事務
	医療現場実習
	医事コンピュータ
	医療事務専科
	からだと保健
	ビジネスワーク論
	ビジネスマナー
	秘書実務
	健康心理学
	人間関係の心理学
	カウンセリング
	くらしの社会心理学
	ゼミナール

【会計税務コース・一般クラス】

履修区分	授業科目
コース選択必修	簿記演習Ⅰ
	簿記演習Ⅱ
	簿記原理ⅡB
	財務会計Ⅱ
	原価計算Ⅰ
	原価計算Ⅱ
	原価計算演習
	管理会計Ⅰ
	管理会計Ⅱ
	経営分析
	会計監査
	コンピュータ会計Ⅰ
	コンピュータ会計Ⅱ
	所得税法Ⅰ
	法人税法Ⅰ
	消費税法Ⅰ
	消費税法Ⅱ
	所得税演習Ⅰ
	法人税演習
	消費税演習Ⅰ
	相続税法Ⅰ
	相続税法Ⅱ
	ビジネス資格演習ⅡA
	ビジネス資格演習ⅡB
	ゼミナール

【会計税務コース・特進クラス】

履修区分	授業科目
コース選択必修	簿記論Ⅰb
	簿記論演習Ⅰ
	簿記論Ⅱ
	簿記論演習Ⅱ
	財務諸表論Ⅰ
	財務諸表論演習Ⅰ
	財務諸表論Ⅱ
	財務諸表論演習Ⅱ
	コンピュータ会計Ⅰ
	コンピュータ会計Ⅱ
	所得税法Ⅰ
	所得税法Ⅱ
	所得税演習Ⅰ
	所得税演習Ⅱ
	法人税法Ⅰ
	法人税法Ⅱ
	法人税演習
	消費税法Ⅰ
	消費税法Ⅱ
	消費税演習Ⅰ
	消費税演習Ⅱ
	相続税法Ⅰ
	相続税法Ⅱ
	管理会計Ⅰ
	管理会計Ⅱ
	経営分析
	会計監査
	ゼミナール

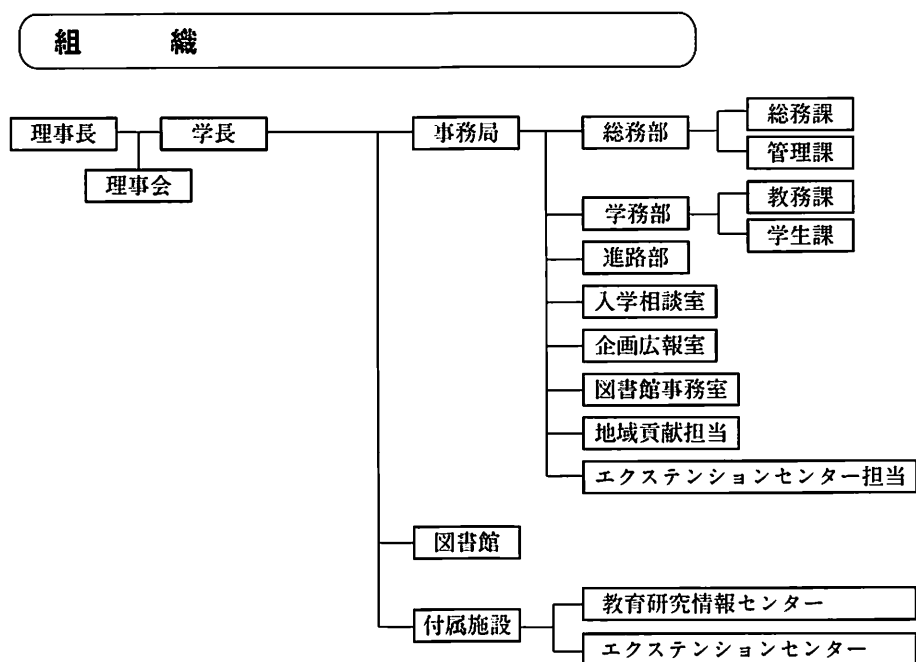
【生活心理コース】

履修区分	授業科目
コース選択必修	健康心理学
	人間関係の心理学
	カウンセリング
	くらしの社会心理学
	メンタルヘルス特論
	ビジネスワーク論
	ビジネスマナー
	文書処理演習
	ビジネス文書
	秘書実務
	秘書実務演習
	ITコミュニケーションA
	ITコミュニケーションB
	レクリエーション概論
	レクリエーション演習Ⅰ
	レクリエーション演習Ⅱ
	レクリエーション実習
	スポーツ文化と社会
	ウェルネス概論
	ホスピタリティ論
	ビジネス資格演習Ⅰ
	生活関連資格演習Ⅰ
	生活関連資格演習Ⅱ
	ゼミナール

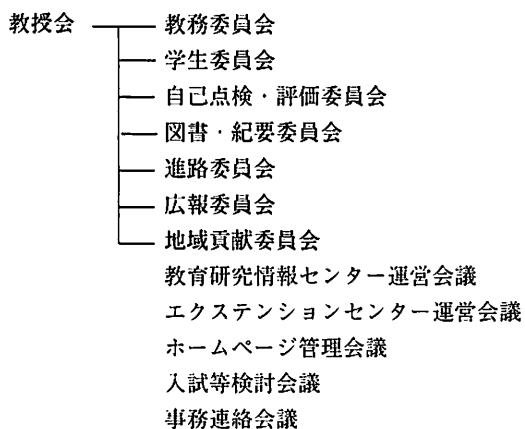
コース別目標資格・検定

	医療秘書コース	生活心理コース	企業経営コース	会計税務コース (一般クラス)	会計税務コース (特進クラス)	共 通
	各コースがめざす資格・検定等					
	①は各コース必須資格・検定等			②は各コース推奨の資格・検定等		
① 必須	・医療と介護事務の 3検定 ・薬剤報酬請求事務認 定	・メンタルヘルスマネ ジメント検定 ・アシスタント・ホス ピタリティー・コー ディネータ認定 ・秘書検定中・上級	・販売士検定 ・簿記検定初級 ・アシスタント・ホス ピタリティー・コー ディネータ認定	・簿記検定中・上級 ・税法検定上級	・簿記検定上級 ・税法検定上級 ・卒業後、税理士試験 (簿記論・財務諸表論)	・語学検定、PC ビジ ネス関連検定、その 他
② 推奨	・簿記検定初級	・レクリエーションイン ストラクター認定 ・簿記検定初級 ・色彩検定初・中級	・簿記検定中級 ・秘書検定中級	・FP3 級 (国家試験)		
H21年 4月						
5月						▲TOEIC テスト (5,6,7,9,10,11,1,3月) ▲似顔絵検定 (5,6,10,3月)
6月				日商簿記3級 (経験者)	日商簿記3級	▲中国語検定(6,11月)
7月				全経簿記3級 (1st) 全 経簿記2級 (経験者)	全経簿記2級	▲日商PC文書作成 (Basic, 3, 2, 1級)
8月						
9月						
10月				全経税務 (所得税・消 費税3級)	全経税務 (所得税・消 費税3級)	
11月		色彩検定3級 ▲秘書検定3級	全経簿記3級 (2nd) ▲秘書検定3級	日商簿記3級 (1st) 全経簿記2級 (経験者)	日商簿記2級 全経簿記1級 工業簿 記	
12月						
H22年 1月	メディカルクラーク2級	◎アシスタント・ホス ピタリティー・コー ディネータ認定申請	◎アシスタント・ホス ピタリティー・コー ディネータ認定申請			▲日商PC文書作成
2月	全経簿記3級 (3rd)	▲秘書検定3・2級 全経簿記3級 (3rd)	販売士3級 日商簿記3級 (2nd)	全経税務 (所得税2級・ 消費税2級・法人税3 級) 全経簿記2級 (1st) 日商簿記3級 (再)	全経税務 (所得税2級・ 消費税2級・法人税3 級) 全経簿記1級 会計 日商簿記2級 (再)	SAJ スキーバジジェ スト又はJSBA スノー ボードバジジェスト ([「シーズンスポーツ演 習」履修者向け])
3月	メディカルクラーク2級 (再)	メンタルヘルス・マネ ジメント検定Ⅲ種				
4月						
5月						
6月		色彩検定2級 色彩検定3級 (再) ▲秘書検定2級	日商簿記3級 (再) ▲秘書検定2級・3級 (再)	日商簿記2級 (1st) 日商簿記3級 (再)	日商簿記2級 (再)	
7月	全経簿記3級 (再)	全経簿記3級 (再)	販売士3級 (再) 全経簿記2級 (2nd)	全経簿記2級 (再)	全経簿記1級 (再)	▲日商PC文書作成
8月	ケアクラーク					
9月				FP (ファイナンシャル プランナー) 3級		
10月	ケアクラーク (再)	メンタルヘルス・マネ ジメント検定Ⅲ種 (再)		全経税務 (所得税3級・ 消費税3級) (再)	全経税務 (消費税1級)	
11月	医事コンピュータ	色彩検定2級 (再)・ 3級 (再) ▲秘書検定準1級・2 級 (再)	全経簿記2級 (再) ▲秘書検定2級 (再)	日商簿記3・2級 (再) 全経簿記1級 工業簿 記 (1st)	日商簿記1級	
12月						
H23年 1月	◎薬剤報酬事務技能認 定試験	◎レクリエーション・ インストラクター認定 申請		FP 3級 (再)		▲日商PC文書作成
2月	日商簿記3級	▲秘書検定2級 日商簿記3級	販売士3級 (再) 日商簿記2級 (2nd)	全経税務 (所得税2級・ 消費税2級・法人税3 級) (再) 全経簿記1級 会計 (1st) 日商簿記2級 (再)	全経税務 (所得税1級) 全経簿記上級	SAJ スキーバジジェ スト又はJSBA スノー ボードバジジェスト ([「シーズンスポーツ演 習」履修者向け])
3月						
8月					卒業後、税理士試験 (簿記論・財務諸表論)	

- ・◎印：本学設置の授業科目を履修し所定の成績を修めることで認定される。
- ・▲印：指定された授業科目を履修することでサポートされる。直接の検定対策授業ではないため、受験希望者は授業担当者に相談のうえ
アドバイスを受けること。
- ・無印：指定の授業科目を履修することで直接の検定対策となる（一部、補講、集中授業も含む）。
- ・全経簿記、日商簿記の(1st)：中級・上級の合格を達成をめざす（授業進度は速い）。
- ・全経簿記、日商簿記の(2nd)：中級の合格をめざす（授業進度は中くらい）。
- ・全経簿記、日商簿記の(3rd)：初級の合格をめざす（授業進度はゆっくり）。
- ・(再)：再受験（再チャレンジ）の意味。
- ・(経験者)：すでに簿記の勉強をしてきている者。



学内諸会議



東京経営短期大学の特色

建学の精神

村田学園の精神を継承した東京経営短期大学の建学の精神は、時代の流れを的確に察知する洞察力と緻密な計画や強い信念をもって事にあたる実践的技能を有する有為な人材を育成し、もって社会に貢献することである。

学園の標語「有算者勝」は、「算学経理の心得ある者は、人にまさる」の意で、ものごとに緻密な計画性をもってあたるならば、必ず成就するという意味でもある。

この建学の精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、人間性豊かな教養と創造的能力を涵養するとともに、現代の職業や実生活に必要な専門的・実践的知識技能を有する有為な人材を育成することが教育理念である。

このような教育理念は、毎年行われる学長講話において学生に周知されている。また、このような理念が時代に即したものととして具現化されるように、教育課程をはじめとする様々な面での改革

がたゆみなく続けられている。

教養ゼミナール

本学は規模の小さい短期大学で、学生と教職員との距離が近いことが大きな特色と言える。授業も比較的少人数単位のものが多いが、なかでも「教養ゼミナール」は特徴的な科目である。

「教養ゼミナール」は、一年次の必修科目である。以前は、教員一人ひとりの考えと努力に任ざれており、基礎学力の充実を図ることに主眼が置かれていた。しかし、平成一七年度の経営総合学科開設に伴い、ワーキンググループが練り上げた素案を元に、担当者全員が統一カリキュラムによって運営することが確認された。

目標は、社会人としての基礎知識・技能を身につけ、職業に対する意識を高め、人間としてのモラルを高めることに置き、あわせてホームルームのような「居場所」づくりをねらった。新聞の読み方やレポートの書き方などのほか、オムニバス方式を採り入れた講話では、あえて普段の授業と



教養ゼミナール・お茶会

は違う人生についての話題も盛り込み、お茶会では日本文化体験と同時にマナーを学ぶなど、多彩な内容を心がけた。

平成二〇年度からは「社会人基礎力の養成」を目標に、スピーチやディスカッションなどのコミュニケーション活動に力を入れている。さらに、平成二一年度においては、例年ゼミナール毎に企画・運営されている学園祭の出店を、「経営」を学ぶ学生の実践の場として位置づける試みが行われている。

表彰

学生の表彰は、学生の努力に対する評価の一つであり、期待する学生像の提示法の一つでもある。

本学では毎年、卒業生の中から以下の各賞の受賞者を選び、表彰している。

○村田謙造賞 近代的簿記と珠算の指導に生涯を捧げた本学園の創始者村田謙造の功績を記念して設けられた賞で、学業成績が最優秀である者に授与されるものである。

○理事長賞 本学の設立の趣旨に添い学業がきわめて優秀であると共に、学園活動に特に貢献した

者に授与されるものである。

○学長賞 本学の各教育科目を積極的に受講し、自己の能力を高め、且つ学業が極めて優秀である者に授与されるものである。

○優等賞 学業が優秀で、積極的な学生生活を送った者に授与されるものである。

○特別賞 学内外の活動により本学の名誉を高めたと認められる者に対して授与されるものである。

○功労賞 学友会活動やそれに準じた活動を行った者に対して授与されるものである。

資格取得支援

本学では開学以来、資格対策特別講座、エクステンションセンターオープンカレッジ開講科目、正規の授業科目や補講など、様々な形で、学生の資格取得を支援してきている。

また、入学前・入学後に検定・資格を取得し、申請した者に対しては一二単位まで、授業科目履修にかえて単位認定する制度がある。

平成二〇年度には、

〔入学前〕

○全国経理教育協会主催簿記能力検定二級…二件



オープンカレッジパンフレット

○日本商工会議所主催簿記検定二級……………二件

計四件

〔在学中〕

○日本商工会議所主催簿記検定二級（全国経理教育協会主催簿記能力検定一級にも合格）……………一件

○日本商工会議所主催簿記検定二級……………四件

○全国経理教育協会主催簿記能力検定三級……………一件

○全国経理教育協会主催簿記能力検定二級……………五件

○全国経理教育協会主催簿記能力検定一級……………二件

計一三件

以上、計一七件の申請に対して、それぞれに見

合った科目の単位を認定した。

また、スポーツ分野におけるめざましい活躍のほか、各種資格・検定取得者に対して学長奨励賞を授与することで、さらなる学習意欲を喚起し、他の学生への奨励としている。平成二〇年度は、

○第一五回全国経理教育協会主催簿記能力検定

一級合格者……………五名

○第一五六回全国経理教育協会主催簿記能力検定

一級合格者……………四名

○第一三回全日本情報学習振興協会主催パソコン

速記検定試験ビジネスクラス一級合格者……………一名

○第八〇回全国経理教育協会主催税務会計能力検

定試験消費税法一級合格者……………八名

○第八一回全国経理教育協会主催税務会計能力検

定試験所得税法一級合格者……………五名

○第一五八回全国経理教育協会主催簿記能力検定

一級合格者……………七名

以上、のべ三〇名が受賞した。

奨学金制度

本学では、開学時から各種奨学金・特待生制度が豊富に用意されてきた。現在は、入学予定者のなかから希望者を対象に実施する小論文試験と、一年次の学業成績により選考される特待生制度がある。学園の卒業生・在校生が四親等内にいる場合や双子・兄弟が同時に入学する場合の入学金割引制度、遠隔地の実家を離れ、自宅外通学をする場合の宿舍費補助制度など、ユニークな制度も整備されている。



学長奨励賞授賞式

社会の中の東京経営短期大学

外部評価

今日、教育現場がその質を高めるために、自ら点検と評価を行い、さらに外部から公正な評価を受けることの重要性が周知されるようになってい
る。本学でも、開学間もない平成七年度・九年度に「自己点検・評価報告書」を作成したが、外部に公表してはいなかった。平成一一年九月の短大設置基準の一部を改正する省令において、短期大学は、教育研究活動等の状況についての自己点検及び評価を行い、その結果を公表し、その結果について「当該短期大学の職員以外の者による検証を行うように努めなければならない」とされたのを受けて、平成一二年度から五回、自己点検・評価報告を行っている。

外部評価として義務化された第三者評価を、平成二一年度に財団法人短期大学基準協会のもとで受けることになっている。しかしこれとは別に、平成一二年度から三回本学独自の外部評価を受けている。

外部評価委員は本学学長の申し出に基づき、理事長が委嘱した学外の有識者若干名である。評価委員は次のとおりである。

○第一回（平成一二年度）

片岡 寛 氏（一橋大学教授）

齊藤 克 氏（株式会社勝谷薬局取締役・

有限会社勝谷調剤薬局取締役）

津守 四郎氏（全国商業高等学校協会事務局長）

宮田 賢一氏（株式会社クボタ市川工場長）

吉田 教明氏（市川商工会議所専務理事）

○第二回（平成一五年度）

奥野木正彦氏（不二女子高等学校校長）

齊藤 久義氏（市川市教育委員会生涯学習部長）

千坂洋三郎氏（市川商工会議所専務理事）

津守 四郎氏（全国商業高等学校協会事務局長）

並木 雅俊氏（高千穂大学理事・教授）

西村 修 氏（株式会社淀川製鋼所市川工場長）

○第三回（平成二〇年度）

泉沢 伸興氏（元極東石油工業株式会社取締役）

永池 一秀氏（市川商工会議所専務理事）



自己点検・評価報告書

並木 雅俊氏（高千穂大学人間科学部長・教授）

以下に、第三回の評価について簡単に記す。

▽建学の精神に基づき、学生への教育・指導・社会活動等あらゆる面に真摯かつ情熱を持って、教職員が一丸となって取り組んでいる。

▽時代の変化・学生意識の変化を的確に把握し、教育カリキュラムの編成、コースの設定等、たえず改革、改善する努力、工夫がされている。

▽大学の管理運営、施設設備・備品管理、財務・経理の管理等、細心の注意をもって適切に運営されている。

▽各種行事については、卒業生の評判も良い。

▽オープンカレッジ、学習支援、ボランティア活動、施設開放等により、「地域に開かれた大学」として現在も積極的に担っている任務は、今日ますます重要になっており、今後の展開が期待される。

このような好意的な評価のほか、少子化の時代にあって、活力を維持し努力を継続していくための貴重なご提言もいただいた。

▽建学の精神の、カリキュラム構造への具現化

▽中学・高等学校関係者に、本学の姿勢を伝えるための工夫

▽村田女子高等学校との提携強化

▽クラブ活動等の活発化と学生の所属意識発揚

▽インターンシップ制度の充実

▽図書館予算の効果的な消化

▽留学生出身国の重点化

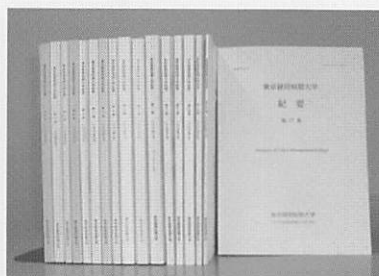
以上の提言は、実現可能な部分から具体化し実行に移し始めている。

紀要

開学初年から年一回、教員の研究業績公開の場として「東京経営短期大学紀要」を刊行している。平成二〇年度の第一七巻までで合計一五三本の論文と三四本の研究ノートが発表されており、現在では国立情報学研究所のオンラインサービス「CiNii」により第一巻からの業績が無料で閲覧できる態勢となっている。

生涯学習の場

本学では、開学当初の平成四年度後期から、地域住民に生涯学習の機会を提供するために公開講座を実施してきた。また、さわやかちば県民プラザ等、行政機関や団体からの要請に応じて受託講座を実施してきた。これらの公開講座と、本学学



東京経営短期大学紀要

生の資格取得のための特別講座をベースとして、他の関連事業も併せて全学的に「地域に開く大学」構想を実現するために、平成一二年四月にはエクステンションセンターを開設した。

各種検定対策講座はオープンカレッジ科目から正規の授業に移されたものも多く、年度によって科目数は異なっている。また、平成二一年度から、エクステンションセンターは、神保町キャンパスにおける本学卒業生の税理士受験希望者に対するフォローアップ教育「税理士試験簿財直前対策講座〈簿記論〉〈財務諸表論〉」や、旧村田簿記学校時代から受託してきた委託訓練等を含めて実施する新体制となっている。

平成二一年度前期の、市川キャンパスにおけるオープンカレッジ開講科目は次のとおりである。

- 「伊勢物語」精読（6）
- 初めてのデジカメ
- プリンター使いこなし
- Excelの基礎

○マイクロソフト認定資格MOS・MCAS試験対策講座〈Wordコース〉〈Excelコース〉〈Power Pointコース〉

ボランティア活動

平成一四年度から、教養ゼミナール等の授業の一環として、西船橋駅から本学までの通学路の美化活動を行ってきた。

平成一七年度に環境美化ボランティアグループが発足し、年間を通しての活動が続け、江戸川クリーン大作戦に参加したこと等も評価され、平成二〇年一二月には市川善行会と市川市長からそれぞれ表彰を受けた。

平成一九年度には、地域の安全保持、犯罪の抑止に努める趣旨で、安全パトロールボランティアグループが発足して活動を行う一方、平成二〇年度には国際交流クラブを中心に、隣接する市川市立二俣小学校への出張授業を行うなど、活動の場を広げている。



美化活動

学生生活

オリエンテーションキャンプ

開学翌年の平成五年度から、新入生を対象とした一泊二日のオリエンテーションキャンプを実施してきた。この年は、二年生と合同で、山梨県の富士急ハイランドで実施し、学校生活についてのオリエンテーションを行った。

平成六年度から一六年度までは、千葉県富浦において、二年間の目標設計や自己紹介等を行い、ゼミナール毎に懇談会を行った。また、スコア・オリエンテーリングや飯盒炊さん、コミュニケーション・プログラム等を適宜採り入れ、学生・教職員相互の親睦を図った。

平成一七年度から一九年度は、デイズニールゾートのホテルを会場に、それまで別に実施していた教養セミナーの内容を取り込み、テンプルマナーやデイズニールゾートの顧客サービス研修・実習を実施して、主としてコミュニケーション能力の涵養に力を注いだ。

平成二〇年度からは、教養セミナーを復活さ

せ、オリエンテーションは学内で行っている。

スポーツ大会

スポーツ大会は、平成四年度は一〇月に実施したが、平成五年度からは新入生を迎えて親睦を深めるために、五月に実施している。近年は学友会が中心となって運営にあたり、ゼミナール対抗方式で行っている。種目は、各種球技やレクリエーションスポーツ等幅広い種目の中から選択するが、平成二一年度は、本学園の全天候型サッカーグラウンドの完成を記念して、フットサル大会を開催した。

夏祭り

平成一九年度から、七月上旬に夏祭りを開催している。それ以前は、主として留学生に日本の文化を紹介するために、笹や短冊などの飾り付けを行っていた。しかし、一般学生も楽しめる行事にしたいという声が多いことから、学友会が企画・運営し、団扇作り、スイカ割り、花火などを行う



オリエンテーションキャンプ

ようになった。また、学生が自分自身で、あるいは友人同士でゆかたを着付け、華やかな雰囲気醸し出している。

全国私立短期大学体育大会参加

日本私立短期大学協会が八月初めに主催する全国私立短期大学体育大会に、本学も平成六年度の第二九回大会から積極的に参加してきた。

大会種目に該当する体育系のクラブ・サークルを中心に、日頃の活動成果を示す場となっているが、それ以外の学生にも参加を呼びかけている。主な戦績は次のとおりである。

平成 七年度 テニス女子 八強

平成 九年度 バドミントン男子個人戦

シングルス三位

平成一二年度 バスケットボール男子 三位

平成一三年度 バスケットボール女子 Bブロック

ク第二ディビジョン 準優勝

平成一六年度 テニス女子個人戦ダブルス 三位

なお、全国私立短期大学体育大会の参加にあたっては、本学、学友会、後援会、同窓会の援助により、学生の費用負担を軽減している。

秋桜祭

本学の学園祭は、開催される季節にちなみ

「秋桜（コスモス）祭」と名づけられている。平

成六年度からは、一〇月末の土曜日・日曜日、二日間に行うのが恒例となっている。

開学初年度は有志の実行委員会が運営したが、その後は、学友会が中心となって運営している。

毎年メインテーマを設定し、そのテーマに沿った形で各ゼミナール、クラブ・サークル等が、展示・発表、公演、招待試合、模擬店等を開催している。

学生がゼミナールでの学習やクラブ・サークル活動の日頃の成果を学内外に示すとともに、講演会や公開講座の開催、芸能人の公演

秋桜祭テーマ一覧

平成四年度	初めてだよ！全員集合
平成五年度	高加熱度コスモス台風上陸
平成六年度	咲きほこれ秋桜の花
平成七年度	咲いた咲いた秋桜祭
平成八年度	楽しさ倍増計画 其の一 ♪Melody♪♪♪あなたはどうなコスモスを みつねることが出来ますか♪
平成九年度	コスモスの真心 君に… ♪あなた心のコスモスはなにいろですか♪
平成一〇年度	コスモスとわたし ♪コスモスの純粋さいつまでも♪
平成一一年度	♪コスモス♪21世紀に繋ぐ友情♪
平成一二年度	こころ〜ドッキドキのたのしさ〜
平成一三年度	♪Believe in Dreams♪すてきな10年間、そして…
平成一四年度	タノシサイゾウ計画其ノ二
平成一五年度	♪♪♪人と人との結びつき♪
平成一六年度	愛コミュニケーション
平成一七年度	♪Love Beyond♪信頼の絆♪
平成一八年度	♪Love Over Me♪一人はみんなのために、
平成一九年度	みんなの架け橋
平成二〇年度	みんなの架け橋
平成二一年度	のび〜最・彩・祭〜

等によって、地域住民参加の機会を提供してきた。

特に、近隣の小学生とその家族が参加できるイベントを考え、二俣小学校の児童による絵画展を毎年実施している点は、本学園祭の特色であると言える。さらに近年では、村田女子高等学校のみならず、近隣の高等学校からの参加も増え、交流が行われている。

教養セミナー

教養セミナーは、広く教養を身につけることを目的に、平成六年度から毎年一回実施している。オリエンテーションキャンプ等、他の行事とのかねあいにより、年によって、一年生のみ、または一・二年生合同としている。初めの数年の内容は歌舞伎鑑賞であったが、その後、ミュージカル鑑賞やテーブルマナーが多くなった。二〇年度は、劇団四季によるミュージカル、「ライオン・キング」の鑑賞を行った。

スキー・スノーボード教室

スキー教室は、平成四年度から現在まで継続して実施している学校行事であるが、九年度からは

学友会との共同行事とし、平成一一年度からは「生涯スポーツ」の授業を兼ねることになった。

なお、平成一〇年度にはスキーのほかスノーボードを正式種目に取り入れたが、それ以降、スノーボードの参加者が大半を占めるようになった。平成一七年度からはバジテストを取り入れている。

学友会・課外活動等

学友会は、本学の建学の精神に則り、自主的活動を通じて学生生活の向上ならびに学生相互の親睦を図るべく、全在籍学生から構成される自治組織である。各種行事の企画・運営に携わり、クラブ・サークルによる課外活動も積極的に展開されている。最高議決機関として学生総会があり、事業報告、決算報告、事業計画案、予算案ならびに学友会役員の承認がなされる。通常は、ゼミナール代表者による代表者会議とクラブ・サークル代表者によるクラブ・サークル連絡会において学友会活動に関する決議がなされ、代表者会議で選出された会長、副会長その他から構成される学友会役員が総会、代表者会議、クラブ・サークル連絡会の決議に基づき執行の任にあたる。



スキー・スノーボード教室

体育系クラブ・サークルは全国私立短期大学体育大会等に積極的に参加しており、文化系クラブ・サークルは学園祭において発表や展示を行っている。

近年は友人同士で気軽にスポーツや趣味を楽しみたいという学生が増えてきているため、少人数でも活動できるように、平成二一年四月から、クラブ・サークル設立基準が緩和されたこともあって、新たなサークルも続々と誕生している。



全国私立短期大学体育大会開会式



秋桜祭



スポーツ大会
キンボール

夏祭り



設備と環境

図書館

図書館一階には五万冊が収容可能な開架式の書架、一〇六席の学習机、八席の新聞・雑誌閲覧コーナーがある。二階にはAVコーナーが設置されており、個人用ブースとグループ用ブース、あわせて二四席がある。現在、約三万九〇〇〇冊の書籍と約二〇〇〇点の視聴覚資料、学術雑誌八九種、一般雑誌四四種、紀要一七三種を所蔵している。

教育研究情報センター

本学は経営情報学科として発足したため、開学当初からコンピュータシステムを充実させてきた。平成九年一〇月に発足した電子計算機センターは平成一〇年度より「教育研究情報センター」と改称され、平成一二年度には大学付属施設となった。私立大学情報教育協会による「情報教育機器の充実度及び利用方法の総合評価」では、本学が短期大学部門で二位を獲得した。

平成一三年度には、学内各所からインターネッ

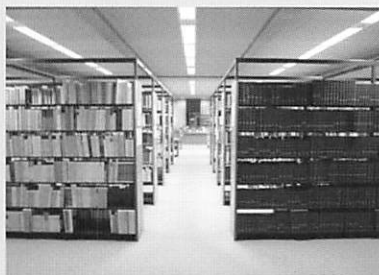
ト接続が可能になり、平成一四年度には情報関連科目にマルチメディア関係の授業が新設されたのに伴い、Macintosh機が使用できる第二PC室とクリエイティブスタジオが設置された。

平成一七年度には三つのコンピュータ演習室のサーバー及びネットワーク環境が一新された。新システムでは、一台のパソコンでWindows、MacOS、Linuxが利用可能な、マルチOS環境が整備されている。現在では三教室に一三一台のパーソナルコンピュータが設置され、二教室は授業以外の時間帯には自習用に開放されている。

その他、現在では、携帯電話から本学ホームページに接続して、学園のニュースや休講、学生食堂メニューなどの情報を確認することができるようになっていく。さらに、進路部から学生に求人情報の発信を行うなど、携帯電話に対応した環境を整えている。

フィットネスルーム

生涯教育・健康管理教育の気運の高まりを受



図書館

け、平成一〇年九月、私学振興財団の「特色ある教育研究の推進」による助成金を得て、フィットネスルームを設置した。

フィットネスルームは、ストレッチ運動等多目的に使用可能なフリーゾーン、有酸素トレーニング用のエアロビクスゾーン、筋力トレーニング用のレジスタンスゾーンの三つのコーナーから成っている。

有酸素系では、脈拍管理で運動レベルを自動制御可能な、バイク（体力テスト対応のもの）とリカベントタイプのもの）とステップのマシンを合計一一台、筋力系では呼吸循環器系のトレーニング効果も期待できる油圧式マシン六種類を各一台設置し、ミズノ株式会社が開発したTDS（Training Doctor System）を採用している。

リラックスルーム

学生の悩みごと（修学、進路、心理、人間関係、精神衛生など）の相談に応じるため、開学当初からリラックスルームが設置されている。専門のカウンセラーが対応している。

バス運行

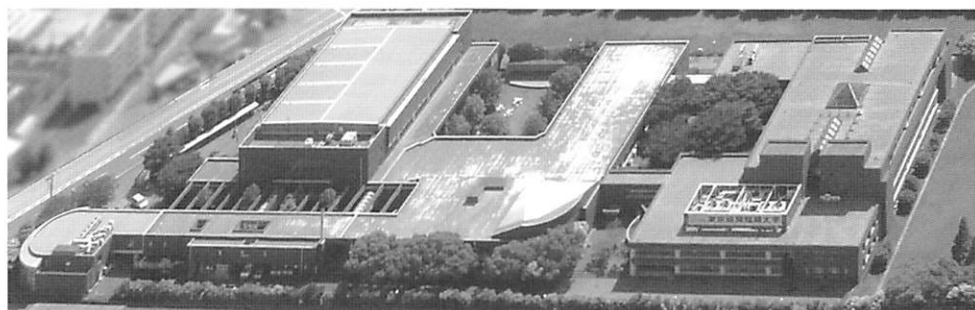
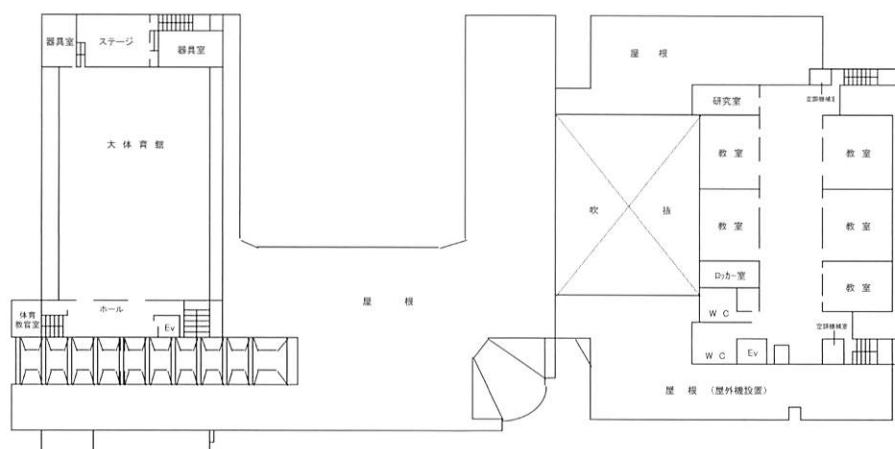
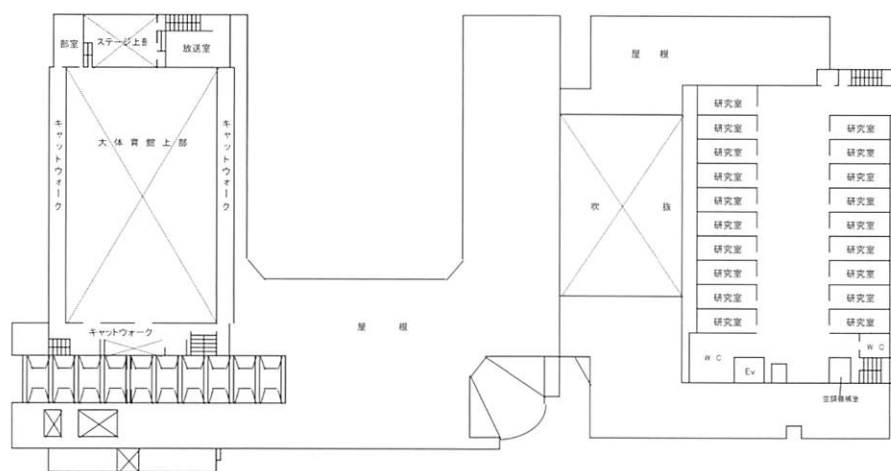
本学の最寄り駅はJR・東京メトロ西船橋駅であり、千葉・東京のみならず、埼玉・茨城方面からも交通至便な好立地である。駅から徒歩約一五分の距離ではあるが、学生の利便性を鑑み、平成一七年度に試運行を実施したところ好評であったため、平成一八年度からは、授業時間に合わせて、京成バスに委託して本格運行を実施している。



登校風景



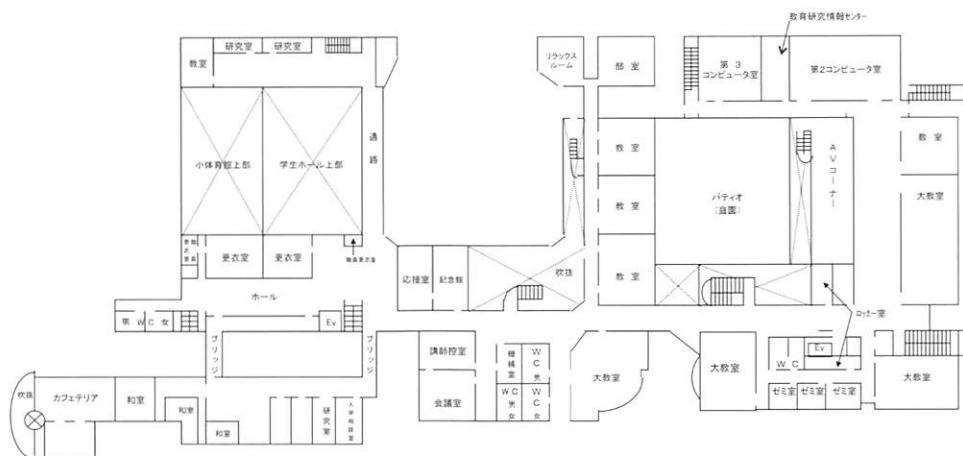
第3PC室



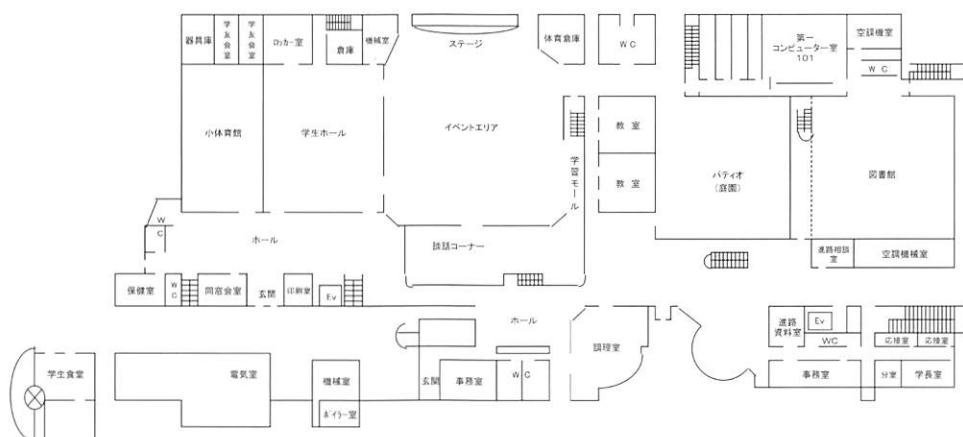
第四章 東京経営短期大学のあゆみ

校舎平面図

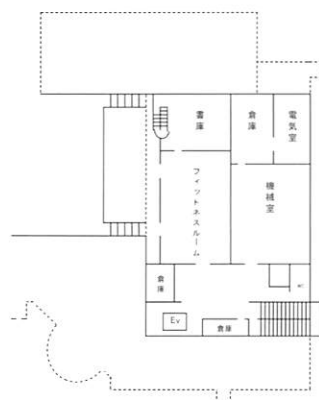
2 階 平 面 図



1 階 平 面 図



地 階 平 面 図



東京経営短期大学 略年表

平成3年12月	東京経営短期大学（経営情報学科）設置認可される
平成4年4月	東京経営短期大学（経営情報学科）開学 学長に大山政雄就任
平成6年4月	第2代学長に齋藤力夫就任
平成8年4月	経営税務学科を増設し、夜間主コースを設置
平成10年4月	理事長村田照子、第3代学長を兼務 学監に藤井禧和就任
平成12年4月	留学生別科（日本語研修課程）併設、エクステンションセンター・教育研究情報センターを大学付属施設として開設
平成13年4月	副学長に藤井禧和就任
平成14年4月	経営税務学科をビジネスマネジメント学科に改称
11月	「東京経営短期大学10年史」刊行
平成15年3月	夜間主コース廃止
4月	長期履修制度開始
平成16年4月	副学長に大橋信定就任
9月	経営総合学科が設置認可され、地域総合科学科の適格認定を受ける
平成17年4月	経営情報学科・ビジネスマネジメント学科を改組し、経営総合学科を開設 第4代学長に大橋信定就任
平成18年3月	留学生別科閉鎖
4月	第5代学長に亀田光昭就任

平成19年4月

会計・税法（特進クラス・一般クラス）・ビジネスプランニング・情報メディア・ヒューマンサービス・医療秘書の5コースを設置、神保町キャンパスで授業開始

平成21年4月

医療秘書・生活心理・企業経営・会計税務（特進クラス・一般クラス）の4コースに再編

職員名簿(平成二十一年度)

学校法人村田学園理事長・東京経営短期大学学長

村田女子高等学校校長・村田学園小石川女子中学校校長

亀田光昭
伊藤淑子

法人事務局

(五十音順)

四條英俊 西尾康三 二宮雄彦 細谷宣夫 持田進
青木梢 泉谷尚俊 伊藤博哉 市川郁子 犬塚奈保子
大川美香 景山廣美 春日雷蔵 金子雅人 木下寛美
倉田政子

小林隆司 後藤満朗 佐川敦子 篠崎誠二 清水亜沙美 鈴木清美 鈴木哲子 鈴木洋子 高館孝子 武雅裕 千葉充 釣巻米子 渡久地直美 長森清子 西村彩子 野呂由紀子 二渡道雄 前田一恵 松本祐 丸山智和 三浦美紀子 三木文武

東京経営短期大学

三田敦巳 南木綿子 村田しのぶ 茂出木 矢代川辰治 矢代浩平 山田みき 山田道夫 渡邊英志 石井典男 石川初男 市川恵造 今田茂司 岩淵昭子 遠藤昭尚 生石文行 大谷禎子 大橋信行 落合敏夫 北川清

木村敦郎 木村英幸 小林正彦 近藤豊敏 坂下勝彦 佐久間康 篠田絢子 渋谷謙作 鈴木康夫 寺村晴充 長濱晶文 仁水平鶴雄 野水美加 早川美加 藤井寛 本田公義 松江由美子 宮谷聡美 森田光則 安井良彰



村田学園 創立 100 周年記念事業 事業概要

ご 挨 拶 (趣意書)

2009 年 11 月、村田学園は創立 100 周年を迎えます。

村田学園は、明治 42 年 (1909 年) 簿記を日本の国民常識にと念じ、創立者村田謙造が東京神田一ツ橋通町に私塾「銀行会社事務員養成所」を興して以来、実学養成の社会的要請に応えてまいりました。

学園 100 年の歩みの中で、建学の精神として受け継がれてきたものが「有算者勝」の言葉です。創立者はこれを、「物事に緻密な計画性を持ってあたるならば必ず成就する」と説きました。実生活に直ちに役立つ知識技術の修得支援こそが村田の教育的使命と認識をしています。信念を貫くことが難しいといわれる今、改めて実学の重要性と必要性を発信し続ける覚悟です。

100 周年を機に、教育環境の整備充実の一環として、北軽井沢高原寮の改築と市川グラウンドの全天候化を進めております。教育面においては、東京経営短期大学では、実学教育と 2 年間で完成教育を約束し、村田女子高等学校においては、生徒の特性を伸ばす教育を徹底します。村田簿記学校は、中小企業の後継者育成を目指す教育機関として平成 19 年 4 月から専門学校村田経営義塾と改称し、新たな出発をします。

村田学園創立 100 周年記念事業の達成を通して、さらに未来への水先案内人として、社会に貢献してまいる所存であります。

何卒、事業の趣旨をご理解いただき、皆様方のご指導ご鞭撻と格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 19 年 7 月

学 校 法 人 村 田 学 園
理 事 長 亀 田 光 昭

村田学園創立100周年記念事業の進捗報告と 事業順位の整理について

謙照会会長 亀田 光昭

ご支援をいただいている皆様、お力をお寄せいただきましてありがとうございます。

おかげさまで、学園創立100周年記念事業の柱としておりました中学校がスタートラインに立つことができました。中学校の設置が許認可事業のため当初のパンフレット等の印刷物でお示しできず、お知らせが遅れまして申し訳ありませんでした。

記念募金開始2年目に入りますにあたり、事業の目的、募金事業の内容を整理しました。北軽井沢寮の建設は将来の目標と位置づけ、募金実績状況との関係でその実施時期を決める事とし、学生・生徒が直ちに必要とする教育環境の整備を先行することにいたしました。学園の目指します体験学習にもとづく論理的思考のできる女性の育成のための場合は当面、夏期のみは北軽井沢を用いますが、他の季節は協力企業の施設をお借りして実現を目指してまいります。さらに、村田照子先生のお姿に接したいとお声を皆様からいただき、胸像の製作を追加させていただきました。

学園の在校生も社会に向かい、あるいは新学年を前に目を輝かせて準備に入っております。

今後も、皆様からのご注目とご支援をいただけますよう心よりお願い申し上げます。

平成20年3月

整理後の事業目的

- ① 村田学園小石川女子中学校の設置(2007.12.3 正式認可証をいただきました。)
- ② 村田学園の教育研究環境の充実
 - ・ 村田学園の教育設備の充実
村田学園市川グラウンドの改修、村田学園の北軽井沢寮の改築(着工時期検討中)
 - ・ 教育研究に要する経常費支援
- ③ 情報発信システムの構築
- ④ 実学教育の拠点整備(神保町)
- ⑤ 前理事長村田照子先生の胸像制作
- ⑥ 100周年記念誌の編纂
- ⑦ 100周年記念事業募金の実施(記念事業に要する資金の調達)



村田学園 謙照会



村田学園創立 100 周年記念事業募金にご寄付をいただいた方は、
“村田学園謙照会” 会員とさせていただきます。

村田学園謙照会とは

村田学園謙照会は、1909 年に学園の前身である「銀行会社事務員養成所」が設立されて以来、実学教育こそ国の未来を創る礎として、生涯を人材育成に捧げてこられた学父村田謙造先生と学母村田照子先生を敬愛する心を表す名称です。建学、発展に尽力された学父学母にならない「村田学園の維持発展に寄与すること」を目的とし、謙照会を組織し、経常的に浄財を募り、学校の将来にわたる財政基盤の確立を図ることを目指しています。

謙照会会員とさせていただく方

- ① 村田学園が設置する学校の卒業生、現旧教職員、在校生又は卒業生の保護者、その他の支援者
- ② 法人、団体（同期会、クラブ OB 会、地域会等）

会員の種類

- 1 個人会員
- 2 賛助会員（法人又は団体）

村田学園謙照会会則（抜粋）

〔名称〕

第 1 条 本会は、村田学園謙照会（以下「謙照会」という。）と称する。

第 2 条 謙照会は、学校法人村田学園（以下「学園」という。）が設置する東京経営短期大学、村田女子高等学校及び村田簿記学校（村田経営義塾に校名変更、第 7 条において「学校」という。）の維持及び発展に寄与することを目的とする。

〔会員の種類〕

第 3 条 謙照会の目的達成のため学園への寄付者のうちから第 6 条に規定する役員会において承認した者を謙照会会員と称する。
なお、会員は以下のとおり分類される。

- 個人会員
- 賛助会員
- 法人又は団体

〔役員〕

第 4 条 謙照会に以下の役員を置く。

会 長	1 名
副会長	1 名
会 計	1 名
監 査	1 名

〔顧問〕

第 5 条 （省略）

〔常任謙照会〕

第 6 条 謙照会に、学園理事会の求めに応じて次に掲げる事項について審議し意見を述べるため常任謙照会を置く。

② 常任謙照会は謙照会の役員をもって組織する。

〔顕彰〕

第 7 条 常任謙照会は、謙照会の目的に賛同して学園に提出し、学校の発展に特に寄付したと認められた者を学園が定める顕彰制度の対象者として推薦することができる。

編集後記

明治、大正、昭和、平成と時代を紡いできた村田学園は、平成21年、創立100年を迎えた。学園の歩みを後生に伝えていくために、歴史の節目に記録を残すことは、今在る者の使命であろう。

百年史の編纂にあたっては、先行誌を基に以後の20年を増補する形をとり、第1章には学園全体の歴史を叙述、第2章以降では各校の今とこれからに焦点を当てた。

現在の学園が置かれている状況は、決して順風の下にあるわけではなく、記念誌作成にあたっても様々な制約があった。しかし、学園の歴史を綴っていく中で、これまで如何にして幾多の困難を乗り越えてきたか、そこは正しく記録したつもりである。この記念誌が、改めて創立者の建学の精神を感得するよすがとなり、学園のさらなる飛躍に資することを願うものである。

おわりに、寄稿者各位をはじめ、ご尽力をいただいた方々に、深く感謝の意を表する。

寺村 晴充

村田学園百周年記念誌

編集委員 寺村晴充 小田正生 長濱 巖 高舘 孝
西村彩子 佐久間康 宮谷聡美

発 行 2009年11月3日
発 行 者 学校法人 村田学園
制 作 有限会社 ピーアンドピー
印 刷 中島印刷株式会社
協 力 株式会社 東京プロカラー
梶原商会

